

静岡県立美術館年報

平成19年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2007

静岡県立美術館年報

平成19年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2007

目 次

平成19年度主要記事	4	美術館ボランティア・地域サポーター	72
展覧会活動 展覧会一覧	6	友の会活動	74
観覧者数一覧	7	評価活動	
（企画展）		平成19年度 美術館の評価活動	78
NHK日曜美術館30年展	8	展覧会 出品目録	
大正シック展	9	NHK日曜美術館30年展	80
名所絵の世界	11	大正シック展	83
（特別展）		名所絵の世界	87
ボックスアート	12	ボックスアート	90
ヴェネツィア絵画のきらめき	14	ヴェネツィア絵画のきらめき	97
ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展	16	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展	100
（県民ギャラリー共催展）		石田徹也ー悲しみのキャンパス	107
石田徹也ー悲しみのキャンパス	19	収蔵品展	112
清水船越小ー光のアート展	20	移動美術館	117
収蔵品展	21	管理運営	
移動美術展	22	関係法規	118
教育普及活動		組織・名簿	125
（一般向け） 講演会	23	歳入・歳出決算	126
美術講座	25	建築・設備概要	127
技法セミナー	27	利用案内	133
ギャラリートーク	28		
実技・鑑賞講座	29		
（子ども向け）実技・体験	31		
ワークショップ	35		
学校連携普及事業	36		
博物館実習	44		
対外活動（講座など）	46		
主要刊行物			
美術館ニュース「アマリリス」	48		
施設利用状況	49		
広報活動（含むHP）	51		
調査研究活動			
紀要の発行	52		
研究活動	53		
研究会	54		
各種資料整理	57		
収集活動と保存管理			
平成19年度新収蔵品	58		
収集点数一覧	63		
図書資料の収集・整理（映像資料の収集）	64		
館蔵品の貸し出し	65		
美術作品の補修	69		
保存活動	70		

平成19年度主要記事

3月30日	収蔵品展「新収蔵品展」(～5月20日)		
4月7日	企画展「ボックスアート」開幕(～5月20日)	8日	ミュージアムコンサート「愛の情景、水の調べーチェンバロと声楽によるルネサンス歌曲集」杉山佳代(チェンバロ)、服部礼子(ソプラノ)、ほか
22日	ボックスアート展特別講演会「戦後の日本文化とプラモデル」田宮俊作(㈱タミヤ代表取締役社長)、工藤健志(青森県立美術館学芸員)	9日	展示室整備などのため休館(～23日)
29日	ボックスアート展特別講演会「プラモデル黎明期とハセガワソリッドモデルからプラモデルへ」長谷川勝人(㈱ハセガワ常務取締役)	24日	企画展「NHK日曜美術館30年展」開幕(～8月31日)
30日	版画入門 木版画(4月30日、5月5～6日)		収蔵品展「日本画の名品」(～9月2日)
5月3日	ボックスアート展親子模型教室「ダンガンレーサーをつくって、遊ぼう!」		県民ギャラリー「石田徹也ー悲しみのキャンパス」主催:当館、石田徹也展実行委員会(～8月19日)
6日	ボックスアート展特別講演会「昭和初期のヴィジュアルイメージ」平瀬礼太(姫路市美術館学芸員)	28日	ミュージアムコンサート「名歌曲の花束ー日本の唱歌からオペラ・アリアまで」永崎京子(ソプラノ)、関奈美(メゾソプラノ)、福崎由香(ピアノ)
13日	ボックスアート展特別講演会「戦前の大衆メディア文化とボックスアート」村上敬(当館学芸員)	30日	平成19年度博物館実習(～8月4日)
19日	第1回美術館研究活動評価委員会	31日	夏休み子どもワークショップ「どっぶり日曜美術館」(～8月5日)
23日	収蔵品展「虹の美術館の軌跡」(～7月8日)	8月4日	NHK日曜美術館30年展特別講演会「日曜美術館での出会い」石澤典夫(NHKアナウンサー)
26日	企画展「ヴェネツィア絵画のきらめき」開幕(～7月8日)	5日	「石田徹也ー悲しみのキャンパス」講演会「石田徹也の視線、石田徹也への視線」山下裕二(明治学院教授、美術評論家)
6月2日	ヴェネツィア絵画のきらめき展フロアレクチャー(6月2日、24日)	9日	NHK日曜美術館30年展子ども鑑賞講座(8月9日、16日)
3日	ヴェネツィア絵画のきらめき展子ども鑑賞講座	25日	ミュージアムコンサート「諸田大輔フルート・リサイタル」
9日	ヴェネツィア絵画のきらめき展特別講演会「ゴルドーニとヴェネツィアの演劇文化」高田和文(静岡文化芸術大学教授)	9月5日	収蔵品展「戦前の日本美術」(～10月14日)
11日	第2回美術館研究活動評価委員会	8日	企画展「大正シック展」開幕(～10月14日)
16日	講演会シリーズ「風景」を考える「風景連続フォーラム・作家に聞く」中村宏(画家)	9日	大正シック展フロアレクチャー(9月9日、23日、30日、10月10日)
	虹の美術館の軌跡展フロアレクチャー	11日	創作週間イベント「箔とフロッタージュ」(～12日)
23日	ヴェネツィア絵画のきらめき展特別講演会「ヴェネツィア・ルネサンス絵画ー愛の主題を中心に(仮題)」越川倫明(東京藝術大学助教授)	16日	沼津市移動美術展「曽宮一念と地域の作家たち」(～30日:沼津市庄司美術館 モン・ミュゼ沼津)
	富士宮市移動美術展「曽宮一念と地域の作家たち」(～7月2日:富士宮市民文化会館)	21日	移動美術展・出張美術講座(～28日)
25日	移動美術展・出張美術講座(～7月2日)	22日	大正シック展普及事業「シルクスクリーンで大正シックなテーブルウェアを作る」(～24日)
30日	ヴェネツィア絵画のきらめき展実技講座「大人のヴェネツィア派塗り絵講座」	24日	ほっと一息お茶講座
7月1日	ヴェネツィア絵画のきらめき展特別講演会「まなざしの自由ーヴェネツィア絵画の魅力」金井直(信州大学人文学	10月6日	大正シック展子ども鑑賞講座
		8日	大正シック展ボランティアによるお煎茶サービス
		17日	収蔵品展「草間彌生の世界」(～11月18日)
		20日	第47回静岡県芸術祭開幕(～11月4日)

	版画入門 銅版画 (～21日)		ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展普及事業「大地のいと信仰のかたち」(～3日)
21日	草間彌生の世界こども鑑賞講座 (10月24日、11月17日)	5日	県民ギャラリー「発掘された仏教遺跡・遺物―しずおかの発掘最前線―」主催：静岡県教育委員会
11月9日	企画展「名所絵の世界」開幕 (～12月19日)	10日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「大谷探検隊の西域調査」入澤崇 (龍谷大学教授)
10日	絵画ワークショップ「ドット若冲～樹花鳥獣図屏風・牛の巻き～」(～11日)	16日	「チャイハナお茶会」ボランティアグループ、草薙ツアーグループ
11日	講演会シリーズ「風景」を考える「風景―視線の双方向性―絵画 自作に沿って」母袋俊也 (画家・東京造形大学教授)	19日	収蔵品展「静岡ゆかりの画家たち」(～3月30日)
17日	第4回草薙のんびりツアー 第3回美術館研究活動評価委員会	24日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「世界遺産バーミヤン仏教遺跡の今昔」前田耕作 (和光大学名誉教授)
18日	名所絵の世界展特別講演会「名所絵と旅と風景」鈴木廣之 (東京学芸大学教授)	3月9日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「ほとけの道―ガンダーラからバーミヤンへ―」山田明爾 (龍谷大学名誉教授)
20日	収蔵品展「西洋絵画コレクションより」(～12月24日)	12日	第4回美術館研究活動評価委員会
23日	名所絵の世界展特別講演会「名所から景観へ―京都東山をめぐる考察―」並木誠士 (京都工芸繊維大学大学院教授)	16日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「バーミヤンの仏教美術」宮治昭 (当館館長、龍谷大学特任教授)、「バーミヤン大仏の最後を撮る」菅沼隆二 (写真家)
25日	名所絵の世界展フロアレクチャー (11月25日、12月2日)	20日	美術講座「日本画をじかに見る」
12月4日	県民ギャラリー「清水船越小 光のアート展」主催：当館、清水船越小学校	23日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「バーミヤン遺跡保存の現在」山田和也 (東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター 地球環境研究室長)
9日	名所絵の世界展鑑賞講座 飯田真 (当館学芸課長)	29日	絵画ワークショップ「マインドスケープ」(～30日)
28日	企画展「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」開幕 (～3月30日) 収蔵品展「インド・中国へのまなざし」(～2月17日)	通月	創作週間 (毎月原則第3週開室：通算92日) ロダン館デッサン会 (毎月原則第3金・土曜日：通算24日) 粘土開放日 (毎月原則第4日曜日：通算12日) 絵の具開放日 (毎月原則第1日曜日：通算10日) 土曜工作室 (毎月原則第4土曜日：通算12日) 色彩アトリエ (毎月原則第1土曜日：通算10日) ギャラリートーク (企画展51回、収蔵品展45回、中学生文化芸術鑑賞講座36校、その他15回)
1月6日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「ガンダーラの遺跡と美術 (清水銀行PRESENTS)」宮治昭 (当館館長、龍谷大学特任教授)		
9日	中学生文化芸術鑑賞推進事業 (～29日)		
12日	版画入門 リトグラフ (～14日)		
13日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「ガンダーラの仏伝美術」小泉恵英 (東京国立博物館 文化財部展示課平常展室主任研究員)		
19日	ロダン館ミュージアムコンサート「ガンダーラの響きは地平を越えて」HIROS (バーンスリー (横笛))、クル・ブーシャン・パールカヴァ (タブラー (太鼓))		
27日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展連続講演会「ガンダーラ美術と東西文化交流―神像表現を中心に―」田辺勝美 (中央大学教授)		
2月2日	インド音楽コンサート「ガンダーラ 天上の音律」宮下節雄 (サントゥール)、都築弘 (タブラ)		

本 館

	1	2	3	4	5	6	7	ロダン館第2
4 APRIL	4/7(土)～5/20(日) 39日間 *5/1特別開館 ボックスアート ～プラモデルパッケージと戦後の日本文化 プラモデルのパッケージ、雑誌、戦時画集などの平面イメージと教育模型、ジオラマなど、大衆視覚イメージの変遷を狂言廻しに、近現代日本文化の一側面を探る。						3/30(金)～5/20(日) (19/44日間) 新収蔵品展 (GW若沖展示) *若沖のみケース展示にするため、ロダン撤収後パネル出し	
5 MAY	5/26(火)～7/8(日) 38日間 ヴェネツィア絵画のきらめき ～栄光のルネサンスから華麗なる18世紀へ～						5/23(水)～7/8(日) (41日間) 「虹の美術館」の軌跡 ～清水に花開いた NPO美術館～ 観覧、グループ幻触など	
6 JUNE	7/9(月)～23(月) 館内整備のため休館(展示室、荷解場、県民ギャラリー・ブンガノン殺虫) (ロダン館屋根修繕、床清掃、ソーラーシステム修繕、ガラス清掃)							
7 JULY	7/24(火)～8/31(金) 34日間 NHK日曜美術館の30年展 名品と映像でたどる、とっておきの美術案内						7/24(火)～9/2(日) (36日間) 日本画の名品 ～横山大観など～	7/24(火)～9/2(日) ロダンの友人たち、 同時代人たち
8 AUGUST	9/8(土)～10/14(日) 32日間 懐かしい、新しい 大正シック展 ～あるアメリカ人女性が愛したコレクションの里帰り～						9/5(水)～10/14(日) (35日間) 「戦前」の 日本美術 ～ほんやりとした不安	9/5(水)～10/14(日) 挿絵画家ロダン ～『拷問の庭』～
9 SEPTEMBER	10/20(土)～11/4(日) 14日間 静岡県芸術祭						10/17(日)～11/18(日) (29日間) 草間彌生の 世界 ～同時代の作家も 交えて	10/16(火)～11/18(日) ロダンの愛したイタリア ～西洋の版画より～
10 OCTOBER	11/9(金)～12/19(水) 35日間 心の風景 名所絵の世界 ～時代を超えて、今よみがえる日本人の想い～						11/20(火)～12/24(月) (31日間) 西洋絵画 コレクションより ～空のうた、 風のささやき～	11/20(火)～12/24(月) 異国に魅せられて ～日本人洋画家による フランス風景～
11 NOVEMBER	12/31(日)～1/1(月) 年末年始休館							
12 DECEMBER	12/28(金)～3/30(日) 80日間 宮治昭館長就任記念 ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 ～日本国内のガンダーラ至宝を初めて集大成し、バーミヤン遺跡の謎に迫る。～						12/28(日)～2月17(日) (45日間) インド・ 中国への まなざし ～秋野不矩を 中心に～	2月19(日)～3月30(日) (36日間) 静岡ゆかり の画家たち
1 JANUARY								
2 FEBRUARY								
3 MARCH								

■観覧者数一覧

展 覧 会 名	会 期		観 覧 者 数				
	期 間	日 数	一般・大学	小・中・高	招 待	合 計	1日平均
ボックスアート	4／7－5／20	39 ^日	11,613 ^人	1,525 ^人	3,860 ^人	16,998 ^人	436 ^人
ヴェネツィア絵画のきらめき	5／26－7／8	38	10,239	668	6,387	17,294	455
N H K日曜美術館30年展	7／24－8／31	34	15,963	1,776	12,272	30,011	883
大正シック展	9／8－10／14	32	5,890	390	4,352	10,632	332
名所絵の世界	11／9－12／19	35	4,272	323	4,389	8,984	257
ガンダーラ美術とパーミヤン遺跡	12／28－3／30	80	40,808	2,670	29,570	73,048	913
小 計		258	88,785	7,352	60,830	156,967	608
収蔵品展	4／1－3／30	296	9,258	5,728	3,210	18,196	61
第47回静岡県芸術祭	10／20－11／4	14			9,372	9,372	669
合 計		296	98,043	13,080	73,412	184,535	623
移動美術展（富士宮市）	6／23－7／2	12	－	－	2,316	2,316	193
〃（沼津市）	9／16－9／30	15	－	－	798	798	53

注） 1 夜間開館の観覧者数328人（5日間※）

※NHK日曜美術館30年展開催中の土曜日

注） 2 県民の日にかかる無料開放日（8月21日）の観覧者数は2,244人

■年度別観覧者数

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746 人	平成 6 年度	410,182 人	平成14年度	170,390 人
昭和62年度	174,031	平成 7 年度	245,028	平成15年度	184,095
昭和63年度	214,156	平成 8 年度	178,701	平成16年度	146,706
平成元年度	229,258	平成 9 年度	127,299	平成17年度	129,768
平成 2 年度	233,904	平成10年度	153,099	平成18年度	222,608
平成 3 年度	190,361	平成11年度	107,977	平成19年度	184,535
平成 4 年度	173,665	平成12年度	146,833	累 計	4,395,603
平成 5 年度	218,921	平成13年度	207,340		

N H K 日曜美術館の30年展

名品と映像でたどる、とっておきの美術案内

主 催：静岡県立美術館、NHK静岡放送局、
NHK中部ブレイズ
後 援：文化庁
協 賛：大日本印刷、三井住友海上
協 力：松下電器
企画協力：NHKエデュケーショナル
会 期：平成19年7月24日(火)～8月31日(金)
〈34日間〉
開館時間：午前10時～午後5時30分
＊入場は閉館の30分前まで
夜間開館：毎週土曜日は午後8時まで開館
(入場は午後7時30分まで)
休 館 日：毎週月曜日

■展覧会の概要

毎週日曜日にNHK教育チャンネルで放映されているテレビ番組「新日曜美術館」が、昨年(2006年)、放送開始30周年を迎えるにあたり企画された記念展である。同番組は1976年4月の放送開始から、放送回数が1500回を超え、美術番組の草分け的存在として、多くのファンに親しまれてきた。

展覧会では、これまで放送で取り上げた作品・作家の中から、特に印象に残る作品・作家に焦点をあて、番組で紹介した作品を中心に76点を展示したほか、美術品の展示に加え、展示会場内にテレビモニターを6台設置し、懐かしい出演者が作品・作家への強い思いを込めて語る様子や、作家本人のアトリエでの制作風景など、貴重な映像も紹介した。

■展覧会の構成

- 第1章 夢の美術案内
- 第2章 作家が作家を語る
- 第3章 アトリエ訪問
- 第4章 知られざる作家へのまなざし

■関連事業

「日曜美術館での出会い」

8月4日(土)午後2時～3時30分

講師：石澤典夫氏(NHKアナウンサー)

1997年4月～2003年3月 NHK新日曜美術館司会

入場者数250名

○子ども鑑賞講座

8月9日(木)、8月16日(木) 午後2時～3時

参加者 各回20名

○ミュージアムコンサート

「名歌曲の花束—日本の唱歌からオペラ・アリアまで」

7月28日(土) 午後2時～3時30分

※永崎京子(ソプラノ)、関奈美(メゾソプラノ)、
福崎由香(ピアノ)

入場者数 200名

○ミュージアムコンサート

「諸田大輔 フルート・リサイタル」

8月25日(土)

第1部 午後3時～4時

第2部 午後5時30分～6時30分

入場者数 500名

■カタログ

22.5×29.7cm 271ページ

発 行：NHK、NHKプロモーション

編 集：NHK、NHKプロモーション

- ・エッセイ(執筆者)大岡信、平山郁夫、栗津則雄、
安藤忠雄、赤瀬川原平、辻惟雄、日比野克彦、森
村泰昌、草薺奈津子
- ・座談会「日曜美術館—人と美術の交わる場所」
- ・資料編 出品リスト、出品作家・出演者プロフィール、
「日曜美術館」番組放送記録



◀ チラシ

大正シック

—あるアメリカ人女性が愛したコレクションの里帰り

主 催：静岡県立美術館、静岡第一テレビ
 会 期：平成19年9月8日(土)～10月14日(日)
 <32日間>
 休 館 日：毎週月曜日
 (ただし、月曜祝日の場合は開館、翌火曜休館)
 開館時間：午前10時～午後5時30分
 (入室は午後5時まで)
 観覧料：一般・大学生900円(700円)、
 小・中・高生400円(300円)、70歳以上無料
 ※ () 内は団体または前売料金
 巡回会場：東京都庭園美術館(4/14～7/1)
 尼崎市総合文化センター(7/28～8/26)
 尾道市美術館(10/20～12/16)

明治と昭和にはさまれた大正時代は、15年という短い期間だったが、大正デモクラシーの気運とともに個人の主観性やロマンチズムを尊重する気風が生まれ、西洋モダニズムやアール・デコの影響を受けた独特の文化が花開いた。

本展は、世界的に高い評価を得ているホノルル美術館の日本美術コレクションから、人間性豊かでロマンティックな香りを漂わせた大正時代から昭和戦前期にかけての作品を、同館の学芸員が選定し、構成したものである。ホノルルで開催された後、アメリカ各地を巡回して好評を博し、日本での里帰り展として全国4会場を巡回した。モガなどの時代風俗を描いた日本画、アール・デコの影響を受けた斬新な柄の着物など約80点を展示。核となったのは、パトリシア・サーモンという一人のアメリカ人女性によって日本で収集された作品群であり、彼女の目を通した大正時代のイメージは、私たち日本人がこれまで気づかなかった魅力を秘めたものであった。

展示室には特に章立てを設けず、多ジャンルにまたがる作品を取りまぜて展示した。さらに、大正から昭和初期の雰囲気味わってもらうため、「アンティーク デジャヴ」(静岡市駿河区池田)から特別のご協力をいただき同時代の家具類を借用、展示室入口及び室内に配置し、鑑賞にあたってイメージを膨らませるための一助とした。



▲ チラシ

■関連事業

フロアレクチャー

「きもので読み解く大正シック」

9月23日(日)、10月10日(水) 14:00～

ゲスト講師：日比野鈴子氏(夢や)

「学芸員による作品解説」

9月9日(日)、30日(日) 14:00～

子ども鑑賞講座

10月6日(土) 14:00～

ボランティアによるお煎茶サービス

10月8日(月・祝) 11:00～14:00 正面玄関前

特別サービス「着物でお得な大正シック」

会期中の土曜・日曜・祝日に和装で来館された方には、共催「静岡第一テレビ」より本展招待券をプレゼント

■カタログ

25.5×25.5cm 179ページ

はじめに

ホノルル美術館館長 スティーブン・L・リトル
 感謝のことば

カリフォルニア大学 ケンドール・H・ブラウン
 論文

「大正の花々 日本女性のイメージ その社会と芸術
1915～1935」 ケンドール・H・ブラウン

図版と解説

絵画と版画 ケンドール・H・ブラウン

装飾美術 パトリシア・サーモン

き も の 玲子・持永・ブランドン

大正時代の流行歌の本 えりこ・飯島・ドリック、
アニー・ヴァン・アセッシュ

Greater Tasiho, Japan 1900-1930 Sharon A. Minichiello
Selected Bibliography

■出品目録

p.83～p.86参照

心の風景 名所絵の世界

主 催：静岡県立美術館
 助 成：財団法人 地域創造
 会 期：平成19年11月9日(金)～12月19日(水)
 休館日：毎週月曜日
 会 場：第1～6展示室
 観覧料：一般・大学 800円(600円)
 小・中・高生 400円(300円)
 70歳以上 無料
 () 内は前売、20名以上団体料金

四季おりおりの風情に彩られた日本の風景一。人々は古来、その恵まれた自然美に親しんできた。絵画の世界においても、美しい日本の風景を題材にかずかずの名作が生まれている。しかし、中国から移植された「山水画」の様式を範に展開した日本絵画の風景表現において、日本の風景を描いた絵画は必ずしも主流を始めていたわけではない。その中において、重要な絵画ジャンルが「名所絵」である。「名所絵」とは、元来、日本各地の「名ある所」を、和歌のイメージに即して絵画化したもので、平安時代に生まれて以降、大和絵系の絵師を中心に継承され、時代を超えて大きな伝統になった。中世・近世そして近代と、日本の風景表現は多彩な展開を遂げるが、「名所絵」の伝統は日本の風景を描くさまざまな絵画で見ることができる。それほどに、日本人の風景観に深く根ざしたものであったといえよう。

本展では、「名所絵」の伝統がいかに継承され、また変容していったか、その諸相を名品により紹介し、「名所絵」が日本絵画の風景表現において、どのような意味をもっていたかを考察した。

■展示構成

- I. 描き継がれた日本の名所
- II. 京名所・近江名所
- III. 富士・三保松原・鳶の細道～静岡と名所
- IV. 江戸から東京へ～浮世絵にみる名所絵

■関連事業

- ・特別講演会 11月18日(日) 14:00～／当館講堂
「名所絵と旅と風景」
講師／鈴木廣之氏(東京学芸大学教授)
- ・特別講演会 11月23日(金祝) 14:00～／当館講堂
「名所から景観へ～京都東山をめぐる考察～」

- 講師／並木誠士氏(京都工芸繊維大学大学院教授)
- ・鑑賞講座 12月9日(日) 14:00～／当館講座室
「名所絵の世界」講師／飯田 真(当館学芸課長)
- ・学芸員によるフロアレクチャー
11月25日(日)・12月2日(日) 14:00～／展示室
講師／森充代・福士雄也(当館学芸員)

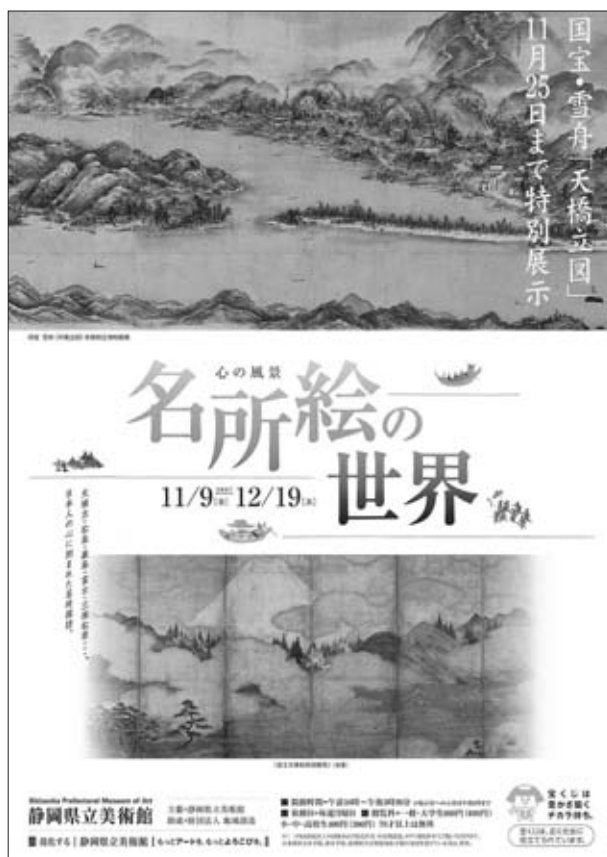
■カタログ

27.5×21.0cm 120 p

- ・エッセイ
「名所絵と旅と風景」鈴木廣之
「江戸時代の絵画と名所絵」飯田真
- ・図版
- ・名所絵関連地図、出品目録・作品解説

■出品目録

p.87～p.89参照



▲ チラシ

「ボックスアート — プラモデルパッケージと戦後の日本文化」展

主 催：静岡県立美術館、テレビ静岡
共 催：中日新聞東海本社、中日ショッパー
後 援：静岡県教育委員会、静岡県観光協会、K-MIX
協 力：(株)タミヤ、(株)ハセガワ、(株)アオシマ文化教材社、(株)バンダイ、ロックウェーブ
監 修：工藤健志(青森県立美術館学芸員)
企画協力：モマ・コンテンポラリー
会 期：平成19年4月7日(土)～5月20日(日)
休 館 日：毎週月曜日(ただし、GW中の4月30日(祝)～5月6日(日)は無休)
観 覧 料：一般・大学 900円(700円)
小中高生 400円(300円)
70歳以上 無料
※() 内は20名以上の団体および前売料金。

■概要

戦車、飛行機、船、ロボット…。昭和30年代初頭、プラモデルという新しいホビーが日本にやってきた。夢や憧れの対象をみずから組み立て所有できるという魅力が子供たちを惹きつけ、プラモデルは大きな発展を遂げて現在に至っている。ワクワクしながらパーツを組み立て形にしていく喜びは、プラモデルならではの醍醐味であろう。

そのプラモデルキットの「顔」となるのがボックスアート(箱絵)である。消費者の購買意欲を高める目的で描かれたボックスアートは、やがてパッケージ装飾という役割を超えていく。作る過程で完成形を想起する「資料」として、あるいは空想の世界を生み出す「素材」として、独自の発展を遂げていくこととなるのである。

また、絵画としてのボックスアートは、戦中から戦後にかけて氾濫したヴィジュアルイメージを引き継いで成立している。それはまさに戦後の大衆的な表現の主流をなすものであり、戦後の日本社会を検証する上でも注目すべきものと言える。本展は、戦時下の視覚文化が戦後どのように継承されていったのかを、ボックスアートというメディアをとおして検証する試みである。

展示室では、プラモデル草創期から現在に至るまで世に送り出された、時代を代表するプラモデルのボックスアート約160点を紹介するとともに、戦中・戦後の教材模型からソリッドモデル(木製模型)を経てプラモデルが誕生する過程を各種資料で振り返りつつ、ボッ

クスアートの絵画様式が成立した要因を探った。併せて、懐かしいプラモデルの数々や、国内を代表するモデラーによるジオラマ作品も展示し、プラモデルの歴史を総体的に紹介することを試みた。静岡県は日本におけるプラモデル産業の中心地として知られており、「ホビーのまち」を標榜する静岡で本展を開催できたことは、地元産業との連携と意味でも意義深いことであった。

■関連事業

(1)特別講演会

※いずれも当館講堂にて14:00～15:30。

第1回：4月22日(日)

講師：田宮俊作氏(株式会社タミヤ代表取締役社長)、
工藤健志氏(青森県立美術館学芸員)

演題：戦後の日本文化とプラモデル

第2回：4月29日(日・祝)

講師：長谷川勝人氏(株式会社ハセガワ常務取締役)
演題：プラモデル黎明期とハセガワソリッドモデルからプラモデルへ

第3回：5月6日(日)

講師：平瀬礼太氏(姫路市美術館学芸員)
演題：昭和初期のヴィジュアルイメージ

第4回：5月13日(日)

講師：村上敬(当館学芸員)
演題：戦前の大衆メディア文化とボックスアート

(2)親子模型教室「ダンガンレーサーをつくって、遊ぼう！」

5月3日(木) 14:00～16:00

参加無料。対象は小中学生の親子各日先着40組(計80名)。タミヤスタッフが講師を務めた。

■図録

29.5×21.0cm 188ページ

・論文

タミヤ模型のデザイン その黎明期／田宮俊作

ボックスアートの魅力／平野克己

戦争画とシミュレーションイズム／榎木野衣

「プラモデル」と「ボックスアート」～その成立と展開に関する一考察／工藤健志

・カタログ

序章 プラモデル前夜 昭和初期のヴィジュアルイメージ

- 第1部 1950－1960年代
- 第2部 1970－1980年代
- 第3部 1990－現代
- 第4部 キャラクターモデル
- ・出品リスト
- 作家略歴
- 資料：プラモデル前夜／村上敬
- 関連年表

■関連記事

- ・5月8日(火)
「プラモ少年あこがれの完成形」『朝日新聞』東京本社朝刊文化欄（西田健作記者）
- ・5月25日(金)
「戦争画はつづくよ」『芸術新潮』6月号「スターダスト」欄（無記名）

■出品目録

p.90～p.96参照

BOX ART
Plastic Models and Japan's Postwar Culture

プラモデルの中に、あの頃の自分がある。

2007 4/7 SAT > 5/20 SUN

プラモデルパッケージ原画と
戦後の日本文化 **プラモデル前夜**

Shizuoka Prefectural Museum of Art

展示する | 静岡県立美術館 | もっとアート、もっとよこひら。

▲ チラシ

ヴェネツィア絵画のきらめきー栄光のルネサンスから華麗なる18世紀へ

主 催：静岡県立美術館・静岡新聞社・静岡放送
後 援：イタリア大使館
協 力：アリタリア航空、ヤマトロジスティクス株式会社
企画協力：アイデア・ジャポン
会 期：平成19年5月26日(土)～7月8日(日)
休 館 日：毎週月曜日

パオルッチョ・アナフェストが初代統領^{ドージェ}に選出された697年からナポレオンとの戦争に敗れる1797年までの1,100年間、ヴェネツィアは揺るぎない繁栄を謳歌してきた。本展は、ヴェネツィアの歴史の中で、芸術の都として名を馳せた15世紀から18世紀の300年間に焦点を当てた。線、すなわち素描を重視した同時代のフィレンツェ絵画とは対照的に、ヴェネツィア絵画は豊穡な色彩とタッチを生かしたスタイルを確立し、展開した。本展は、1. 宗教・神話・寓意 2. 統領のヴェネツィア^{ドージェ} 3. 都市の相貌 の3つのセクションから構成された。

出品作品は、ティツィアーノやティントレットらによる宗教画や神話画、華やかな統領の肖像画、そしてカナレットやベロットによるヴェドゥータ（都市景観画）やロンギによる風俗画まで、約70点の絵画作品であり、いずれもイタリアの美術館と個人所蔵家のコレクションである。在日イタリア大使館による「日本におけるイタリア2007・春」の公認イベント。

展示室では、聖書やギリシア神話など、日本ではあまり馴染みがない主題について平明に解説したパネルを多数設け、西洋美術への導入とした。

■カタログ

22.6×28cm 216頁

発 行：アイデア・ジャポン
編 集：豊田市美術館・静岡県立美術館
デザイン：山鹿眞琴

あいさつ メッセージ
ヴィンチェンツォ・サンフォ「ヴェネツィア絵画と『新世界』」
アドリアーナ・アウグスティ「ヴェネツィア絵画史：ルネサンスよりヴェネツィア共和国の崩壊に至るまで」

第Ⅰ章 宗教・神話・寓意

図版・作品解説

アウグスト・ジェンティーリ「花嫁と女神」
クラウディオ・ストリナーティ「ヴェネツィア・パロックの神々とエロスたち」
フィオレッラ・ミネルヴィーノ「ティエポロ」

第Ⅱ章 統領のヴェネツィア^{ドージェ}

図版・作品解説

岡田温司「多島海（アルチペラゴ）の文化と芸術」

第Ⅲ章 都市の相貌

図版・作品解説

バベット・トレヴィザン「クエリーニ・スタンパリア美術館ーある一族のコレクション」
金井 直「ヴェネツィア絵画、絵画的」

ヴェネツィア地図 作家解説 出品作品リスト ヴェネツィアとヴェネツィア絵画をめぐる文献 作品データ 個別文献（伊語）

■関連事業

□特別講演会

*いずれも、午後2時～3時30分。当館講堂。

6月9日(土)

「ゴルドーニとヴェネツィアの演劇文化」高田和文氏（静岡文化芸術大学教授）

6月23日(土)

「ヴェネツィア・ルネサンス絵画ー愛の主題を中心に」越川倫明氏（東京藝術大学准教授）

7月1日(日)

「まなごしの自由ーヴェネツィア絵画の魅力」金井直氏（信州大学人文学部准教授）

□学芸員によるフロア・レクチャー

6月2日(土)、24日(日) 午後2時～3時

□子ども鑑賞講座

6月3日(日) 午後2時～3時30分

□実技講座

「大人のヴェネツィア派塗り絵講座」

6月30日(土) 午前10時30分～午後4時15分

□ミュージアム・コンサート

「愛の情景、水の調べーチェンバロと声楽によるルネサンス歌曲集」

7月8日(日) 午後2時～3時、ロダン館

杉山佳代氏（チェンバロ）、服部礼子氏（ソプラノ）、ほか

■紹介記事

『静岡新聞』紙上で、計5回の作品紹介・解説

『新美術新聞』1123（6月21日）号

The Japan Times, Thursday, June 14.

■出品目録

p.97～p.99参照



▲ チラシ

ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展

～日本国内のガンダーラ至宝を初めて集大成し、バーミヤン遺跡の謎に迫る～

主 催：

【静岡展】 静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送、ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展実行委員会

【福岡展】 福岡アジア美術館、西日本新聞社、TVQ九州放送、ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展実行委員会

【福井展】 福井市美術館、福井新聞社、FBC福井放送、ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展実行委員会

後 援：外務省、文化庁、日本ユネスコ協会連盟

協 力：東京国立博物館、東京文化財研究所、流出文化財保護日本委員会、平山郁夫シルクロード美術館、龍谷大学、京都大学、名古屋大学、古代オリエント博物館、MOA美術館、阿含宗、真如苑、筑紫女学園(福岡会場)

特別協賛：清水銀行（静岡会場）

監 修：宮治昭（静岡県立美術館館長、龍谷大学特任教授）

館内音楽・音楽監修：タケカワユキヒデ

会期・会場：

静岡県立美術館

2007(平成19)年12月28日(金)～

2008(平成20)年3月30日(日)

福岡アジア美術館

2008(平成20)年4月10日(木)～5月18日(日)

福井市美術館

2008(平成20)年5月28日(水)～7月6日(日)

■主旨

2001年3月、アフガニスタン・バーミヤンの二体の巨大仏がタリバンによって破壊され、世界に大きな衝撃を与えた。現在、日本政府が資金援助をし、ユネスコ事業として、日本、ドイツ、イタリアが分担してバーミヤン遺跡の修復、保存事業を進めており、アフガニスタンの復興とともに世界の人々の関心をよんでいる。

パキスタンとアフガニスタンの仏教美術は、インドはもとより、ギリシア・ローマ、ペルシアの諸文化が融合し成立したもので、インドからの仏教美術が大きく発展し、その後の中国・韓国・日本の仏教美術の源流ともなった。とりわけガンダーラ美術はギリシア・ローマの彫刻技法とインドの仏教とが融合した仏教美術で、仏像が誕生し、釈迦の生涯を表した仏伝浮彫り、菩薩像や守護神などが造られ、その主題はバラエティーに富み、アジアの仏教の原点といえる。また、ガンダー

ラ美術は中央アジアで大きく発展し、アフガニスタンのバーミヤン美術を生み出した。

日本にはパキスタンについて多くの優れたガンダーラ美術のコレクションがあり、本展ではその中から優品を選び、未紹介の作品を数多く展示する。壮大なバーミヤン遺跡と美術のかつての様相を写真パネル、模型、測量図、スケッチ図など用いて、その全貌を展示する。同時に、現在進められているバーミヤン遺跡の修復保存の状況や、壁画のC14年代測定や顔料分析の結果など最新の研究状況を提示する。さらに、中国新疆の大谷探検隊の収集品も展示して、仏教美術が異文化を吸収しながら発展していった様相を写真パネルや図を用いて分かりやすく示し、中国や日本の仏教美術とも比較しながら展示する。なお展覧会場内では、かすかな環境音楽を流し、作品の鑑賞体験を促進する試みを行った。その音楽設計をタケカワユキヒデ氏に依頼した。

■関連事業

○連続講演会

・「ガンダーラの遺跡と美術」(清水銀行PRESENTS)

1月6日(日) 当館講堂にて

講師：宮治昭（当館館長、龍谷大学特任教授）

聴講者200人

・「ガンダーラの仏伝美術」 1月13日(日) 当館講堂にて

講師：小泉恵英氏（東京国立博物館 文化財部展示課平常展室主任研究員）

聴講者300人

・「ガンダーラ美術と東西文化交流－神像表現を中心に」 1月27日(日) 当館講堂にて

講師：田辺勝美氏（中央大学教授）

聴講者400人

・「大谷探検隊の西域調査」 2月10日(日)

静岡県立大学・大講堂にて

講師：入澤崇氏（龍谷大学教授）

聴講者580人

・「世界遺産バーミヤン仏教遺跡の今昔」

2月24日(日) 静岡県立大学・大講堂にて

講師：前田耕作氏（和光大学名誉教授）

聴講者680人

・「ほとけの道－ガンダーラからバーミヤンへ－」

3月9日(日) 静岡県立大学・大講堂にて

講師：山田明爾氏（龍谷大学名誉教授）

聴講者610人

・「バーミヤンの仏教美術」 3月16日(日)

静岡県立大学・大講堂にて

講師：宮治昭（当館館長、龍谷大学特任教授）

・「バーミヤン大仏の最後を撮る」 3月16日(日)

静岡県立大学・大講堂にて
講師：菅沼隆二氏（写真家） 聴講者690人
・「バーミヤン遺跡保存の現在」 3月23日（日）

静岡県立大学・大講堂にて
講師：山田和也氏（東京文化財研究所 文化遺産国際
協力センター 地域環境研究室長） 聴講者480人

＊「ガンダーラ博士をめざそう」

講演会を4回以上受講した参加者に、宮治昭館長の
修了証書と本展招待券を発行する。 修了者299人。

○コンサート

・ロダン館ミュージアムコンサート「ガンダーラの響
きは地平を越えて」

1月19日（土） 14：00～15：30 ロダン館にて

聴講者300人

バーンスリー（横笛）奏者：HIROS、タブラー（太鼓）

奏者：クル・ブーシャン・パールカヴァ

・インド音楽コンサート「ガンダーラ 天上の音律」

2月2日（土） 14：00～15：20 講堂にて

聴講者200人

サントゥール奏者：宮下節雄、タブラ奏者：都築弘

○「チャイハナお茶会」

主催：静岡県立美術館ボランティアグループ・草薙
ツアーグループ 2月16日（土）

■カタログ

監修・編集：宮治昭（静岡県立美術館館長、龍谷大学
特任教授）

英文翻訳：福山泰子（日本学術振興会特別研究員）

発行：静岡新聞社・静岡放送 事業局

印刷：星光社印刷（株）

仕様：A4 変形（30×22.6cm） 216ページ

内容：図版、章解説、作品解説

謝辞・ご挨拶、年表、参考文献、作品一覧、タケカワ
ユキヒデ「美術館の『音楽デザイン』」

論文・樋口隆康「京都大学中央アジア学術調査隊の業
績」、平山郁夫「仏教美術の源流を訪ねて」、宮治昭
「仏像の故郷ーガンダーラ」、小泉恵英「ガンダーラの
仏伝美術と転輪聖王」、田辺勝美「ガンダーラ仏教美
術に見る東西文化交流」、前田耕作「バーミヤン仏教
遺跡の昔と今」、入澤崇「大谷探検隊とガンダーラ」、
山内和也「バーミヤン遺跡保存の現在」、谷口陽子／
岩井俊平「バーミヤン遺跡の調査」、中村俊夫「バー
ミヤンの石窟壁画と2大仏の放射性炭素年代測定の研究」、
松田和信「バーミヤン溪谷の仏教写本」

■関連記事

（新聞）

- ・宮治昭「仏像の出現とその意味 上 ガンダーラ仏
の誕生」『中日新聞』 07年10月21日
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 1」
『静岡新聞』 07年12月17日
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 2」
『静岡新聞』 07年12月18日
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 3」
『静岡新聞』 07年12月19日
- ・前田たつひこ「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展
4」『静岡新聞』 07年12月21日
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 5」
『静岡新聞』 07年12月22日
- ・「仏像など慎重に配置 ガンダーラ美術とバーミヤ
ン遺跡展 28日開幕へ着々」『静岡新聞』 07年12月
26日
- ・「ガンダーラ バーミヤン 仏教美術を集大成 県
立美術館 きょうから一般公開」『静岡新聞』 07年
12月28日
- ・「仏教美術の至宝 来場者を魅了 県立美術館で開
幕」『静岡新聞』 07年12月28日
- ・「大自在」『静岡新聞』 07年12月29日
- ・「仏像の美を紹介 館長 ガンダーラ展で講演」『静
岡新聞』 08年1月7日
- ・宮治昭「窓辺 隠居性格には遠く」『静岡新聞』
08年1月7日
- ・「ガンダーラ展連続講演 仏伝美術を解説」『静岡新
聞』 08年1月14日
- ・宮治昭「窓辺 日本人の美意識」『静岡新聞』 08年
1月14日
- ・「仏教美術の魅力に迫る ガンダーラ美術とバーミ
ヤン遺跡展 開催中」『静岡新聞』 08年1月16日
- ・「ガンダーラ展1万人」『静岡新聞』 08年1月17日
- ・宮治昭「窓辺 両極の一致」『静岡新聞』 08年1月
21日
- ・「ガンダーラ展 音楽監修タケカワユキヒデ 光や
香りのように」『静岡新聞』 08年1月28日
- ・宮治昭「窓辺 バーミヤンの感動」『静岡新聞』
08年1月21日
- ・「水曜アート 仏頭 悟りと欲のバランスは」『朝日
新聞』 08年1月30日
- ・「インド音楽 情緒豊かに 企画展に合わせて演奏
会」『静岡新聞』 08年2月3日

- ・宮治昭「窓辺 大仏の破壊とその後」『静岡新聞』 08年2月4日
- ・「清水銀行Presents ガンダーラの遺跡と美術 特別講演会」『静岡新聞』 08年2月5日
- ・宮治昭「窓辺 「縁」と「熱き思い」」『静岡新聞』 08年2月11日
- ・「ガンダーラ展3万人」『静岡新聞』 08年2月11日
- ・「茶況 県立美術館で茶会 16日に草薙ツアーグループ」『静岡新聞』 08年2月14日
- ・竹田博志「草創期の仏像、崇高に ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」『日本経済新聞』 08年2月15日
- ・「茶況 やぶきた茶いかが せん茶サービス 県立美術館ボランティア」『静岡新聞』 08年2月18日
- ・「ガンダーラ展講演会 第4回から県立大に 盛況で会場変更」『静岡新聞』 08年2月22日
- ・「ガンダーラ展講演、4回聴講 51人に修了証書」『静岡新聞』 08年2月25日
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 ここで感じる「ほとけの世界」」『静岡新聞』 08年3月8日
- ・「ガンダーラ展 5万人」『静岡新聞』 08年3月10日
- ・「大仏や壁画 特徴詳しく 県立大 バーミヤン遺跡展講演会」『静岡新聞』 08年3月17日
- ・宮代栄一「観流 展覧会BGM 音楽も展示の一部に」『朝日新聞』 08年3月26日
- ・「文化往来 仏像流出騒ぎで見た新しいパトロン」『日本経済新聞』 08年3月27日
- ・宮治昭「仏教美術の源流から 上 ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」『西日本新聞』 08年4月16日
- ・堀切正人「仏教美術の源流から 中 ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」『西日本新聞』 08年4月17日
- ・村上敬「仏教美術の源流から 下 ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」『西日本新聞』 08年4月18日

(雑誌)

- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」『新美術新聞』 2007年12月11・21日号
- ・『静岡ビジネスレポート』2007年12月号 p.29
- ・宮治昭「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展によせて」『トンボの眼』No.11 2008年1・2・3月
- ・宮治昭「企画者からも一言 日本にガンダーラ仏の

名品がこんなにあるとは！」『芸術新潮』2008年1月号 p.129

- ・『美術の窓』2008年1月号 p.193
- ・「メッセージボックス第5回 静岡県立美術館館長 宮治昭さん」『静鉄グループ社内報[Shine シャイン]』No.35 2008年1月号 p.26
- ・『美術の窓』2008年2月号 p.29
- ・『在家佛教』2008年2月号 p.2-3
- ・『小さな蕾』2008年2月号 p.78-83
- ・『大法輪』2008年2月号 p.15-20
- ・「art news こんなにあります 日本にガンダーラ仏」『芸術新潮』2008年3月号 p.120-127

■出品目録

p.100～p.106参照



▲ チラシ



▲ 図録

石田徹也ー悲しみのキャンバス

会期：2007年7月24日(火)～8月19日(日)

会場：静岡県立美術館・県民ギャラリー

主催：石田徹也展実行委員会、静岡県立美術館

協賛：株式会社 資生堂

後援：NHK静岡放送局、企業メセナ協議会

協力：CBコレクション、高橋コレクション、第一生命ギャラリー、株式会社求龍堂、ギャラリーQ

入場無料

入場者数：13,572人

■主旨

石田徹也は1973年に焼津市に生まれ、静岡県立焼津中央高校を経て、武蔵野美術大学を卒業後、東京にて精力的に絵画の発表を続けてきた。2005年5月に東京の町田付近にて踏切事故にあい、不帰の人となった。NHK「新日曜美術館」にて紹介後、多くの鑑賞者に衝撃を与えることとなった。

石田徹也の作品はキャンバスに石田個人の実生活からイメージした世界を描くが、描かれた世界は非現実な世界のように見える。けれども自らが選んだ自画像とも思える描写は日本の社会における個人の人權の尊さ、学校教育の問題、管理された日本の社会の構造を痛烈に批判し、人々の心の問題を表現している。少年の犯罪や児童殺傷事件が社会問題となっている今日、石田徹也は弱者である少年や児童の心のよりどころを自己の問題として捉えて、絵画によって表現することで、現代人の心の奥底に潜む「痛みや悲しみ」を描いた。未発表作品を含めて約150点を展示。

■印刷物

ポスター B3

チラシ A4

解説パンフレット

A5サイズ 32ページ 和文／英文

宮治昭（静岡県立美術館館長）「孤独と悲哀と安息とー石田徹也の世界ー」、堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）「逡巡する自我像」、山下裕二（美術史家・明治学院大学教授）「石田徹也の視線、石田徹也への視線」、上田雄三（ギャラリーQ）「「カフカとテツヤ」あるいは「不在化する自己」、名古屋覚（美術ジャーナリスト）「石田徹也とシューベルト」

■関連事業

講演会

演 題：「石田徹也の視線、石田徹也への視線」

講 師：山下裕二（明治学院大学教授、美術評論家）

日 時：2007年8月5日(日) 午後2時～4時

場 所：静岡県立美術館・講堂

聴講者数：210人

■関連記事、放送

- ・堀切正人「石田徹也展によせて」『友の会だより プロムナード』2007年夏 No.63 静岡県立美術館 友の会発行
- ・NHK教育放送「新日曜美術館」アートシーン 2007年7月27日
- ・「石田徹也展」『新美術新聞』2007年8月1・11日合併号
- ・田中三蔵「いまを生きる苦難 映し出す 石田徹也ー悲しみのキャンバス展」『朝日新聞』2007年8月8日
- ・福住廉「石田徹也 覗いているぼくを、さらに覗いているぼく 画壇アイドル論：石田徹也」『美術手帖』2007年10月 p.129-136

■出品目録

p.107～p.111参照



▲ チラシ



◀ 解説パンフレット

清水船越小「光のアート」展

会期：2007年12月4日(火)～9日(日)

会場：静岡県立美術館・県民ギャラリー、
清水船越小学校

主催：静岡市立清水船越小学校

共催：静岡県立美術館、NPO法人しずおかコンテンツ
バレー推進コンソーシアム（SCV）、静岡市立
清水有度第一小学校

後援：静岡市教育委員会

■テーマ：「21世紀の表現をさぐる」

■コンセプト：清水船越小「光のアート」展は、「光と色」による体験型インスタレーションを通して、日常にある光の存在や、体験に込められた作家の意図に気づかせようとしている。新しいアートは、見たこともないものを創造することではなく、私たちのなにげない日常を切り取ったところに発生するということを示したい。現代アーティストは、身近にあるごくさりげないものを使って、光と影の中に作家のイメージを展開する。作家とのコラボレーションにより、アートが作家の考えを示したものであり、人間の存在と深くかかわっていることに気づかせることもねらいの一つである。それが、現代アートをより身近に感じる子どもを育み、生涯学習への生きる力となる「アートのリテラシー能力（読み取る力）」を高めることにつながると考える。

■内容：清水船越小学校の全校児童による造形あそびの公開と、その作品の展示

静岡出身、ゆかり作家の作品展示

作家によるワークショップ（児童との共同制作と作品展示）

作家による児童への作品解説

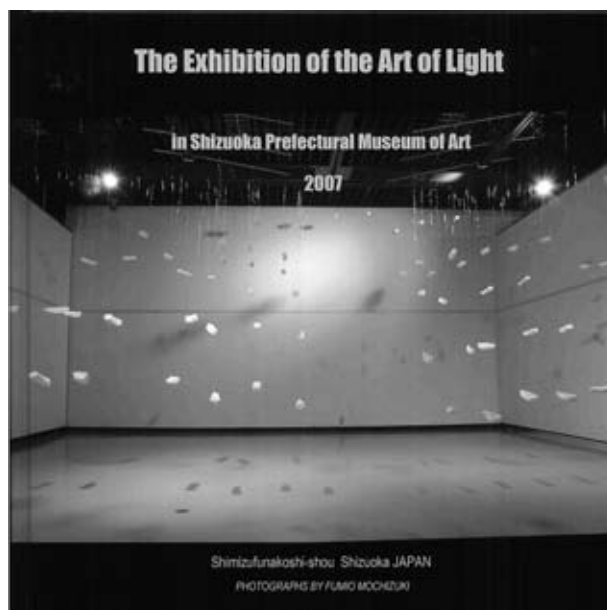
参加作家：松村泰三、安岐理加、荒木珠奈、前川秀樹、森脇裕之、持塚三樹

■カタログ（私家版）

26.7×26.7cm 30ページ 制作：望月史郎

■新聞記事

「清水船越小 県立美術館で「光のアート展」」『静岡新聞』07年12月5日



収蔵品展

新収蔵品を含め、当館の収蔵品を幅広くご覧いただくため、現代美術や日本画、日本洋画、西洋絵画等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

本館1階にあるエントランスの名品コーナーでは、常時3点の作品を無料でご覧いただいている。その内1点は、富士山を描いた絵画を展示することとしている。

ロダン館1階の第1展示室では、ロダンと関連するテーマ展示を年4回行なった。

本年の収蔵品展は以下の通りである。

■本館

3月30日(金)～5月20日(日)

新収蔵品展

GWには伊藤若冲作品を特別展示

5月23日(水)～7月8日(日)

「虹の美術館」の軌跡

—清水に花開いたNPO美術館—

7月24日(火)～9月2日(日)

日本画の名品

—横山大観など—

9月5日(水)～10月14日(日)

「戦前」の日本美術

—ぼんやりとした不安

10月17日(水)～11月18日(日)

草間彌生の世界

—同時代の作家も交えて

11月20日(火)～12月24日(月)

西洋絵画コレクションより

—空のうた、風のささやき—

12月28日(金)～2月17日(日)

インド・中国へのまなざし

—秋野不矩を中心に—

2月19日(火)～3月30日(静岡ゆかりの画家たち)

■ロダン館

7月24日(火)～9月2日(日)

ロダンの友人たち、同時代人たち

9月5日(水)～10月14日(日)

挿絵画家ロダン

—『拷問の庭』—

10月17日(水)～11月18日(日)

ロダンの愛したイタリア

—西洋の版画より—

11月20日(火)～12月24日(月)

異国に魅せられて

—日本人洋画家によるフランス風景—

■出品目録

p.112～p.116参照

移動美術展「曾宮一念と地域の作家たち」

富士宮移動美術展

主 催：静岡県立美術館、富士宮市／富士宮市教育委員会

会 期：平成19年 6 月23日(土)～ 7 月 2 日(月)

会 場：富士宮市民文化会館

観覧者数：2,316人

関連イベント：

- ・技法セミナー 6月23日(土) 午後2～3時
講師：長谷川正季 (p.27を参照)
- ・学芸員によるギャラリートーク 6月24日(日)
午前11時～11時30分、午後2時～2時30分
- ・県立美術館ボランティアによるギャラリートーク
6月30日(土) 午後1時～、午後2時～、午後3時～
(それぞれ20分間)
- ・移動美術講座 (学芸員による小学校出張授業)
8校のべ8回実施 (p.26を参照)

当館では、収集方針に基づき館蔵品の充実をはかるとともに、その鑑賞の機会を提供するよう努めている。当館まで距離的に遠い地域においても、より身近に館蔵品に親しんでもらうために、昭和63年度から、県の東部、西部地域において毎年、移動美術展を開催してきた。この展覧会は、当館と地域市町村などとの共催によって開催されるもので、地域の展示施設を会場に、館蔵品を展示し、鑑賞していただくことによって、地域文化の向上と、美術品や美術館への関心や理解を深めていただくことを目指している。

また近年は、作品展覧にとどまらず、会期中の教育普及活動を充実させ、また開催市町村の学校との連携も活発に行われている。今年度は、通年では県立美術館内で開催されている技法セミナーを移動展会場で行い、しかもその会場にゆかりのある講師に依頼した。加えて県立美術館ボランティアによるギャラリートークも行い、学校連携、地域連携、市民参画の契機とした。

■出品目録

p.117参照

沼津移動美術展

主 催：静岡県立美術館、沼津市、沼津市教育委員会

会 期：平成19年 9 月16日(日)～30日(日)

会 場：沼津市庄司美術館 (モン・ミュゼ沼津)

観覧者数：798人

関連事業：

- ・技法セミナー 9月16日(日) 午後1時30分～2時30分
講師：麻生秀穂氏 (p.27を参照)
- ・学芸員によるギャラリートーク 9月22日(土)
午後2時～2時30分
- ・ミュージアムコンサート 9月22日(土)
2時30分～3時00分
- ・県立美術館ボランティアによるギャラリートーク
9月24日(月・祝) 午後2時～、午後3時～
(それぞれ20分間)
9月29日(土) 午後2時～、午後3時～
(それぞれ20分間)
- ・移動美術講座 (学芸員による小学校出張授業) 2校のべ5回実施 (p.26を参照)

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会等を開催した。また“風景を考える”講演会シリーズ（2回）などの連続講演会も開催した。

■特別講演会

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
4月22日	ボックスアート展「戦後の日本文化とプラモデル」	田宮俊作氏（株式会社タミヤ代表取締役社長）、工藤健志氏（青森県立美術館学芸員）	講堂	230人
4月29日	ボックスアート展「プラモデル黎明期とハセガワソリッドモデルからプラモデルへ」	長谷川勝人氏 （株式会社ハセガワ常務取締役）	講堂	80人
5月6日	ボックスアート展「昭和初期のヴィジュアルイメージ」	平瀬礼太氏 （姫路市立美術館学芸員）	講堂	15人
5月13日	ボックスアート展「戦前の大衆メディア文化とボックスアート」	村上敬（当館学芸員）	講堂	20人
6月9日	ヴェネツィア絵画のきらめき展「ゴルドーニとヴェネツィアの演劇文化」	高田和文氏 （静岡文化芸術大学教授）	講堂	52人
6月23日	ヴェネツィア絵画のきらめき展「ヴェネツィア・ルネサンス絵画―愛の主題を中心に」	越川倫明氏（東京藝術大学助教授）	講堂	132人
7月1日	ヴェネツィア絵画のきらめき展「まなごしの自由 ヴェネツィア絵画の魅力」	金井直氏 （信州大学人文学部准教授）	講堂	112人
8月4日	日曜美術館30年展「日曜美術館での出会い」	石澤典夫氏（NHKアナウンサー）	講堂	240人
8月5日	石田徹也―悲しみのキャンパス展「石田徹也の視線、石田徹也への視線」	山下裕二氏 （明治学院大学教授、美術評論家）	講堂	210人
11月18日	名所絵の世界展「名所絵と旅と風景」	鈴木廣之氏（東京学芸大学教授）	講堂	70人
11月23日	名所絵の世界展「名所から景観へ―京都東山をめぐる考察―」	並木誠士氏 （京都工芸繊維大学大学院教授）	講堂	75人
1月6日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「ガンダーラの遺跡と美術」	宮治 昭 （当館館長、龍谷大学特任教授）	講堂	200人
1月13日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「ガンダーラの仏伝美術」	小泉恵英氏（東京国立博物館 文化財部展示課平常展室主任研究員）	講堂	300人
1月27日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「ガンダーラ美術と東西文化交流―神像表現を中心に」	田辺勝美氏（中央大学教授）	講堂	400人
2月10日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「大谷探検隊の西域調査」	入澤崇氏（龍谷大学教授）	静岡県立大学・大講堂	580人
2月24日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「世界遺産バーミヤン仏教遺跡の今昔」	前田耕作氏（和光大学名誉教授）	静岡県立大学・大講堂	680人
3月9日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「ほとけの道―ガンダーラからバーミヤンへ―」	山田明爾氏（龍谷大学名誉教授）	静岡県立大学・大講堂	610人
3月16日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「バーミヤンの仏教美術」 「バーミヤンの写真撮影旅行」	宮治 昭 （当館館長、龍谷大学特任教授） 菅沼隆二氏（写真家）	静岡県立大学・大講堂	690人
3月23日	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展「バーミヤン遺跡保存の現在」	山田和也氏（東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター 地域環境研究室長）	静岡県立大学・大講堂	480人

■講演会シリーズ 「風景」を考える

開催日	演 題 ・ 内 容	講 師	場 所	参加者数
6月16日	「風景連続フォーラム・作家に聞く」	中村宏氏（画家）	講座室	40人
11月11日	「風景－視線の双方向性－絵画 自作に沿って」	母袋俊也氏 （画家・東京造形大学教授）	講座室	24人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員による講座を開催した。日ごろから研究に取り組んでいる学芸員の講座として好評を得ている。展示室前で作品を前にした解説や、日本画作品をケースに入れない状態でじかにご覧いただく試み、子どもや親子を対象をしばった講座など、ヴァリエーションの拡大に努めた。

■鑑賞講座 講座室および展示室

講座室で、スライドなどを交えながらレクチャーを行うもの。申込不要。

今年度は、子どもや親子対象のものも行い、その場合は展示室でも作品を見ながら実施した。

講 座 名	講 師	開 催 日	参加者数
ヴェネツィア絵画のきらめき展 子ども鑑賞講座	南 美幸（当館主任学芸員）	6月3日	27人
NHK日曜美術館30年展 子ども鑑賞講座	川谷承子（当館学芸員）	8月9日、16日	49人
大正シック展 子ども鑑賞講座	森 充代（当館学芸員）	10月6日	11人
草間彌生の世界 子ども鑑賞講座	川谷承子（当館学芸員）	10月21、11月17日	18人
名所絵の世界 鑑賞講座	飯田 誠（当館学芸課長）	12月9日	25人

■フロア・レクチャー 展示室

展示室で展覧会の見どころや代表作品について解説するもの。申込不要。

講 座 名	講 師	開 催 日	参加者数
ヴェネツィア絵画のきらめき展	南 美幸（当館主任学芸員） 新田建史（当館学芸員）	6月2日、24日	133人
虹の美術館の軌跡展	本阿弥清氏（虹の美術館館長）	6月16日	30人
大正シック展	森 充代（当館学芸員）	9月9日、30日	30人
大正シック展 きもので読み解く大正シック	日比野鈴子氏（夢や） 森 充代（当館学芸員）	9月23日、10月10日	93人
「名所絵の世界」展	福士雄也（当館学芸員） 森 充代（当館学芸員）	11月25日、12月2日	55人

■日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申込。

開 催 日	講 師	参加者
3月20日	飯田 真（当館学芸課長） 森 充代（当館学芸員） 福士雄也（当館学芸員）	57人

■移動美術展のフロアレクチャー

移動美術展会場にて作品を解説するもの。申込不要。

内 容	講 師	開 催 日	参加者
移動美術展フロアレクチャー	堀切正人（当館主任学芸員）	6月23日、9月22日	74人

■出張美術講座

美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行ったり、ロダン体操の指導を行うなどした。4校、262人。p.42参照。

■移動美術展・出張美術講座

移動美術展の開催地にある小中学校へ、学芸員が出張して授業するもの。10校、1,060人。p.43参照。

■中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

中学生文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が中学校に赴き、美術講座を実施。28校、3,641人。p.42参照。

■その他

当館ボランティアグループ「草薙ツアーグループ」が主催するイベントでの展覧会、作品解説。

イ ベ ン ト 名	開 催 日	講 師	参加者
はっと一息お茶講座	9月24日	福士雄也(当館学芸員)	30人
第4回草薙のんびりツアー	11月17日	森 充代(当館学芸員)	32人

技法セミナー

■富士宮移動美術展関連企画

日 時：6月23日(土) 午後2～3時

講 師：長谷川正季氏(画家)

場 所：富士宮市民文化会館

参加人数：61名

内 容：独特の水墨、水彩技法で制作している長谷川氏が、その技法を実演を交えながら解説し、また持参した作品2点についても説明いただく。聴講者からは、使用している筆、紙、絵の具や、霧吹きに至るまで、細かい質問が出た。

■沼津移動美術展関連企画

日 時：9月16日(日) 午後1時30分～2時30分

講 師：麻生秀穂氏(モザイク作家)

場 所：沼津市庄司美術館(モン・ミュゼ沼津)

参加人数：32名

内 容：モン・ミュゼ沼津館長・麻生秀穂氏によるモザイク制作について。モザイクの歴史、ご自身の制作談やこれまでの作品、用いる石材について、ビデオ、図版、実物を用いて説明いただく。その後、モザイク用の石材をハンマーを用いて割る手法を実演していただく。また聴講者で希望するものにも、体験してもらった。

ギャラリートーク

ギャラリートークは、有志のボランティアによる展示作品の解説活動である。本年は20名が登録し、活動した。収蔵品展については、原則、毎月第2、第4土曜日に一日2回開催し、2つの企画展についても随時、開催した。さらに、1月、静岡県主催「中学生文化芸術鑑賞推進事業」により来館した中学生の団体への解説と、県助成制度「県民バス」や、学校団体などへの解説も行った。

ギャラリートークのための研修は、以下のように行われる。

- ・自己研修：ボランティア各自による自己学習。またテーマ、分野が同じメンバーによる勉強会。
- ・月例研修会：毎月第1木曜日に全員が集まり、各月のギャラリートークや勉強会の報告、意見交換、連絡などを行う。また次のリハーサルを展示会場内で行う。

以上二つの研修では、必要に応じて展示の担当学芸員と打ち合わせを行った。また学芸員を講師にした風景画についての購読会なども随時、開催した。



▲ ギャラリー・トーク

■収蔵品展

原則として、毎月第2、第4土曜日。第1回目14：00－14：20、第2回目15：00－15：20
のべ45回開催。のべ参加者数549人

■企画展

「ヴェネツィア絵画のきらめき」展、および「大正シック」展の会期中に随時開催。
のべ51回開催。のべ参加者数1,131人

■移動美術展

富士宮および沼津で開催された移動美術展の会場で、
のべ8回開催。のべ参加者数147人。

■小中学校団体の来館への対応

のべ4回、のべ参加者数206人。

■中学生文化芸術鑑賞推進事業の中学団体への対応

10日間、36校、来館中学生数4,670人。

■県助成制度「県民バス」対応

のべ3回、のべ116人。

実技・鑑賞講座

■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることをめざし、展覧会に合わせ実施している。

〈ヴェネツィア絵画のきらめき〉展普及事業 「大人のヴェネツィア派塗り絵講座」

最近話題になっている「大人の塗り絵」で美術作品を表現してみようという試みである。

本展覧会出品作品のティツィアーノ・ヴェチェリオ作《洗礼者ヨハネの首をもつサロメ》を題材に、色彩の豊かさ、陰影を大切にしながら制作に取り組んだ。

日 時：6月30日(土)

講 師：当館普及スタッフ

場 所：当館講座室・展示室

参加者：32名

〈大正シック〉展普及事業

「シルクスクリーンで大正シックなテーブルウェアを作る」

大正はわずか15年という短い時代ながら、独特の文化や芸術表現が花開いた。本展覧会では、ユニークで斬新な柄の着物なども展示された。

本実技講座では、こうした展示物に制作のヒントを得て、版画のシルクスクリーンの技法を用いて、大正シックなテーブルウェアを作ることにした。

1日目は、講師と本展覧会担当学芸員とともに展示室に入り、解説を聞きながらじっくりと作品鑑賞を行いながら制作のイメージを膨らませた。午後からは膨らめたイメージをより具体化するためにアイデアスケッチへと進めた。

2日目は版づくり、そして刷りへと進め、オリジナルデザインの作品が次々出来上がっていった。

3日目は各自がエプロン、Tシャツなどを持参し、それぞれの作品を増やしていった。

本講座を通して、制作する楽しみとともに、自分のデザインした図案をプリントした小物を持つ喜びも味わえたようである。

日 時：9月22日(土)～24日(月・祝)

講 師：北川 純氏(美術家・Tシャツアーティスト)

場 所：当館実技室・展示室

参加者：14名



〈ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡〉展普及事業 「大地のいろと信仰のかたち」

ガンダーラは古代文明、東西文化が融合する地として繁栄し、仏教の誕生、仏教美術の原点であり、本展覧会では多くの秘蔵作品が展示された。

本実技講座は当館学芸員の解説に始まり、展覧会を鑑賞することを通して、仏教という思想をもとに人々が象徴として作ってきた形をじっくりと味わった。

また、同時開催された収蔵品〈インド・中国へのまなざし―秋野不矩を中心に〉展の中で印象の強い大地の色に触れ、両展覧会から感じたイメージを、和紙の上に絵肌を作り、日本画の素材を楽しみながら制作をすすめた。

日 時：2月2日(土) 3日(日)

講 師：日下 文氏(日本画家・創作週間インストラクター)

場 所：当館実技室・展示室

参加者：20名



■創作週間

創作週間は高校生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を提供し、利用者の自主的な創作活動のお手伝いをしようというものである。

利用者は実技室にある大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、常備されている彫刻刀を使って木版画の制作を行った。

また、デッサン、水彩画、油彩画といった制作活動に取り組む利用者も多かった。

美術館スタッフの利用者への関わりについては、制作の主体を利用者におき、相談、助言に重点をおいた。

利用者の数、取り組み分野は年々増加の傾向にあり、今後はさらに利用しやすい実技室、創作週間に向け、改善を加えていくことが必要である。

開室日数：92日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下 文氏（日本画家）

利用者数：910名



■創作週間イベント

創作週間の利用者の促進、土・日・祝日開催の講座には参加したくてもできない人のために平日を使って講座を実施したのが創作週間イベントである。

また、版画に偏りがちな創作週間利用者に、日本画という新しい分野を体験してもらうことも本講座の目的のひとつである。

「箔とフロタージュ」

日本画家で当館創作週間インストラクターである日下文氏を講師に、日本画材料に対する理解、技法として「箔押し」「湿拓」を学び、偶然のマチエールやさまざまな素材の組み合わせによる日本画制作を行った。

日時：9月11日（火）12日（水）

講師：日下 文氏（日本画家・創作週間インストラクター）

場所：当館実技室

参加者：9名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は《カレーの市民》や《考える人》など、当館所蔵のロダン作品を素描していただく場として、毎月2日間、原則として第3金・土曜日に実施している。

普段の鑑賞では気づかなかったロダン彫刻の造形的な魅力を、描いてみることでよりいっそう身近に感じることができる活動として定着しつつある。

実施日数：24日

実施時間：10：00～15：30

インストラクター：岡村あさ乃氏

参加者数：637名



■版画入門

版画入門は、版画制作に興味を持つ高校生以上の個人を対象に実施している講座である。

版画の基本的な4版種である凹・凸・孔・平を扱い、作品制作の手順、技法、材料や使い方について作家の実演を見つつ作品を制作した。

本年度はシルクスクリーンを実技講座で実施した

め、木版画、銅版画、リトグラフを行った。

日 時：木版画 4月30日(月・祝) 5月5日(土・祝) 6日(日)

銅版画 10月20日(土) 21日(日)

リトグラフ 1月12日(土)～14日(月・祝)

講 師：柳本一英氏(版画家)

当館普及スタッフ

場 所：当館講座室・展示室

参加者：81名(通算)



■ミュージアムコンサート

ロダン館普及事業として、ロダン館を会場に今年も4回のコンサートが行われ、1,857名の方が美術館でのコンサートを楽しんだ。

1 愛の情景、水の調べ

〈ヴェネツィア絵画のきらめき〉展関連コンサート

日 時：7月8日(日)

演奏者：杉山佳代氏

観客数：423名

2 名歌曲の花束

〈NHK日曜美術館30年〉展関連コンサート

日 時：7月28日(土)

演奏者：関奈美氏、永崎京子氏、福岡由香氏

観客数：280名

3 フルートリサイタル

日 時：8月25日(土)

演奏者：諸田大輔氏

観客数：845名

4 ロダン館現代舞踏公演、ガンダーラの響きは地平を越えて

〈ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡〉展関連コンサート

日 時：1月19日(土)

演奏者：佐藤典子舞踏団、HIROS他

観客数：300名

■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tを超える粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらおうというプログラムである。

親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするために、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しむことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土あそび、粘土ワークショップで来館した園児、児童が、今度は親子で来館しているというケースも多く、美術館教室とこのプログラムに繋がりができてきたように思う。

参加者はリピーターも多いが、毎回新規の方もあり、口づてで来られた方、HP、チラシを見て来られた方、また、雑誌の掲載記事を見られて来られた方など、広く周知されるようになってきた。

実施日数：12日(午前・午後で24回)

実施時間：午前の部 10:15～12:00

午後の部 13:30～15:15

インストラクター：石上和弘氏(彫刻家)

助 手：岡村あさ乃氏、杉浦正樹氏

場 所：当館実技室

参加者数：2,664名



■絵の具開放日

絵の具開放日も粘土開放日と同様、親子で自由楽しく絵を描いてもらおうというプログラムで、今年で2年目を迎えた。

室内で行うものと屋外で行うプログラムがあり、今年度は室内で4日（8回）、屋外で6日（12回）実施した。

室内のプログラムは吊したビニールクロスに絵を描いてもらうようにし、顔をくっつけて輪郭、目、鼻、口を親子で描きあったり、高い所は親に持ち上げてもらって描いたり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらにはボディペインティングへと発展していった。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、粘土開放日と同様、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：30～12：00

午後の部 13：30～15：00

インストラクター：奥中章人氏（美術家）

助手：丸山研二郎氏、志村将史氏

場所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：1,617名



■土曜工作室

土曜工作室は、粘土開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、粘土だけでなく、木材、ダンボール、石膏などさまざまな素材を用い、彫刻、立体造形の面白さを発見、体験するもので、昨年度から実施している。

対象は大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後を通した一日のプログラムで、インストラクターは、毎回子どもたちと作業内容や進め方を話し合いで決めていくため、子どもたちに「自分が主役」という意識が生まれ、充実感を味わうことのできるものとなっている。

実施日数：12日

実施時間：10：15～15：30

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助手：岡村あさ乃氏、杉浦正樹氏

場所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：202名

実施日	内 容	参加者数
4 / 28	粘土で絵巻き物	16
5 / 26	布であそぶ	14
6 / 23	角材の棒で家をつくる	19
7 / 28	粘土で山や森を作ろう	26
8 / 25	段ボールで大工作	22
9 / 29	石コウの型取り	17
10 / 27	角材の棒で家をつくる②	22
11 / 24	粘土コンクール	14
12 / 22	新聞紙で空に浮く形	8
1 / 26	石コウのレリーフ	14
2 / 23	角材の棒で家をつくる③	16
3 / 22	ねんどで巨人像	14
計	年間12日：202名	



■色彩アトリエ

色彩アトリエは、絵の具開放日の延長線上に位置づけられるプログラムで、色彩の持つ魅力を、さまざまな技法を体験していく中で発見していこうというものである。

対象は土曜工作室と同様、大人から子どもとし、親子を中心とした参加者が多く見られた。

午前、午後同じ内容を実施したにもかかわらず、違った参加者の反応が見られたり、作品にもそれが表れたり、参加者は勿論、美術館スタッフもインストラクターも新しい発見があるものになっている。

実施日数：10日（午前・午後で20回）

実施時間：午前の部 10：15～12：15

午後の部 13：30～15：30

インストラクター：持塚三樹氏（画家）

助 手：志村将史氏

場 所：当館実技室及び美術館周辺

参加者数：339名

実施日	内 容	参加者数	
		午前	午後
4／7	かくして塗って浮かし出そう	16	11
5／3	ガラスの向こうと私の目	19	8
6／16	何でもスタンプしてしまおう	19	19
7／7	クローズアップしてみよう	8	20
8／11	クローズアップしてみよう (中学生バージョン)	18	
9／8	ぐちゃまぜえのぐ	23	9
10／6	オーバー ゴ レインボー	17	20
11／3	デカる紙にー	19	28
12／1	どこでもフロッタージュ	28	15
3／1	自分の声の形をとる	22	20
計	年間10日(20回)：339名		



■夏休み子どもワークショップ

夏休み子どもワークショップは、普段なかなか足を運ぶことの難しい小学生に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造の喜びを感じてもらうためのプログラムで、当館では夏休みに開催される展示会と絡めて実施している。

「どっぶり日曜美術館」

日 時：7月31日(火)～8月5日(日)

今年は「どっぶり日曜美術館」をテーマに、2日ずつ、3つのプロジェクトを6日間行った。

「たっぶり鑑賞プロジェクト」では、京都造形芸術大学の学生、増田真理子さん、内田絵美子さんの2人を講師に招き、15人の参加者と対話型の鑑賞活動を行った。最初に美術館を探検し、その後展示室の作品をたっぶり鑑賞した。

屋外での鑑賞では、ふだん触れることのない彫刻の掃除を行い、さまざまなことを感じ取っていたようで、掃除を終え「顔が優しくなったみたい」という子どものことばが印象に残った。

「たっぶり鑑賞プロジェクト」

日 時：7月31日(火) 8月1日(水)

講 師：増田真理子氏、内田絵美子氏

(京都造形芸術大学生)

当館普及スタッフ

場 所：当館実技室・展示室・彫刻プロムナード

参加者数：15名



「じっくり共同制作プロジェクト」では、最初にプロジェクターの画像を白いTシャツや画用紙でキャッチして遊んだ。その後27人の参加者が共同制作で取り組む作品5点を決め、240cm×240cmの透明ビニール5枚に映し出して下描きを行い、裏から絵の具で彩色した。

この活動を通して、作家の色づかいや細部の表現など、最初見た時には気づかなかったさまざまな発見をしたようである。「来年は参加できないんだね」と、ボツリと言った6年生の男の子のことは、満足感がうかがうことができた。

「じっくり共同制作プロジェクト」

日 時：8月2日(水) 3日(木)

講 師：川谷承子（当館学芸員）
当館普及スタッフ

場 所：当館実技室・展示室

参加者数：28名



「にっこり出会いプロジェクト」では、現在活躍中の作家、中山美代子さんを講師に招き、15人の参加者が作品作りに取り組んだ。

最初は自分のお気に入りの一点を探しに展示室に行き、午後はその作品を参考にして作品を作り上げた。

いつもならここで終わるところだが、今回の中山さんの作品作りはここからがスタートで、自分が描いた作品と、選んだ作品のカラーコピーを、カッターナイフを使って2cm間隔で切り離した。カッターナイフを使うのが初めての子もいたが、上手に切り離すことができた。その後、それを縦糸、横糸のようにして裏返しのまま編んでいき、編み終わって表にしてみると、2枚の絵が重なり、それぞれの雰囲気を残しつつ、全く新しい絵になった時にはあちこちから歓声が沸いた。

「にっこり出会いプロジェクト」

日 時：8月4日(土) 5日(日)

講 師：中山美代子氏（美術作家）
当館普及スタッフ

場 所：当館実技室・展示室

参加者数：15名



■絵画ワークショップ

絵画ワークショップは、絵画の描き方や技法を学ぶこと以上に、描く喜びを感じることを重視し、大人から子どもまで皆で力を合わせ、作品を制作していくプログラムである。

本年度は11月と3月に2日続きで実施した。

「ドット若冲 ～樹花鳥獸図屏風・牛の巻～」



伊藤若冲の『樹花鳥獸図屏風』は当館収蔵品の中でも人気の高い作品で、ここ数年、毎年5月のゴールデンウィークに展示され、これを目当てに多くの来館者が訪れている。

昨年5月にはこの展示に合わせ、絵画ワークショップで「勝手に若冲 とことん升目描き」を実施し、右隻の「動物尽くし」の一扇に取り組み、今年はその隣の「牛」が描かれている一扇を取り上げた。

今年は例年展示室に展示される時期とは異なっていたため、写真室での鑑賞となったが、ガラス越しでなく、直に観ることで、より作品の持つ魅力に触れることができた。

鑑賞の後、8cm×8cmのピース7800枚に番号を振り、下描き、彩色を行い、全員でエントランスホールに並べ10m×5mの巨大作品を完成させた。

日 時：11月10日(土) 11日(日)

講 師：持塚三樹氏（画家）

ワークショップ

場 所：当館実技室・エントランスホール

参加者数：19名

「マインドスケープ」

「マインドスケープ」は心の形・心の風景を意味し、もうひとりの自分を作り、それを風景の中に溶け込ませてみようという主旨で実施した。

当館の周辺は公園が整備され、美しい緑や花、遠く富士山を望むことができる豊かな自然環境に恵まれている。

また、当館の収蔵作品のテーマのひとつに17世紀以降の風景画があり、さまざまな表情の作品が多く収蔵されている。

今回は今一度美術館およびその周辺の風景に目を向け、もうひとりの自分をその中に溶け込ませることで、新たな自分、新たな風景を見つけようと制作に取り組んだ。

1日目は、まず2人一組になり、一方が巨大なスチレンボードにポーズをとって横になり、もう一方が形をなぞることをお互いにした後、カッターナイフで形を切り抜き、「もうひとりの自分」を連れて外に出た。自分が見つけた心地よい風景の中に「もうひとりの自分」を置き、そこに切り取った風景を下描きし、実技室に戻り彩色した。

2日目は前日の彩色の続きを行い、心地よい風景の中に自分を置きに行こうとしたが、あいにくの雨模様で、急遽ロダン館に場所を移し、ロダン館の像ともうひとりの自分と写真に収まって終了した。

日 時：3月29日(土) 30日(日)

講 師：持塚三樹氏(画家)

場 所：当館実技室・美術館周辺・ロダン館

参加者数：9名



■鑑賞講座

鑑賞講座は、子ども鑑賞講座、親子鑑賞講座、鑑賞講座に分かれ、それぞれ子ども、親子、大人を対象とし、展覧会担当の学芸員と展示室での対話を通して作品鑑賞を行っていくプログラムで、本年度は7回実施し、130名の参加者があった。

「ヴェネツィア絵画のきらめき」展 子ども鑑賞講座

日 時：6月3日(日)

講 師：南 美幸(当館主任学芸員)

場 所：当館展示室

参加者数：27名

「NHK日曜美術館30年」展 子ども鑑賞講座

日 時：8月9日(木) 16日(木)

講 師：川谷承子(当館学芸員)

場 所：当館展示室

参加者数：49名

「大正シック」展 子ども鑑賞講座

日 時：10月6日(土)

講 師：森 充代(当館学芸員)

場 所：当館展示室

参加者数：11名

「収蔵品 草間彌生の世界」展 子ども鑑賞講座

日 時：10月21日(日) 11月17日(土)

講 師：川谷承子(当館学芸員)

場 所：当館展示室

参加者数：18名

「収蔵品 名所絵の世界」展 鑑賞講座

日 時：12月9日(日)

講 師：飯田 真(当館学芸課長)

場 所：当館展示室

参加者数：25名



学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取り組みなど、美術館で実施できるさまざまな学習活動を学芸員やエデュケーショナルスタッフがお手伝いするものである。

また、今後の取り組みとして、出張授業等、美術館から出掛けて実施する内容を充実させていくことも考えている。

■粘土ワークショップ

粘土ワークショップは、小学生以上の児童、生徒を対象に実施し、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助 手：岡村あさ乃氏

インストラクター：奥中章人氏（美術家）

助 手：志村将史氏、岡村あさ乃氏

場 所：当館実技室



9/19	岡小学校：2年	59
9/20	中田小学校：2年	66
9/20	中田小学校：2年	61
9/26	静岡南部養護小学部：1～3年	22
10/5	静岡北養護清水分校中学部：2年	13
10/18	森下小学校：1年	50
10/18	清水小学校：3年	64
10/23	森下小学校(合同)：養護学級	22
	田町小学校(合同)：養護学級	7
10/26	森下小学校：3年	70
10/30	静岡大学附属静岡小学校：4年	41
10/31	静岡北養護清水分校中学部：1年	22
11/1	中藁科小学校(合同)：3年	12
	清水穴原小学校(合同)：1・2年	16
11/7	蒲原東小学校：3年	69
11/7	富士川第一小学校：3年	86
11/21	番町小学校：2年	34
11/21	番町小学校：2年	34
11/22	森下小学校：2年	51
11/22	籠上中学校：養護学級	12
12/4	駒形小学校：2年	47
12/4	浜田小学校：2年	50
12/5	蒲原東小学校：6年	27
12/5	蒲原東小学校：6年	28
1/11	清水入江小学校：3年	110
1/23	静岡中央養護学校中等部	26
1/23	長田南小学校：養護学級	7
2/20	長田南小学校：5年	98
計	42団体：1,843名	

開催日	利 用 団 体 名	参加者
4/27	大谷小学校：4年	62
5/11	静大付属養護小学部：1～6年	22
5/31	船越小学校：2年	52
6/15	船越小学校：3年	72
6/19	飯田東小学校：5年	91
6/20	船越小学校：3年	73
6/21	船越小学校：2年	43
6/22	井宮小学校：2年	46
6/22	井宮小学校：2年	45
6/27	船越小学校：2年	32
6/29	新通小学校(合同)：養護学級	6
	静岡盲学校(合同)：3・5・6年	7
6/29	船越小学校：2年	32
9/19	岡小学校：2年	56

■粘土あそび

粘土あそびは保育園・幼稚園児対象に実施し、水粘土を使用し、体全体で粘土に触れ、粘土あそびを通してインストラクターや助手、友だちとの関わりを重視していくプログラムである。

年ごとに周知されるようになり、新規の団体も増える傾向にある。

インストラクター：奥中章人氏（美術家）

助 手：志村将史氏、岡村あさ乃氏

インストラクター：石上和弘氏（彫刻家）

助 手：岡村あさ乃氏

場 所：当館実技室

開催日	利 用 団 体 名	参加者
4/27	ともえ保育園：全園児	15
5/8	田町幼稚園：年中・保護者	97
5/8	庵原保育園：年長	28
5/9	焼津東益津幼稚園：年中長・保	104
5/9	リリー幼稚園：年中長	83
5/10	風の子保育園：年中長・保護者	98
5/10	あゆみ第2保育園：年長	41
5/11	月影保育園：年中長	32
5/23	飯田東保育園(合同)：年長	46
	折戸保育園(合同)：年長	22
5/23	静岡南幼稚園：年長	46
5/24	藁科保育園(合同)：年中長	30
	大川保育園(合同)：年長	4
5/24	静岡南幼稚園：年長	49
5/25	一番町保育園：年全・保護者	72
5/25	十七夜山保育園：年長	32
5/31	さゆりキンダーホーム：全園児	36
6/13	中田保育園：年長	47
6/13	静岡南幼稚園：年中	58
6/14	さくら幼稚園：年長	65
6/14	静岡南幼稚園：年中	59
6/15	船原幼稚園：年長	65
6/19	城東保育園：年中長	87
6/20	麻機幼稚園：年長	73
6/21	こまどり幼稚園：年中	46
6/26	蒲原聖母幼稚園：年中長	34
6/26	隣人会保育園：年中長	75
6/27	かえで幼稚園：全園児	64
6/28	バプテスト幼稚園：全園児	43

6/28	竜南保育園：年長	35
9/26	足久保保育園：年長	26
10/5	東豊田保育園：年中長	76
10/23	ゆりかご保育園：年中長	30
10/25	有度東保育園：年長	38
10/25	久能幼稚園：全園児	44
10/26	矢部保育園：年長	20
10/30	田町幼稚園：年長	59
10/31	田町幼稚園：年長	56
11/1	有度西保育園：年長	23
11/2	若草保育園：年小	33
11/2	若草保育園：年中長	61
11/6	東海大附属幼稚園：年小	45
11/6	曙保育園：年中長	29
11/8	日吉町保育園：年中長	39
11/8	あけぼの保育園：年長	54
11/28	北安東保育園：年中長	51
11/28	リリー幼稚園：年中長	75
11/30	東海大学附属幼稚園：年中	33
11/30	第2ふたば保育園：年長	37
12/7	丸子幼稚園(合同)：年中長	58
	アソカ幼稚園(合同)：年長	26
12/11	麻機幼稚園：年中	52
12/11	静岡聾学校幼稚部：年中	5
12/12	麻機幼稚園：年中	54
12/12	東新田保育園：年長	51
12/13	丸子幼稚園：年小	31
12/13	わらべ幼稚園：年長	16
計	57団体：2,708名	



■絵の具ワークショップ

絵の具ワークショップは幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、対象の発達段階に応じ、少しずつ内容を変え、実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に、学年が上がるにつれ少しずつ難易度をつけているが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

なお、本年度については、夏休みに実施する児童クラブ向けの美術館教室も全て絵の具ワークショップで行った。

インストラクター：奥中章人氏（美術家）

助 手：志村将史氏、岡村あさ乃氏

場 所：当館実技室、屋外展示テラス

開催日	利 用 団 体 名	参加者
4/25	ふたば保育園：年中長	78
4/26	籠上中学校：養護学級	14
5/29	田町幼稚園：年長	59
5/29	静岡南幼稚園：年中	54
5/30	田町幼稚園：年長	54
5/30	静岡南幼稚園：年中	55
7/26	興津児童クラブ	63
7/26	西奈児童クラブ	66
7/27	東源台児童クラブA（合同）	44
	大谷児童クラブ（合同）	28
7/27	中島児童クラブ（合同）	43
	美和児童クラブ（合同）	17
8/7	足久保村塾（合同）	31
	駒越児童クラブ（合同）	60
8/7	田町児童クラブ（合同）	19
	西奈南児童クラブ（合同）	62
8/8	三保第二小児童クラブ（合同）	61
	川合児童クラブ（合同）	16
8/8	羽鳥の場児童クラブ（合同）	43
	袖師児童クラブ（合同）	41
8/9	不二見児童クラブ	63
8/9	南部児童クラブ	35
8/10	浜田児童クラブ（合同）	30
	瀬名児童クラブ（合同）	30
8/10	長田南児童クラブ（合同）	64
	足久保児童クラブ（合同）	24

8/21	東源台児童クラブB（合同）	20
	飯田東児童クラブ	38
8/21	有度第一児童クラブ（合同）	30
	富士見児童クラブ（合同）	53
8/22	蒲原白銀児童クラブ（合同）	43
	どろんこ児童クラブ（合同）	37
8/22	新川児童クラブ（合同）	46
	新富町児童クラブ（合同）	36
8/23	入江児童クラブ	48
8/23	豊田児童クラブ（合同）	26
	服織児童クラブ（合同）	17
8/24	川原児童クラブ（合同）	47
	飯田児童クラブ（合同）	43
8/24	大里東児童クラブ（合同）	29
	井宮北児童クラブ（合同）	35
8/28	森下児童クラブ（合同）	26
	有度第二児童クラブ（合同）	56
8/28	城北児童クラブ	59
8/29	高部東児童クラブ	74
8/30	井宮児童クラブ	42
8/30	宮竹児童クラブ	48
9/21	丸子幼稚園：年長	29
9/21	船越小学校：4年	68
9/27	丸子幼稚園（合同）：年中	32
	アソカ幼稚園（合同）：年中	12
9/27	静岡南幼稚園：年長	40
9/28	東海大付属幼稚園：年中	39
9/28	静岡南幼稚園：4 1	41
10/2	田町幼稚園：年中	53
10/2	静岡聾学校小学部：3・4年	12
10/3	田町幼稚園：年中	52
10/3	リリー幼稚園：年長	29
10/4	麻機幼稚園：年長	74
10/4	賤機中小学校：1～3年	41
10/17	城東保育園：年中長	76
10/17	船越小学校：4年	70
10/19	竜南小（合同）：養護学級	5
	安倍口小（合同）：養護学級	14
10/19	あけぼの保育園：年長	58
10/24	こまどり幼稚園：年長	47
10/24	リリー幼稚園：年中	47
11/9	森下小学校：5年	60
11/9	月影保育園：年中長	36
11/20	かえで幼稚園：年中長	49
11/27	若草保育園：年中	33

11/27	あけぼの保育園：年中長	30
11/29	若草保育園(合同)：年中	31
	矢部保育園(合同)：年長	21
11/29	三保第二小学校：養護学級	10
12/6	新通小学校：養護学級	5
12/6	伊久美小学校：全校	20
計	77団体：3,136名	



■音のかけらワークショップ

音のかけらワークショップは、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

今年度は特に養護学級、養護学校の利用団体が多く、児童、生徒は夢中になって音を出し、楽しむ様子が見られた。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
4/17	井宮北小学校：6年	100
6/8	静岡中央養護学校小学部	22
6/12	大河内小学校：全校	40
6/20	清水第八中学校：養護学級	5
11/1	静岡中央養護学校中学部	10
11/1	東部養護学校伊東分校高等部	16
11/28	静岡北養護学校中等部	7
12/4	静岡北養護学校高等部	18
1/18	梅ヶ島小学校：1・2年	19
2/22	富士養護学校中等部	27
計	10団体：264名	



■ロダン館ななふしぎ

ロダン館ななふしぎは、7枚のカードに書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。

答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鑄造の手法、作品のエピソードなどにも触れている。

開催日	利用団体名	参加者
4/17	井宮北小学校：6年	100
5/15	東豊田中学校：選択美術3年	15
5/17	瀬戸谷中学校：1年	32
6/1	大仁中学校：2年	8
6/16	サレジオ中学校：1年	52
6/20	清水第八中学校：養護学級	5
6/22	井宮小学校：2年	46
6/22	井宮小学校：2年	45
7/25	沼津市立金岡中学校：美術部	15
8/29	県高等学校美術・工芸研究会	19
9/19	岡小学校：2年	56
9/19	岡小学校：2年	59
9/20	中田小学校：2年	66
9/20	中田小学校：2年	61
10/18	清水小学校：3年	64
10/23	田町小学校：養護学級	7
10/23	東源台小学校：5年	21
10/24	静岡北養護学校清水分校中学部	20
11/2	東部養護学校伊東分校高等部	16
11/7	富士川第一小学校：3年	86
11/7	富士川第一小学校：5年	32
11/21	番町小学校：2年	34
11/21	番町小学校：2年	34
11/22	牧之原市立萩間小学校：5年	34
11/27	東源台小学校：5年	21
11/28	静岡北養護学校中学部	7
11/28	大河内中学校：全校	23
12/4	駒形小学校：2年	47
12/4	静岡南中学校：2年	3
12/5	蒲原東小学校：6年	27
12/5	蒲原東小学校：6年	28
1/8	庵原小学校：5年	109
1/11	入江小学校：3年	110

1/16	富士常葉大学	34
1/18	梅ヶ島小学校：1・2年	19
1/23	静岡中央養護学校中学部	26
1/24	田子浦小学校：6年	148
1/29	島田相賀小学校：5年	13
1/29	長田西小学校：2年	151
2/20	長田南小学校：5年	98
2/21	中川根第一小学校：6年	17
2/22	富士養護学校中学部	27
3/6	静岡北養護学校南の丘分校	22
3/12	初倉南小学校：5年	53
計	44団体：1,906名	



■裏方ツアー、美術館の秘密をさぐれ

裏方ツアーは普段は入ることのできない美術館の裏側を案内し、知られざる美術館の姿を紹介するプログラムであるが、本年度、これをさらに充実させるため「美術館の秘密を探れ」を実施した。

美術館には多くの来館者が訪れるが、美術館にはそういった方により美術館を楽しんでいただくための工夫、作品を管理、保護するための工夫が随所にみられる。本プログラムはワークシートを使って、美術館を探検し、そうした工夫を見つけ、最後に解説を行うものである。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
5/9	掛川東中学校：2年	5
5/17	瀬戸谷中学校：1年	32
6/1	大仁中学校：2年	8
6/12	大河内小学校：全校	40
6/16	サレジオ中学校：1年	52
8/8	藤枝市立西益津中学校：美術部	21
8/30	星槎国際高校	6
11/7	富士川第一小学校：5年	31
11/22	牧之原市立萩間小学校：5年	34
11/27	東源台小学校：5年	21
11/28	大河内中学校：全校	23
12/4	清水第一中学校：1年	4
12/4	静岡南中学校：2年	3
1/29	島田相賀小学校：5年	13
2/16	常葉学園中等部：1～3年	41
3/5	清水第二中学校：1年	23
計	16団体：357名	

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、小学校1校、中学校1校、高校2校の利用があった。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
7/24	東海大学付属高輪高校：美術部	18
8/8	藤枝市立西益津中学校：美術部	21
11/7	富士川第一小学校：5年	26
3/11	浜松江之島高等学校：芸術科	27
計	4団体：92名	

□職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりとした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ロダン館ななふしぎ、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってもらえた。

実施日	利 用 団 体 名	参加者
6/6～8	安東中学校：2年	1
2/27～28	清水第三中学校：2年	3
8/8	清水南高校中等部：2年	3
8/11・12	清水第二中学校：2年	1
8/25・26	服織小学校：6年	4
8/28～30	静岡東中学校：2年	3
8/28～30	静岡文化芸術大学	2
10/30	焼津豊田中学校：1年	3
12/4～6	静岡南中学校：2年	3
計	9団体：23名	



■教員研修・ティーチャーズレクチャー

初任者研修、5年・10年目研修の場として教員を受け入れるとともに、自園、自校で粘土ワークショップ等を指導されたい教員に対し、ワークショップへの参加、スタッフとのディスカッションを通して、その方法を研修してもらう場を設けている。

24団体：37名

■粘土貸出

粘土あそび・ワークショップを自園、自校で実施するために、粘土、土練機等、必要な用具の貸し出しを行った。

16団体

■出張美術講座

出張美術講座は、美術館職員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行ったり、ロダン体操の指導を行うなどし、本年度は4団体262名の利用があった。

来館に要する費用、時間を考えると、学校にとって美術館に訪れることはたいへん難しく、今後さまざまな形での「出張美術講座」の利用を考えていく必要がある。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
6/20	中島中学校：3年	127
10/10	清水小学校：3年	64
11/9	清水南高校：芸術科2年	38
11/29	長岡中学校：2年	33
計	4団体：262名	

■中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

中学生文化芸術鑑賞推進事業は、本格的な劇場での舞台芸術の鑑賞、本格的なホールでの音楽の鑑賞や県立美術館が所蔵する絵画・彫刻の鑑賞機会等を提供することにより、県内の中学生の豊かな心を育むとともに、文化芸術の素晴らしさや鑑賞マナーを知ってもらうことを目的に実施され、本年度で5年目の事業である。

当館ではより意義あるものにしてもらうため、来館する学校に対し、学芸員による「出張美術講座」の開催を呼びかけたところ、30校から希望があり、28校で実施した。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
1/9	沼津市立今沢中学校：2年	89
1/10	袋井市立浅羽中学校：1年	224
1/10	浜松市立丸塚中学校：1年	156
1/11	富士市立元吉原中学校：1・2年	171
1/11	富士市立吉原東中学校：1・2年	116
1/15	浜松市立引佐北部中学校：1・2年	30
1/15	浜松市立舞阪中学校：1・2年	211
1/15	磐田東中学校：1・2年	126
1/16	熱海市立泉中学校：全校	39
1/16	浜松市立積志中学校：2年	195
1/16	静岡市立観山中学校：2年	239
1/17	富士市立大淵中学校：2年	124
1/17	焼津市立小川中学校：1年	143
1/18	城南静岡中学校：全校	15
1/18	沼津市立長井崎中学校：1・2年	86
1/21	掛川市立桜が丘中学校：1・2年	307
1/21	浜松市立庄内中学校：2年	96
1/22	県立清水南高等学校中等部：1年	80
1/22	伊東市立対島中学校：1年	90
1/22	富士宮市立上野中学校：1年	74
1/24	河津町立河津中学校：1年	66
1/24	学校組合立牧之原中学校：1年	38
1/24	東海大学附属翔洋中学校：2年	103
1/25	富士市立田子浦中学校：2年	168
1/25	下田市立稲生沢中学校：2年	47
1/28	静岡市立清水第一中学校：1年	96
1/28	芝川町立柚野中学校：全校	106
1/29	富士市立岩松中学校：2年	177
計	28団体：3,412名	

■移動美術展・出張美術講座

移動美術展が開催される市町村の小学校へ学芸員が出向き、出張美術講座を行った。今年度は移動展の紹介、ロダン彫刻の見方、およびロダン体操を授業した。

開催日	利 用 団 体 名	参加者
6/25	白糸小学校 全学年	117
6/25	上井出小学校 全学年	103
6/27	人穴小学校 全学年	31
6/27	井之頭小学校 全学年	65
6/28	北山小学校 5, 6 年生	95
6/28	上野小学校 5, 6 年生	122
6/29	富士根北小学校 全学年	226
7/ 2	山宮小学校 6 年生	30
9/21	片浜小学校 1 年生	65
9/21	片浜小学校 3, 4, 養護	117
9/21	片浜小学校 6 年生	89
9/28	静浦小学校 5, 6 年生	25
計	10校：1,060名	

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立の博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受入には、以下の3つを条件としている。

- ①県内出身者または県内の大学に通学していること
- ②美学美術史学、または美術教育・美術制作専攻であること
- ③大学の推薦を受けていること

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館を担う一員として経験の第一歩をしるす場であることを目ざしている。

本年は、9大学から15名の実習生を受け入れた。

カリキュラムは見学・講義・実習・演習からなり、それぞれを当館の学芸員と総務課職員が担当した。

本年は、「美術館に必要なもの／不要なもの」というテーマを設定し、現在日本の美術館に求められているものは何なのか、またその反対に不要なものは何なのかを、「利用者として」、また「美術館職員として」実習生に考えてもらう実習とした。このテーマに沿って、当館以外の美術館の現状について調査した結果を実習中に発表し、また実習後の成果をまとめたレポート提出を併せて課題としたことが特徴である。

■実習内容

□講義

- ①コレクションの形成と収蔵品展の工夫〔当館の収集活動の歴史と特質、収蔵品展での工夫について〕
(飯田・学芸課長)
- ②展覧会ができるまで(国内展)〔「ボックスアート」展の企画・開催・その後〕
(村上・学芸員)
- ③展覧会ができるまで(海外展)〔「ロダン 創造の秘密」展の企画・開催・その後〕
(小針)
- ④当館の教育普及活動概要〔実技室主導事業の概括〕
(福元・主任)
- ⑤当館の教育普及活動概要〔講座系・実技系普及事業の概括〕
(堀切・主任学芸員)
- ⑥ボランティア活動、地域連携活動〔他館と比較した場合の活動の特質など〕
(森・学芸員)
- ⑦作品の保安全管理〔当館の作品保全の取り組みについて一虫害、地震対策など〕
(新田・学芸員)
- ⑧静岡県立美術館の特色〔他館と比較した場合の特徴や個性についての総論〕
(小針・学芸部長)
- ⑨美術館評価活動〔美術館評価活動とは何か？ その取り組みについて〕
(村上・学芸員)

□実習

- ①作品取り扱い実習：日本画
(飯田、森、福士・学芸員)
- ②作品取り扱い実習：油彩画・版画
(南、新田)
- ③収蔵庫内見学・実習
(南、新田、福士)

□演習

課題発表と課題制作 (南)

□見学

- ①施設(主にバックヤード)見学 (櫻井・管理係長)
- ②収蔵庫見学 (新田、森)
- ③夏休み子どもワークショップ見学 (岡崎・主任)

■カリキュラム

7月30日(月)

10:00～11:00 オリエンテーション (南)

11:10～12:00 【講義①】コレクションの形成と収蔵品展の工夫 (飯田)

昼食

13:00～14:00 【演習①】課題発表と課題制作① (南)

14:10～16:00 【演習②】課題発表と課題制作② (南)

16:30～17:00 実習ノート整理

7月31日(火)

10:00～11:50 【演習③】課題発表と課題制作③ (南)

昼食

13:00～14:10 【見学①】施設見学(櫻井)

14:20～15:20 【講義②】展覧会ができるまで(国内展) (村上)

15:30～16:20 【講義③】展覧会ができるまで(海外展) (小針)

16:30～17:00 実習ノート整理

8月1日(水)

10:00～10:50 【講義④】当館の教育普及活動概要(福元)

11:00～11:50 【講義⑤】当館の教育普及活動概要(堀切)

昼食

13:00～13:50 【見学②】収蔵庫見学(新田、福士)
(2グループに分かれて活動)

Aグループ

14:00～15:00 【実習①】 作品取り扱い実習
(日本画—飯田、森、福士)

15:10～16:10 【実習②】 作品取り扱い実習
(油彩画、版画—南、新田)

Bグループ

14:00～15:00 【実習①】 作品取り扱い実習
(油彩画、版画—南、新田)

15:10～16:10 【実習②】 作品取り扱い実習
(日本画—飯田、森、福士)

16:20～17:00 【演習④】 課題制作、実習ノート整理④

8月2日(木)

10:00～10:50 【講義⑥】 ボランティア活動、地域
連携活動 (森)

11:00～11:50 【講義⑦】 作品の保全管理 (新田)

昼食

13:00～13:50 【講義⑧】 静岡県立美術館の特色
(小針)

14:00～16:00 【実習③】 収蔵庫内実習
(南、新田、福士)

16:10～17:00 【演習⑤】 課題制作、実習ノート整理⑤

8月3日(金)

10:00～10:50 【講義⑨】 美術館評価活動 (村上)

11:00～12:00 【見学③】 夏休み子どもワークショップ
見学① (岡崎)

昼食

13:00～13:50 【見学③】 夏休み子どもワークショップ
見学② (岡崎)

14:00～17:00 【演習⑥】 課題制作、実習ノート整理⑥

8月4日(土)

10:00～12:00 【演習⑦】 課題制作、実習ノート整理⑦

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

<講演会>

飯田 真：「浮世絵の魅力」【掛川市二の丸美術館友の会研修／掛川市立中央図書館】

6月19日

堀切正人：武蔵野美術大学特別講師【武蔵野美術大学】

10月3日

「ロダンとダンス」シンポジウム講演

【県芸術祭／静岡県立美術館】10月21日

福士雄也：「若冲と鶏」【若冲連続講座／NHK大阪文化センター】12月13日

<講座等>

小針由紀隆：静岡大学新入生セミナー【県立美術館】

6月1日

県立美術館・県立大学連携授業「ヴェネツィア派絵画の魅力について」【県立美術館】7月2日

常葉学園教職員夏季研修会【県立美術館】

8月2日

西洋美術史授業【静岡文化芸術大学】

12月13日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【元吉原中学校】1月11日

【清水南高等学校中部部】1月22日

飯田 真：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【静岡市立観山中学校】1月16日

【伊東市立対馬中学校】1月22日

【芝川町立柚野中学校】1月28日

南 美幸：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【浜松市立丸塚中学校】1月10日

【静岡市立清水第一中学校】1月28日

出張講座

【静岡市立城内中学校】1月24日

堀切正人：「地域とつながる博物館」【静岡大学生涯学習教育センター公開シンポジウム／静岡大学】7月7日

人生教養講座【富士市駅南公民館】

9月7日

出張ロダン体操【清水小学校】10月10日

芸術鑑賞講座【沼津市立図書館】11月9日

田方地区教科等指導リーダー授業研究会

【伊豆の国市立長岡中学校】11月29日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【浜松市立引佐北部中学校】1月15日

【焼津市立小川中学校】1月17日

【沼津市立長井崎中学校】1月18日

【浜松市立庄内中学校】1月21日

福元清志：しずおか子ども美術の会研修会【静岡市民ギャラリー】12月19日

保育園研修会【焼津市立旭町保育園】

2月7日

新田建史：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【沼津市立今沢中学校】1月9日

【熱海市立泉中学校】1月16日

【富士市立大淵中学校】1月17日

川谷承子：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【袋井市立浅羽中学校】1月10日

【磐田東中学校】1月15日

【富士宮市立上野中学校】1月22日

【富士市立田子浦中学校】1月25日

村上 敬：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【富士市立吉原東中学校】1月11日

【浜松市立積志中学校】1月16日

【城南静岡中学校】1月18日

【東海大学附属翔洋中学校】1月24日

森 充代：中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【掛川市立桜が丘中学校】1月21日

【学校組合立牧之原中学校】1月24日

【富士市立岩松中学校】1月29日

福士雄也：学会発表「若冲晩年期の様式に関する一考察—西福寺の襖絵を中心に」【美術史学会

西支部例会／関西学院大学】

9月15日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・出張美術講座

【浜松市立舞阪中学校】1月15日

【河津町立河津中学校】1月24日

【下田市立稲生沢中学校】1月25日

＜美術館友の会事業への協力＞

(講座講師)

福元清志：「木版画で年賀状を」12月8日・9日

飯田 真・森 充代・福士雄也：

「講座：日本画をじかに見る」

3月20日午前

＜静岡県博物館協会＞

当館は同協会の事務局として、協会加盟館園の協力のもとに以下の事業を行った。

(1)役員会・総会の開催 5月29日(県立美術館)

(2)地域セミナー

①特別展「没後20年 宮永岳彦油彩画展」講演会

日時：展覧会会期：8/3～9/9 講演会：8/18

会場：駿府博物館 主催：駿府博物館、静岡新聞社・静岡放送、静岡県博物館協会

②香道入門体験講座(御家流) 3月

会場：熊野伝統芸能館 講師：山田和香氏

主催：磐田市香りの博物館・静岡県博物館協会

③富士山ネットワークPRイベント事業

日時：6/24、10/13、3/30

主催：富士山ネットワーク・静岡県博物館協会

(3)講習会の開催

①「博物館の顧客満足度(CS)向上にむけて」

11月22日 パルコ静岡店、および駿府博物館

講師：鳥海康夫氏(パルコ静岡店次長)、鈴木修身氏(ビュフェ美術館常務理事)、材木定氏(浜松市美術館長)

②「これからの博物館運営についてー指定管理者制度と新公益法人制度ー」

2月1日 富士市駅南公民館

講師：岡部幹彦氏(文化庁文化財部美術学芸課美術品登録調査官)、高井健司氏(大阪市ゆとりとみどり振興局)、椿原靖弘氏(藤枝市郷土博物館学芸員)、田実菜穂子氏(お茶の郷博物館学芸員)、西野和豊氏(フェルケール博物館館長)

③災害対策講習会「文化財への応急処置」

3月6日 浜松市立城北図書館

講師：内田俊秀氏(京都造形芸術大学教授)、高橋利明氏(楽浪文化財修理所所長)

(4)会報(No.59・No.60)の発行

No.59 9月30日、No.60 3月31日

(5)研究紀要(No.31)の発行 3月31日

(6)静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

(7)東海地区博物館連絡協議会、理事会、総会の開催

7月25日 静岡県立美術館

(8)随時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

＜その他＞

小針由紀隆：静岡アートギャラリー企画協力委員

第44回静岡県芸術祭審査委員

国立西洋美術館美術品選考委員

静岡市新美術館準備検討委員

第24回国民文化祭美術展企画委員

飯田 真：豊橋市美術博物館資料収集委員

文化財保存修復学会第29回大会実行委員

静岡市文化財保護審議委員

堀切正人：VOCA展推薦委員

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4版8ページ、オールカラー

■第85（春）号 2007年4月1日発行

表紙 武内鶴之助《英国風景》／村上 敬 ……p. 1
 ボックスアート プラモデルパッケージ原画と戦後の
 日本文化／村上 敬 ……p. 2
 ヴェネツィア絵画のきらめき—栄光のルネサンスから
 華麗なる18世紀へ—／南 美幸 ……p. 3
 平成18年度新収蔵品のご紹介／森充代、村上敬、南美
 幸、堀切正人 ……pp. 4, 5
 研究ノート 静岡県立美術館の使命（ミッション）と
 戦略の策定について／泰井 良 ……pp. 6, 7
 本の窓『フランチェスコの暗号』／南 美幸 ……p. 7
 美術館問はず語り「赤字の苛立ち」／新田建史 ……p. 8

■第86（夏）号 2007年7月2日発行

表紙 狩野芳崖《寿老人図》／福士雄也 ……p. 1
 NHK日曜美術館30年展 名品と映像でたどる、とって
 おきの美術案内／川谷承子 ……p. 2
 懐かしい、新しい…大正シック展 あるアメリカ人女
 性が愛したコレクションの里帰り／森 充代 ……p. 3
 「石田徹也—悲しみのキャンバス」展／堀切正人
 ……p. 4
 ただいま準備中！「心の風景 名所絵の世界」展／飯
 田 真 ……p. 5
 研究ノート ロダンの空間プロデュース—アルマ展に
 おける台座を中心に—／南 美幸 ……pp. 6, 7
 美術館問はず語り「異文化吸収の力—仏教美術の面白
 さ」／宮治 昭 ……p. 8

■第87（秋）号 2007年10月1日発行

表紙 草間彌生《最後の晚餐》／川谷承子 ……p. 1
 草間彌生の世界 初期油彩画の代表作から近作まで／
 川谷承子 ……p. 2
 心の風景 名所絵の世界／飯田 真 ……p. 3
 夏休み子どもワークショップ「どっぶり日曜美術館！」
 ／岡崎隆司 ……p. 4
 谷田の丘を文化の丘に 地域連携を深める／小針由紀
 隆 ……p. 5
 研究ノート 石田徹也の作品について—逡巡する自画
 像／堀切正人 ……pp. 6, 7
 本の窓『だまされる視覚 錯視の楽しみ方』／新田建史
 ……p. 7
 美術館問はず語り「モノの語る声」／新田建史 ……p. 8

■第88（冬）号 2008年1月2日発行

表紙 秋野不矩《廻廊》／森 充代 ……p. 1
 「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡」展／堀切正人
 ……pp. 2, 3
 鈴木敬初代館長を偲んで／小針由紀隆 ……p. 4
 移動美術展の報告／堀切正人 ……p. 5
 第47回静岡県芸術祭 芸術部門〈美術展〉報告／福元
 清志 ……p. 5
 研究ノート「現代の風景」展に向けて／川谷承子
 ……pp. 6, 7
 本の窓『狂人の太鼓』／新田建史 ……p. 7
 美術館問はず語り「子どもと一緒に美術館」／福元清
 志 ……p. 8



第85(春)号



第86(夏)号



第87(秋)号



第88(冬)号

施設利用状況(年度別)

年度		県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
61		93,918	8,005	10,000		
62		95,635	9,911	10,000		
63		112,528	10,346	14,714		
元		98,806	12,474	11,937		
2		101,477	11,432	8,274		
3		91,342	13,755	8,545		
4		109,287	14,442	9,499		
5		95,903	10,927	9,308		
6		108,004	12,060	9,159		
7		73,254	10,717	7,015		
8		109,076	9,487	8,621		
9		87,436	10,615	6,486	4,257	
10		69,099	10,314	6,537	25,624	132
11		67,159	11,601	6,192	16,773	154
12		69,553	10,169	5,520	12,619	235
13		76,882	10,205	5,033	11,210	361
14		69,974	10,985	4,782	9,659	306
15		80,499	25,927	4,627	7,544	345
16		69,209	8,852	4,377	5,970	299
17		69,357	11,762	4,626	4,904	289
18		81,657	10,700	5,087	8,891	499
19		70,217	10,668	5,580	5,253	365
19年度 月別 内訳	4	3,856	890	392	470	27
	5	5,389	295	560	701	38
	6	4,926	404	501	468	34
	7	3,496	962	320	186	29
	8	15,553	1,570	846	814	43
	9	5,312	900	544	420	28
	10	3,855	710	377	456	17
	11	5,354	700	297	353	24
	12	2,946	723	226	236	22
	1	1,030	943	450	266	35
	2	6,346	1,390	490	290	30
	3	12,154	1,181	577	593	38
計		1,900,272	255,354	165,919	112,704	2,985

県民ギャラリー利用状況

No	公開開始	公開終了	日数	会場	入場料	展覧会名	主催者名	入場者数(人)
1	3/27(火)	4/1(日)	6	A B	無	桜香富士—SAKURA KAORU FUJI—	世界文芸社	77
2	4/10(火)	4/15(日)	6	A B	無	第26回一基書展	一基会 柿下木冠	1,068
3	4/17(火)	4/30(日)	12	A B	無	第34回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡支部	2,711
4	5/2(水)	5/6(日)	5	B	無	荻生昌平水彩画展	荻生昌平	1,169
5	5/8(火)	5/20(日)	12	A B	無	第44回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,446
6	5/23(水)	5/27(日)	5	A	無	静岡形象派展	形象派美術協会静岡支部	542
7	5/23(水)	5/27(日)	5	B	無	第12回パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	783
8	5/29(火)	6/3(日)	6	A B	無	第17回静岡県女流美術協会展	静岡県女流美術協会	1,223
9	6/5(火)	6/17(日)	12	A B	無	第72回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,787
10	6/19(火)	7/1(日)	12	A B	無	第35回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	2,683
11	7/3(火)	7/8(日)	6	A B	無	第19回静岡独立美術展	静岡独立美術協会	1,287
12	7/24(火)	8/19(日)	24	A B	無	石田徹也—悲しみのキャンパス—	当館・石田徹也展実行委員会	13,572
13	8/21(火)	8/26(日)	6	A B	無	静岡県写真愛好家秀作展	松永旭	2,332
14	8/28(火)	9/2(日)	6	A	無	庫流	三輪民庫	1,077
15	8/28(火)	9/2(日)	6	B	無	子ども造形デザイン絵画教室第4回展覧会	大森恵	1,149
16	9/5(水)	9/9(日)	5	A B	無	第23回千代の会書展	千世の会	690
17	9/11(火)	9/17(日)	7	A B	無	第38回独立書展静岡支部展	財団法人独立書人団静岡県支部	1,350
18	9/19(水)	9/24(月)	6	A	無	第5回墨絵展	佐野美術館友の会 宮内完吾	1,064
19	9/19(水)	9/24(月)	6	B	無	わらしパネル作品展	青島弘幸	880
20	9/26(水)	9/30(日)	5	A	無	能面展	静岡能面研究会	642
21	10/2(火)	10/8(月)	7	A B	無	静岡県フレミッシュ織教室工芸展	朝原智子	1,263
22	10/10(水)	10/14(日)	5	A B	無	第25回静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	2,592
23	11/6(火)	11/11(日)	6	A	無	和紙ちぎり絵作品展	株式会社全国教育産業協会	1,039
24	11/6(火)	11/11(日)	6	B	無	第13回パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	879
25	11/13(火)	11/25(日)	12	A B	無	第55回静岡県高等学校美術・工芸展中部支部展	静岡県教育委員会・静岡県高等学校文化連盟	2,880
26	11/27(火)	12/2(日)	6	A B	無	第33回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	1,200
27	12/4(火)	12/9(日)	6	A B	無	光のアート展	清水船越小学校・当館	1,397
28	12/11(火)	12/16(日)	6	A B	無	伊豆蔵明彦とその仲間展	NPO国際ナショナル自然染織委員会	385
29	12/18(火)	12/24(月)	6	B	無	静岡北養護学校作品展	静岡県立静岡北養護学校	520
30	1/22(火)	2/3(日)	12	A B	無	第11回静岡県すこやか長寿祭美術展	財団法人しずおか健康長寿財団	1,954
31	2/5(火)	2/17(日)	12	A B	無	「発掘された仏教遺跡・遺物～しずおかの発掘最前線～」	当館・静岡県教育委員会	3,592
32	2/19(火)	2/24(日)	6	A B	無	第20回静岡県特別支援学校高等部合同作品展	静岡県教育委員会・静岡県高等学校文化連盟	1,052
33	2/26(火)	3/2(日)	6	A B	無	第29回ジュニア県展	静岡県教育研究会・静岡新聞社・静岡放送	4,754
34	3/4(火)	3/9(日)	6	A B	無	第27回一基書展	一基会 柿下木冠	1,006
35	3/11(火)	3/23(日)	12	A B	無	第28回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	3,899
36	3/26(水)	3/30(日)	5	A	無	金泥書展	特定非営利活動法人金泥書フォーラム	1,460
37	3/25(火)	3/30(日)	6	A	無	戸塚ししゅう矢野亮子教室作品展	矢野亮子	1,813
計							37件	70,217

※No 1 の入場者数は4/1(日)のみ。

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

<広報活動>

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・ 広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・ 展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

<ホームページ>

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で9年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度(1997)		6000	
平成10年度(1998)	12000	累計	18000
平成11年度(1999)	21000	累計	39000
平成12年度(2000)	40000	累計	79000
平成13年度(2001)	70200	累計	149200
平成14年度(2002)	87300	累計	236500
平成15年度(2003)	85000	累計	321500
平成16年度(2004)	98000	累計	419500
平成17年度(2005)	103500	累計	523100
平成18年度(2006)	155400	累計	678500
平成19年度(2007)	164500	累計	843000

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、本年度は164500（一日平均450）アクセスで、昨年度の件数と比較して1割増え、昨年に続き、過去最高を記録した。4年前の平成15年度と比較すると2倍増となっており、このデータからここ数年、インターネットを通じて情報を収集する人の数が飛躍的

に伸びていることが確認できる。

当館では、コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成19年度には、サイトの構成およびデザインを大幅にリニューアルした。トップページを、美術館周辺のプロムナードや公園を想像させる緑を基調とする、当館コレクションの図像をコラージュしたデザインに一新したほか、情報ページには、画像に動きを出すソフトウェアを使用して、展覧会やコレクションの魅力をよりいっそう伝えることができるようなページ作りをこころがけた。

また各カテゴリーの内容も、カレンダー欄や、休館日情報などをはじめとして、重複するものを削り、足りないものを補うなどして整理した。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

紀要の発行

当館では、美術館建設準備室時代の昭和58年度に第1号を刊行して以来、ほぼ毎年一回のペースで紀要を刊行してきた。

紀要刊行の目的は、美術館活動の基盤となる学芸員の研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。研究対象は主として館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術及び美術館をとりまく諸問題を扱う。

刊行された紀要は、美術館・大学をはじめとする全国の研究機関、研究者等へ配布された。

■ 第23号

29.7×21.0cm 53ページ

平成20年3月31日発行

■ 第23号内容

・ 口絵図版

円山応挙《桃山春景・嵐山秋景図》左幅
同右幅

・ 論文

新田建史

ジョン・マーティン作『失楽園』中の一図、《光明の創造》の着想源について

南 美幸

「女ケンタウロス」に見られるロダンのもう一つの革新性

福士雄也

円山応挙筆《桃山春景・嵐山秋景図》について
一名所絵としての位置付けと賛者との関わりー

・ 各論文英文レジュメ



研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

◆飯田 真

- ・「江戸時代の絵画と名所絵」『名所絵の世界』展図録（静岡県立美術館／平成19年11月）

◆南 美幸

- ・「研究ノート：ロダンの空間プロデュース—アルマ展における台座を中心に—」『アマリリス』No.86（静岡県立美術館ニュース／平成19年7月）
- ・「『女ケンタウロス』に見られるロダンのもう一つの革新性」『静岡県立美術館紀要』第23号（平成20年3月）

◆堀切正人

- ・「技あり！キュレーター 学芸員の企画術に迫る 第5回」『月刊ギャラリー』2007年7月号
- ・「逡巡する自我像」『石田徹也—悲しみのキャンバス』展小冊子（石田徹也展実行委員会／平成19年7月）
- ・「研究ノート：石田徹也の作品について—逡巡する自我像」『アマリリス』No.87（静岡県立美術館ニュース／平成19年10月）

◆新田建史

- ・「静岡県立美術館における温熱環境の測定とシミュレーション解析」（文化財保存修復学会第29回大会でのポスター発表／平成19年6月）、犬塚将英氏、石崎武志氏（東京文化財研究所）、白石靖幸氏（北九州市立大学）らとの共同研究
- ・「静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ」『保存科学』第47号（東京文化財研究所／平成20年3月）、犬塚将英氏、石崎武志氏（東京文化財研究所）らとの共同研究
- ・「ジョン・マーティン作『失樂園』の中の一図、『光明の創造』の着想源について」『静岡県立美術館紀要』第23号（平成20年3月）

◆川谷承子

- ・「研究ノート：『現代の風景』展に向けて」『アマリリス』No.88（静岡県立美術館ニュース／平成20年1月）

◆村上 敬

- ・「昭和初期のヴィジュアルイメージと『原画としての戦争画』」『ボックスアート—プラモデルパッケージ原画と戦後の日本文化』展図録（モマ・コンテンツポラリー／平成19年4月）
- ・口頭発表「関保之助と明治41年の遊就館整理事業」【美術史学会全国大会／九州国立博物館】（平成19年5月）

◆福士雄也

- ・口頭発表「若冲晩年期の様式に関する一考察—西福寺の襖絵を中心に」【美術史学会西支部例会／関西学院大学】（平成19年9月15日）
- ・「西福寺の若冲襖絵—鶏に投影されたイメージと晩年期における様式—」『京都美学美術史学』第7号（平成20年3月）
- ・「円山応挙筆『桃山春景・嵐山秋景図』について—名所絵としての位置付けと賛者との関わり—」『静岡県立美術館紀要』第23号（平成20年3月）

研究会

平成19年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は、準備室時代から始まり、ほぼ月1回ペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長および同僚たちとの質疑応答を行う。20数年続いているこの研究会は、当館でアカデミックな伝統を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

5月

下村観山・横山大観《日・月蓬萊山図》について

森 充代

明治33年(1900)、第8回日本絵画協会・第3回日本美術院連合絵画共進会に出品された《日・月蓬萊山図》について、朦朧体と主題との関連を軸に考察した。

本作は、蓬萊山という伝統的・東洋的な主題を取り上げながら、神仙世界の霊山としての吉祥性を抑制し現実感や実在感を導入することで、それまでにない新しい蓬萊山像を打ち出したものである。かつ、運動感を抑制した静謐な画面作りによって、主題に求められる本来の霊性や超俗性、スケール感の表現にも成功している。その両面において、三次元的空間表出と暗示的效果という朦朧体の二面性が効果的に用いられている。新技法を駆使して伝統的な蓬萊山図に新意を発揮したものであり、新時代の“日本画”によって東洋画題を再構築していこうとする、この時期の彼らの目的にも適った作品といえる。

6月

石田徹也の自我像について

堀切正人

石田徹也は、1973年に静岡県焼津市に生まれた。新進気鋭の画家として注目されたが、2005年に踏切事故にあい夭折した。その後、NHKテレビ「新日曜美術館」の本編で紹介されてから、大きな反響が起り、注目を集めている。当館でも、07年7月24日から8月19日にかけて「石田徹也ー悲しみのキャンバス」展を開催し、13,500人を越える来場者を記録し、その後、ご遺族から代表作21点の寄贈を受けた。

石田徹也がスケッチブックに描き残した言葉からは、自己と他者、そして社会の関係に腐心していたことがうかがえる。また、石田作品には、そのほとんどに自画像らしき短髪の男性が描かれているが、スケッチの段階から自らの顔が描かれているわけではない。つま

り自我を見つめ、探究するといった自画像ではなく、他者性や社会性との関係の中における表象としての自己が描かれているのである。これらのことから、石田作品の特性について考察した。

7月

関保之助と明治41年の遊就館整理事業

村上 敬

日本のミュージアムの先駆けのひとつであった靖国神社附属遊就館は明治41年に整理事業（整理委員長・森林太郎）をおこなっている。本発表では、この整理事業において有職故実家・関保之助が果たした役割と、この事業が日本のミュージアム政策黎明期において果たした美術史上の意義を考察した。

関保之助はこの整理事業の実施にあたり、一通の意見書を執筆しているが、発表者はこの意見書に盛り込まれたミュージアム経営上の先駆的なアイデアを意義深いものとして評価した。また、このアイデアが帝室博物館の現場を知る関から出てきたという点、森林太郎や寺内正毅という整理事業の責任者の目に触れたという点においても重要度は高いと考えることができる。以上の諸点から、発表者は関保之助は日本におけるミュージアムの歴史に一定の役割を果たしたと結論づけた。

8月

「三保」を描いた絵画をめぐる

飯田 真

静岡市清水区にある「三保」は、いわゆる「名所」で、羽衣伝説の舞台として、白砂青松の美しい松（三保松原）をとまなう砂嘴として全国にその名を知られている。本発表では、古代まで遡ることのできる、三保に関する文学等の言説について整理し、そのイメージがどのようなものであったかを確認した。その上で、三保を描いた絵画作品の作例を紹介し、画題としての三保がいかなるものであったか、そしてその捉え方や表現方法がどう変わっていったのかについて考察した。三保は、旅行者によって富士周辺の景勝地として認知されていき、紀行文や伝聞などにより流布していった。そのため、富士山の添景としてのイメージが投影されることになった。さらに、富士三保松原図の名所絵の定型パターンが継承され、展開していく様子を紹介した。

9月

「現代の風景」展（仮称）の出展作家について

川谷承子

「風景」をテーマにした現代作家のグループ展を翌年にひかえた今年度の研究発表では、約1年かけて進めてきた調査の成果を元に絞り込んだ「現代の風景」展（仮称）の出展候補作家8名の作品を、スライドを見せながら紹介するとともに、8人の作家にそれぞれの作風の特徴を考察した。

あわせて「風景」をテーマにするこの展覧会が、絵画、写真による平面作品を中心に組み立てられる点、本展が現代美術の展覧会であるということを強く打ち出すため、評価がある程度定まった中堅作家というよりも、今後の活動が期待される作家を中心に紹介する点など、企画意図についても説明した。

本発表と発表後の課員との議論を通じて、一見ばらばらに見える8人に通じる、時代の気分や造形的な特徴を、言葉ですくいあげ、いかに第三者に説明することができるかが今後の課題であることが明らかになった。また、8人が表現する「風景」を、作家の内面と、外界とのかかわりという観点から読み取っていくという、解釈の糸口をつかむことができた。

11月

ヘンリー・ムーアの版画制作—3つのアルバムにみる1960年代終わりから1970年代初頭にかけての特質—

南 美幸

平成20年度に開催を予定し、準備を進めている「十二の旅」展は、国内収集によるイギリス美術を紹介する展覧会である。本展に出品されるヘンリー・ムーアの3つの版画アルバム（《像の頭蓋骨》、《ストーン・ヘンジ》、《オーデン・ポエム》）を取り上げ、同時代のムーア自身や批評家らの証言・テキストを読み解きながら、そのコンセプトや技法などに関する共通点と相違、また時間を追って進化した過程やグラフィックに対する考え方の変化について考察した。

11月

小針由紀隆

ハムステッドのジョン・コンスタブル—1821/2の風景習作を中心に

N.ペヴスナーによれば、19世紀ヨーロッパの風景画芸術は、量塊を配する風景画から大気の風景画へと展開したという。この展開を先導したのは英国の画家た

ち、なかでもジョン・コンスタブル（1776-1837）であった。コンスタブルは、大陸から流れ込んだ風景画の伝統を学ぶ一方で、故郷サフォーク州のストゥア川流域の自然により深い愛着を抱き続けた。1821年と翌22年のコンスタブルは、ロンドン北郊の小村ハムステッドに家族とともに移り住み、ここで雲の習作をはじめ、多くのハムステッド風景をスケッチした。彼にとって、絵画は科学であり、自然法則の研究として追及されるべき領域であった。しかし、ハムステッドでの風景習作は、こうした絵画観に基づく自然探求でありながら、コンスタブルの中で複雑に肥大していたエゴイズムを内包していたようにも思われる。本発表は、コンスタブルの芸術家としての資質と、1820年代前半の私的情況を十分考慮した上で、ハムステッドで制作した絵画における特質を探るものである。

12月

円山応挙筆《桃山春景・嵐山秋景図》について一名所絵としての位置づけと賛者との関わり—

福士雄也

11～12月に当館で開催された「名所絵の世界」展は、その起源が平安時代に遡るという所謂「名所絵」について、室町時代から明治時代に至るまでの諸相と展開を紹介するものであった。出品作品のうち、表題作品はこれまで詳細に論じられたことがなかったが、今回の展示の機会を利用し、名所絵の展開における本作品の位置および応挙と2人の賛者との関わり、という二つの点について考察を行った。

前者については、応挙が伝統的な名所絵のスタイルを継承しつつ実際の視覚経験をも巧みに作品に反映させていることを指摘し、後者については裏松固禪、西洞院時名という有職故実家、公家との交流という応挙の作画環境を示す資料としての重要性を指摘した。また、固禪、時名と応挙は本作の制作以前から直接に交流があった可能性があり、本作における賛と画との密接な関係からしても、本作は3者のいわば合作のかたちで制作されたと考えられると結論付けた。

応挙の空間表現という問題についても示唆するところが多く、これは「真景図」も含めた江戸中期以降の風景表現を考える上でも重要な問題であろう。なお、発表内容は同名の拙稿（『静岡県立美術館紀要』23号2007）で公表した。

1 月

静岡県立美術館自己評価の結果から—アンケート集計結果に見る普及事業の傾向と問題点—

福元清志

本発表では、初めてまとめられた「静岡県立美術館自己評価報告書」を分析し、当館の普及事業について、成果と現在の傾向、今後の問題点を考察した。

まず、評価対象である平成18年度実施事業の目標達成率を確認すると、個々の項目が概ね100%を超えており、満足すべき結果のように見えた。しかし、考察を加えると、普及事業の目的や目標値の決め方など、今後の検討が必要な面も明らかになってきた。

次に、評価の基盤となるアンケートの集計結果に着目し、普及事業参加者の属性や、参加の傾向などを分析すると、近隣地域に顧客が集中することや、中学生～20歳代の参加者が極端に少ない現状が浮き彫りとなった。一方で、新規顧客が多いプログラムと、そこから展開して体験を深めるプログラムを利用者が上手に選んで参加していることがデータで示されており、各事業が狙ったとおりの成果をあげていることが窺えた。また、予想以上に「時間があったら展示室に子どもを連れて行きたい。」と考えている人の割合が高いと読み取ることができるため、展示室からのアプローチなど新たな取り組みが必要であることを指摘して発表を終えた。

2 月

ジョン・マーティン作『失樂園』中の一図、《光明の創造》の着想源について

新田建史

ジョン・マーティン作『失樂園』（1825～1827年、当館所蔵番号p-280-940(1-24)）は、ジョン・ミルトン（1608～1674）の叙事詩に取材した、24点のメゾティント連作である。その第16図《光明の創造》は『聖書』『創世記』にも典拠を持つ主題である。本発表では、マーティンがこの場面を制作していた1825年頃、この主題が『失樂園』そして『聖書』を絵画化する際の主題としては稀であることを指摘した。また、唯一の先行作例である1742年パリ版『失樂園』の図を参照しつつ、本図の源泉を2系統に分類し、《光明の創造》図様が伝播の際に別の図像へ転用される例を挙げ、図像研究と図様研究との差異について考証した。さらに挿絵入りの『失樂園』としては最初である1688年のロンドン版に見られる《地獄の門の前のサタン、罪、死》の図像上の典拠がマンテーニャのエングレーヴィング《リンボのキリスト》であることを指摘した。

3 月

学習指導要領の変遷と美術科

岡崎隆司

学習指導要領は、文部大臣が文部省告示をもって、全国どこで教育を受けても一定の水準の教育が受けられるようにするため、各学校段階の教育課程の基準を示したもので、最初の指導要領は昭和22年版に「試案」という形で発行された。昭和22年版の特徴は、図画工作科を実生活で役立ち、社会に出て役立つような能力や態度を養うための教科ととらえていたことである。4年後には昭和26年版が発行され、その後昭和33年版、44年版、52年版、平成元年版、10年版とおよそ10年ごとに改訂が行われ、先日7度目の改訂が行われた。平成元年版、10年版及び新指導要領には、「鑑賞」の指導について、美術館の利用、連携を図ることが明示され、美術館においても教育普及の観点から、その方法について検討していくことが必要とされている。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館蔵品資料（館蔵品番号順）
- (3) 出品作家資料（各企画展ごと）
- (4) 館蔵品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影をおこなっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として受入番号順ホルダーに入れ、キャビネットに整理収納している。

なお、これまでの写真原板には撮影後10年を経た色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲内で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。また、昨今のデジタル写真主流化の流れを受け、ポジフィルムデューブ作業受注を取りやめる業者がでてきている。デジタルデータは利用至便なものであり、市場原理にしたがってそちらに資源を注力せざるを得ないのも理解できる。だが、銀塩写真も文化であり、将来これらの資源が利用できなくなるような事態に陥らないよう、関係業界の節度ある対応や文化政策上の配慮を望みたい。

(2) 館蔵品のデジタル画像

コンピュータで利用できるように、平成7年度から館蔵品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度から、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影をあわせておこなっている。作成または撮影されたデジタル画像は、CDおよびDVDに保存され、インターネット上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会などに活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの遡及撮影が懸案となっている。

(3) その他

館蔵品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理には、ボランティアによる資料整理グループ「グループD」があたり、整理が進んでいる。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各企画展ごとに整理がおこなわれ、キャビネットに収められている。

■コンピュータによる各種データ管理

館蔵品データベースや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータベースソフト「桐」を使用し、以前より進められてきた。入力作業にはボランティア有志によるコンピュータ入力チーム「パソコン隊」の支援をいただいている。新たに発生するデータについては、日常業務の延長線上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

(1) 館蔵品

館蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像はフォトCD化したものを中心に蓄積されており、主な作品については揃っている。未作成の作品については順次整備をすすめる必要がある。

履歴データは5種（伝来、修復歴、展覧会出品歴、収蔵品展展示歴、文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等の諸業務と連携させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施、公開用フォーマットの検討をおこなった。データ公開へのコンテンツはほぼ整っているが、インターネット上での公開には検索エンジンの実装や著作権問題といった検討課題も多く、これらの解決と業界標準化が待たれる。

(2) 図書

図書は基本的には手作業によって収集・受入・整理作業がおこなわれているが、データはデジタル化されている。

新規受入については、図書担当職員によるデータベース登録がおこなわれている。平成18年度以降、館内および図書閲覧室でのデジタル図書検索がおこなわれている。

平成19年度新収蔵品

平成19年度には、別表の通り、購入2件、ご寄贈23件の計25件が新たに収蔵された。

当館は、以下に挙げる5項目を収集方針としている。

- ①17世紀以降、日本と西欧で制作された風景画の収集に努める。
- ②ロダンを中心とした内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ③20世紀以降の美術の動向を示す美術作品の収集

に努める。

④静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。

⑤富士山をモチーフにした作品の収集に努める。

本年度の新収蔵品は①～④に該当する。

ジャンル別の内訳は、

現代美術 1 件、日本洋画22件、西洋絵画 2 件である。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
1	現代美術	草間彌生	水上の蛍	2000 (平成12)	鏡、金属、電球、木、アクリル板、水	442.4×442.4×320.0	購入	150灯の電飾が輝く空間作品。鏡と水に映りこんだ光が無限に反復を繰り返す。 
2	日本洋画	田中 保	セーヌの宵	1920 (大正9)	キャンヴァス、油彩	54.5×65.4	購入	作者渡仏初期の作品。セーヌの夕景に日本的な叙情を添える。 
3	西洋絵画	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景	1797	ガラス、油彩	12.0 (直径)	パトリック・マティッセン氏寄贈	直径12cmの円形ガラスに油彩で描かれた珍しい風景画。 
4	西洋絵画	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景	1797	ガラス、油彩	12.0 (直径)	パトリック・マティッセン氏寄贈	直径12cmの円形ガラスに油彩で描かれた珍しい風景画。 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法
5	日本洋画	石田徹也	ビアガーデン発	1995 (平成7)	紙、アクリル	51.0×78.5	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
6	日本洋画	石田徹也	居酒屋発	1995 (平成7)	紙、アクリル	51.0×78.5	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
7	日本洋画	石田徹也	SLになった人	1995 (平成7)	紙、アクリル	85.8×60.7	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
8	日本洋画	石田徹也	(無題1)	1995 (平成7)頃	板、アクリル	72.8×103.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
9	日本洋画	石田徹也	飛べなくなった人	1996 (平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
10	日本洋画	石田徹也	社長の傘の下	1996 (平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
11	日本洋画	石田徹也	燃料補給のような食事	1996 (平成8)	板、アクリル	145.6×206.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	取得方法
12	日本洋画	石田徹也	トイレへ逃げこむ人	1996 (平成8)	板、アクリル	103.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
13	日本洋画	石田徹也	兵士	1996 (平成8)	板、アクリル	206.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
14	日本洋画	石田徹也	引き出し	1996 (平成8)	キャンヴァス、アクリル	59.4×42.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
15	日本洋画	石田徹也	クラゲの夢	1997 (平成9)	板、アクリル	103.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
16	日本洋画	石田徹也	(無題2)	1997 (平成9)頃	板、アクリル	103.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 
17	日本洋画	石田徹也	めばえ	1998 (平成10)頃	板、アクリル	145.6×206.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈 

便器、人影、人の手など心理学的モチーフが、現代人の疎外感を強調する。

箱や部屋など矩形の空間に引きこもる人物像は、石田作品の特徴の一つ。

葬式や棺桶のモチーフも、しばしば描かれた。

睡眠のテーマは頻繁に描かれた。疲弊する現代人。

石田はギャグやユーモアで、自嘲気味に笑い飛ばすことをコンセプトとしていた。

現代の子供を管理、束縛する学校への風刺。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
18	日本洋画	石田徹也	市場	1999 (平成11)	板、アクリル	206.0×145.6	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							中期以降、象徴性が強まる。自身がつけていた夢日記に取材か。
							
19	日本洋画	石田徹也	彼方	1999 (平成11)	板、アクリル	145.6×206.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							自身の入院経験から、病院、看護師モチーフが描かれる。
							
20	日本洋画	石田徹也	(無題3)	2000 (平成12)頃	キャンヴァス、アクリル	194.0×162.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							パネルにアクリル絵の具から、キャンパスに油彩へと移行していく時期の作品。
							
21	日本洋画	石田徹也	(無題4)	2000 (平成12)頃	キャンヴァス、アクリル	194.0×162.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							入れ子状の空間構成と、幼児に表象される生命の循環が、後期の特徴となる。
							
22	日本洋画	石田徹也	(無題5)	2001 (平成13)頃	キャンヴァス、アクリル	45.5×53.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							患者の衣の合わせ方など、精神分析学的な解釈を誘う。
							
23	日本洋画	石田徹也	(無題6)	2001 (平成13)頃	キャンヴァス、アクリル	130.0×162.0	石田嘉弘・サチ子氏寄贈
							宅地造成、土地狂乱、バブル崩壊など、空地は時代を写す鏡。
							

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
24	日本洋画	石田徹也	(無題7)	2004 (平成16)頃	キャンヴァス、 アクリル、油彩	145.5×194.0	石田嘉弘・ サチ子氏 寄贈
							自我を見つめ続けた石田徹也がたどり着いた到達点のひとつ。
							
25	日本洋画	石田徹也	(無題8)	2004 (平成16)頃	キャンヴァス、 アクリル、油彩	91.0×116.7	石田嘉弘・ サチ子氏 寄贈
							最晩期の作品。描くことの苦悩を直截的に吐露する自画像。
							

■収集点数一覧(昭和55年度～平成19年度)

(1) 購入(平成20年3月31日現在)

(百万円単位)

年度 種類		55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	合 計	
																					点数	金額									
日本画			14	9	10	3	7	4	3	5	5	2	1	3	5	8	4	3	5	5	4	1	2	3	7	4	2			119	1,640
油彩画			14	5	6	10	10	4	6	3	2	1	8	4	3	8	8	2	4	4	3	3	1	4	2	2		1	118	2,816	
水彩画			4	3	2		2	1					2		2	1	1	4	1	1	2	2	1	1					30	313	
素 描			7		1							3					1										2		14	70	
版 画			58	3	60	27	5	16	85	1	3	43	268	4	68	27	152		2	52	37		9	9		60	22		1,011	355	
書		5		2																									7	80	
彫 刻			3		1	2	11	2	2	7	3	5	9	12	13	1						1				1		2	75	2,811	
工 芸			1																										1	3	
写 真										33	13																		46	8	
その他															3	4		4				1					7	1	20	141	
合 計	点数	5	101	22	80	42	35	27	96	16	46	67	288	23	94	49	166	13	12	62	46	7	14	17	9	67	31	4	2	1,441	8,242
	金額	74	287	563	483	597	669	240	242	499	392	598	675	768	557	395	397	137	146	120	88	46	39	45	52	56	41	6	30		

(2) 寄贈(平成20年3月31日現在)

年度 種類	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
日本画	71		2	17		4		75	4	1	1	3	2				3	3			1		2				9	198	
油彩画		19	1	8		1	6	1	1	1	1							5		2		5		1		3	23	78	
水彩画		1		1					1		1	1	2						4					7				18	
素 描		50	10	9			2			3			1				1				15							91	
版 画				176	1		16	1			2	3	1		1		1	4	17	1			6				1	231	
書	271		62	1		6																						340	
彫 刻			1				1				1	2																5	
工 芸						2	5	1																				8	
写 真											10																	10	
その他																					38							38	
計	342	70	76	212	1	13	30	78	6	5	16	9	6		1		5	12	21	3	54	5	8	8		3	10	23	1,017

図書資料の収集・整理

■収集

平成19年度の新たな受入により、当館蔵書は76,453冊となった。その累計内訳は、刊行図書35,338冊、美術雑誌19,436冊、美術館等刊行物21,679冊である（データのデジタル化による冊数表記の改定については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）により、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成19年度に行なった作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②分類表の改定

必要に応じて分類表の部分改定を行なった。

③誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入図書に関しては、データを訂正し、配架場所を改めた。

④定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を開架して、自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行なっている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

平成19年度の利用者は5,580人で、昨年度より493人増加した。

館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	池大雅	竜山勝会・蘭亭曲水図	フィラデルフィア美術館	「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館 (4/28-7/22)	4/21-8/1
2	池玉瀾	溪亭吟詩図	フィラデルフィア美術館	「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館 (4/28-7/22)	4/21-8/1
3	池玉瀾	山水草花図屏風	フィラデルフィア美術館	「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館 (4/28-7/22)	4/21-8/1
4	東山魁夷	秋富士	山梨県立美術館、岐阜県美術館、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社	「川崎小虎と東山魁夷展」	山梨県立美術館(4/21-5/27)	4/11-9/5
5	東山魁夷	秋富士	山梨県立美術館、岐阜県美術館、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社	「川崎小虎と東山魁夷展」	岐阜県美術館(7/20-8/26)	4/11-9/5
6	狩野永納	蘭亭曲水図屏風	町田市立国際版画美術館	「版画で語る日中交流史」展	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/24)	4/4-7/4
7	都路華香	松風村雨	京都国立近代美術館、東京国立近代美術館、笠岡市立竹喬美術館	「都路華香展」	笠岡市立竹喬美術館 (3/10-4/15)	06/11/7-07/4/25
8	坂田一男	祭壇の男	国際交流基金、パリ日本文化会館	「アジアのキュビズム」展	パリ日本文化会館(5/16-7/7)	5/6-7/17
9	アルベルト・ジャコメッティ	横たわる女	埼玉県立近代美術館、岡崎市美術館、山梨県立美術館、宮崎県立美術館、姫路市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「シュルレアリスム展 ー謎を巡る不思議な旅ー」	岡崎市美術館(4/7-5/27)	3/28-7/18
10	マックス・エルンスト	籠の中の鳥	埼玉県立近代美術館、岡崎市美術館、山梨県立美術館、宮崎県立美術館、姫路市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「シュルレアリスム展 ー謎を巡る不思議な旅ー」	岡崎市美術館(4/7-5/27)	3/28-7/18
11	アルベルト・ジャコメッティ	横たわる女	埼玉県立近代美術館、岡崎市美術館、山梨県立美術館、宮崎県立美術館、姫路市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「シュルレアリスム展 ー謎を巡る不思議な旅ー」	山梨県立美術館(6/2-7/8)	3/28-7/18
12	マックス・エルンスト	籠の中の鳥	埼玉県立近代美術館、岡崎市美術館、山梨県立美術館、宮崎県立美術館、姫路市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「シュルレアリスム展 ー謎を巡る不思議な旅ー」	山梨県立美術館(6/2-7/8)	3/28-7/18
13	円山応挙	竹雀図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/7-5/2
14	円山応挙	木賊兎図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/7-5/2
15	狩野永良	親子犬図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/7-5/2
16	曾宮一念	毛無連峯	兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館、美術館連絡協議会	「絶筆」展	兵庫県立美術館(5/29-7/8)	5/19-10/10
17	曾宮一念	毛無連峯	兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館、美術館連絡協議会	「絶筆」展	松本市美術館(7/13-8/19)	5/19-10/10
18	曾宮一念	毛無連峯	兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館、美術館連絡協議会	「絶筆」展	富山県水墨美術館 (8/24-9/30)	5/19-10/10
19	森村泰昌	批評とその愛人マケット	熊本市現代美術館	「森村泰昌ー美術の授業」展	熊本市現代美術館(3/24-7/8)	3/14-7/18

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
20	カミュー・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、ひろしま美術館、山梨県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「ミレー《落穂拾い》・モネ《積み藁》を中心にー光と大地の協奏」展	埼玉県立近代美術館 (10/27-12/16)	10/17-08/2/27
21	カミュー・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、ひろしま美術館、山梨県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「ミレー《落穂拾い》・モネ《積み藁》を中心にー光と大地の協奏」展	北九州市立美術館 (08/1/2-2/17)	10/17-08/2/27
22	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、ひろしま美術館、山梨県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「ミレー《落穂拾い》・モネ《積み藁》を中心にー光と大地の協奏」展	ひろしま美術館 (08/2/23-4/6)	08/2/13-(6/11)
23	児島善三郎	箱根	府中市美術館、北九州市立美術館	「田園の輝きー児島善三郎」展	川越市立美術館 (6/2-7/16)	5/23-9/5
24	児島善三郎	箱根	府中市美術館、北九州市立美術館	「田園の輝きー児島善三郎」展	北九州市立美術館 (7/22-8/26)	5/23-9/5
25	秋野不矩	廻廊	滋賀県立近代美術館	「松園・遊亀・不矩ー松園賞・文化勲章受賞の女流日本画家たち」	滋賀県立近代美術館 (4/21-6/3)	4/11-6/13
26	秋野不矩	ブラーミンの家	滋賀県立近代美術館	「松園・遊亀・不矩ー松園賞・文化勲章受賞の女流日本画家たち」	滋賀県立近代美術館 (4/21-6/3)	4/11-6/13
27	秋野不矩	ウダヤギリⅡ	滋賀県立近代美術館	「松園・遊亀・不矩ー松園賞・文化勲章受賞の女流日本画家たち」	滋賀県立近代美術館 (4/21-6/3)	4/11-6/13
28	中村岳陵	爽秋	井原市立田中美術館	「日本美術院ー追求された日本の美」	井原市立田中美術館 (4/27-6/3)	4/17-6/13
29	中村岳陵	婉賦水韻	井原市立田中美術館	「日本美術院ー追求された日本の美」	井原市立田中美術館 (4/27-6/3)	4/17-6/13
30	福田平八郎	雪庭	京都国立近代美術館、松坂屋美術館、京都新聞社	「福田平八郎展」	京都国立近代美術館 (4/24-6/3)	4/14-8/17
31	福田平八郎	雪庭	京都国立近代美術館、松坂屋美術館、京都新聞社	「福田平八郎展」	松坂屋美術館 (7/14-8/7)	4/14-8/17
32	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖	横浜美術館、日本経済新聞社、神奈川新聞社、tvk	「水の情景」	横浜美術館 (4/21-7/1)	4/11-7/11
33	谷文晁	雪景山水図	町田市立国際版画美術館	「中国憧憬ー日本美術の秘密を探れ」	町田市立国際版画美術館 (4/14-6/24)	4/4-7/4
34	森村泰昌	批評とその愛人マケット	熊本市現代美術館、横浜美術館	「森村泰昌ー美の教室、清聴せよ」展	横浜美術館 (7/17-9/17)	7/7-9/27
35	熊谷守一	はたるぶくろ	萬鉄五郎記念美術館、熊谷守一展実行委員会	「没後30年ー熊谷守一展」	萬鉄五郎記念美術館 (9/8-10/21)	8/21-08/3/31
36	熊谷守一	はたるぶくろ	成羽町美術館、熊谷守一展実行委員会、山陽新聞社、TSLせとうち	「没後30年ー熊谷守一展」	高梁市成羽美術館 (10/27-12/2)	8/21-08/3/31
37	熊谷守一	はたるぶくろ	天童市美術館、熊谷守一展実行委員会	「没後30年ー熊谷守一展」	天童市美術館 (12/14-08/1/27)	8/21-08/3/31
38	熊谷守一	はたるぶくろ	埼玉県立近代美術館、熊谷守一展実行委員会	「没後30年ー熊谷守一展」	埼玉県立近代美術館 (08/2/2-3/23)	8/21-08/3/31
39		富士曼荼羅図	三井記念美術館、朝日新聞社	「美術の遊びとところ『旅』」	三井記念美術館 (7/14-9/30)	7/4-10/10
40		富士浅間曼荼羅図	三井記念美術館、朝日新聞社	「美術の遊びとところ『旅』」	三井記念美術館 (7/14-9/30)	7/4-10/10

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
41	オーギュスト・ロダン	考える人	岩手県立美術館、NHK盛岡放送局、NHK東北プランニング	「NHK日曜美術館30年展」	岩手県立美術館(4/7-5/13)	(07/2/5)-9/10
42	オーギュスト・ロダン	考える人	長崎県美術館、NHK長崎放送局、NHK九州メディアス、長崎新聞社	「NHK日曜美術館30年展」	長崎県美術館(5/26-7/1)	(07/2/5)-9/10
43	オーギュスト・ロダン	考える人	静岡県立美術館、NHK静岡放送局、NHK中部ブレンズ	「NHK日曜美術館30年展」	静岡県立美術館(7/24-8/31)	(07/2/5)-9/10
44	小林清親	川中島合戦図屏風	長野県信濃美術館、長野県	「描かれた武士たちー武者絵の世界」展	長野県信濃美術館(7/28-8/26)	7/18-9/5
45	中村岳陵	残照	国立新美術館、社団法人日展、日本経済新聞社	「日展100年」展	国立新美術館(7/25-9/3)	7/15-11/14
46	中村岳陵	残照	宮城県美術館、河北新報社、仙台放送、社団法人日展、日本経済新聞社	「日展100年」展	宮城県美術館(9/23-11/4)	7/15-11/14
47	三宅克己	白壁の家(ベルギー、ブリュージュ)	宮城県美術館、河北新報社、仙台放送、社団法人日展、日本経済新聞社	「日展100年」展	宮城県美術館(9/23-11/4)	9/13-(08/4/8)
48	三宅克己	白壁の家(ベルギー、ブリュージュ)	広島県立美術館、中国新聞社、社団法人日展、日本経済新聞社	「日展100年」展	広島県立美術館(08/2/19-3/30)	9/13-(08/4/8)
49	和田英作	富士	刈谷市美術館	「和田英作ー三河・知立と刈谷に残した足跡を中心にー」展	刈谷市美術館(7/21-9/2)	7/11-9/12
50	和田英作	写生帖(奈良)	刈谷市美術館	「和田英作ー三河・知立と刈谷に残した足跡を中心にー」展	刈谷市美術館(7/21-9/2)	7/11-9/12
51	和田英作	写生帖(逢妻河畔)	刈谷市美術館	「和田英作ー三河・知立と刈谷に残した足跡を中心にー」展	刈谷市美術館(7/21-9/2)	7/11-9/12
52	坂田一男	祭壇の男	岡山県立美術館	「坂田一男展」	岡山県立美術館(9/28-11/6)	9/18-11/16
53	中村岳陵	水韻	島根県立石見美術館	「モダンガールズあらわる。昭和初期の美人画展」	島根県立石見美術館(08/2/29-4/7)	08/2/19-(4/17)
54	森村泰昌	批評とその愛人(1)~(7)	長野県信濃美術館、長野県	「五感でアート」展	長野県信濃美術館(10/27-12/16)	10/17-12/26
55	飯田昭二	Half and Half	長野県信濃美術館、長野県	「五感でアート」展	長野県信濃美術館(10/27-12/16)	10/17-12/26
56	前田守一	遠近のものさし	長野県信濃美術館、長野県	「五感でアート」展	長野県信濃美術館(10/27-12/16)	10/17-12/26
57	前田守一	遠近のものさし(折り尺)	長野県信濃美術館、長野県	「五感でアート」展	長野県信濃美術館(10/27-12/16)	10/17-12/26
58	丹羽勝次	箱シリーズ '68	長野県信濃美術館、長野県	「五感でアート」展	長野県信濃美術館(10/27-12/16)	10/17-12/26
59	麻田浩	旅・影	京都国立近代美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞社	「没後10年 麻田浩展」	京都国立近代美術館(7/31-9/17)	7/21-9/27
60	ドナルド・ジャッド	無題	町田市立国際版画美術館	「木版画東西対決ー仏教版画から現代まで」	町田市立国際版画美術館(10/6-11/25)	9/26-12/5
61	平賀亀祐	風景(プロマー・ドワルノーネ)	福井市美術館	「異邦人たちの夢ーエコール・ド・パリと巴里を描いた日本人」展	福井市美術館(10/2-11/4)	9/22-11/14
62	安井曾太郎	森の中	福井市美術館	「異邦人たちの夢ーエコール・ド・パリと巴里を描いた日本人」展	福井市美術館(10/2-11/4)	9/22-11/14

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
63	小出楯重	静物	福井市美術館	「異邦人たちの夢－エコール・ド・パリと巴里を描いた日本人」展	福井市美術館(10/2-11/4)	9/22-11/14
64	伝狩野光信	市姫の雛屏風	静岡市文化財協会、ほか	「駿府を最も愛した徳川家康公を偲んで」展	静岡市文化財資料館(10/5-11/18)	9/27-11/22
65	横山大観	群青富士	国立新美術館、朝日新聞社、没後50年横山大観展組織委員会	「没後50年 横山大観－新たな伝説へ」展	国立新美術館(08/1/23-3/3)	08/1/13-3/13
66		天平勝宝四年東大寺写経所請経文	岡山県立美術館	「名品とともに楽しむ表装の美」展	岡山県立美術館(08/2/26-3/23)	08/2/12-(4/6)
67		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第一断簡）	岡山県立美術館	「名品とともに楽しむ表装の美」展	岡山県立美術館(08/2/26-3/23)	08/2/12-(4/6)
68		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡（第二断簡）	岡山県立美術館	「名品とともに楽しむ表装の美」展	岡山県立美術館(08/2/26-3/23)	08/2/12-(4/6)
69	永村茜山	人物図巻	島田市博物館	「渡辺崋山と永村茜山」展	島田市博物館(08/2/9-3/23)	08/2/5-3/28
70	永村茜山	伊豆七島真景図巻	島田市博物館	「渡辺崋山と永村茜山」展	島田市博物館(08/2/9-3/23)	08/2/5-3/28
71	永村茜山	百堂図巻	島田市博物館	「渡辺崋山と永村茜山」展	島田市博物館(08/2/9-3/23)	08/2/5-3/28
72	永村茜山	鐘旭	島田市博物館	「渡辺崋山と永村茜山」展	島田市博物館(08/2/9-3/23)	08/2/5-3/28
73	山口源	能役者	駿府博物館	「山口源と静岡県の版画」展	駿府博物館(08/1/4-3/9)	12/25-08/3/19
74	山口源	夏の午後	駿府博物館	「山口源と静岡県の版画」展	駿府博物館(08/1/4-3/9)	12/25-08/3/19

美術作品の補修

平成19年度の修復作品

- ・村瀬雙石《柳に鶯図》本紙調整、表装新調
- ・宋紫岡(楠本雪溪)《竹林猿猴図》本紙調整、表装新調
- ・小林清親《川中島合戦図屏風》殺菌薫蒸
- ・ウジェーヌ・ドラクロワ『ファウスト』再装丁
- ・トニー・スミス《アマリリス》再塗装、作品下部防錆処置

彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品すべてについて、点検と洗浄を実施した。また、ロダン館およびブリッジギャラリーの彫刻作品について、乾拭きを行なった。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行なった。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 3 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内、トニー・スミス《アマリリス》は、昨年度の調査結果に基づき、次のような修復を行なった。

3-1 作品下部の防錆処置

下部に水分が溜まる構造になっていたため、作品土台の一部までを露出させ、耐久性の高いタールエポキシを塗布。さらにモルタル等で密閉する際、水勾配を設けることで、排水性を高めた。

3-2 作品本体の再塗装

オリジナルの塗装をサンダーによって剥離。下地層までを露出させた上で、改めて下地を形成。その上から再塗装を行なった。塗装には、オリジナルで使われたものと同一の製品を用いた。また作品本来のゆず肌（柑橘類の皮に見られるような凹凸状の表面）を再現するよう、注意した。

これらの修復作業の結果、作品の印象は劇的に変化した。新たに塗布された色面は、表面の微妙な凹凸とあいまって、工業製品にはあり得ない豊かな調子を取り戻した。

だが残念ながら、この状態は長く続かなかった。数日の内に、傘の先端によると思われる打撃痕、靴による足跡が多数付けられ、塗膜は破損した。

今後本作品の管理をどのように行なうのか、再修復か否かも含め、当館現代美術ジャンルで検討中で

ある。作品の性格上、周囲に柵などを設置するのは好ましくないため、作品の保全は鑑賞者のマナーにかかっている。

保存活動

美術作品を保存し、後世に伝えていくことは、美術館の持つ重要な機能の一つである。美術館は単に作品を公開するだけではなく、人類の文化遺産である文化財を、適切な形で管理していかななくてはならない。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境保全の試みを、推進していく方針である。大規模な燻蒸に頼る従来の方法を改め、環境を改善することで有害生物を施設内に入れず、カビ等の発生を防ごうとするこの方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

とはいえ、人間を含む生物全般への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましい。作品への影響も、当然のことながら考えられる。

基本方針としてIPMの考え方を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして導入していくのかを探っているのが、当館の現状である。

展示室等殺虫

当館では昨年度より、収蔵庫の臭化メチル・酸化エチレン製剤による殺虫・殺菌処理をとりやめている。年間を通じての環境調査の結果、収蔵庫内での虫菌害は確認されていない。

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は引き続き行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

収蔵庫等到大規模な虫菌害が発生した場合に備えての燻蒸用薬剤についての調査は、殺菌仕様、殺虫・殺卵仕様それぞれの場合に合わせ、今後とも継続する予定である。

環境調査

静岡は温暖湿潤であり、その文化財は虫菌害を受けやすい。この環境の中で先述のIPMを導入するためには、環境の調査が非常に重要になると考えられる。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者に

よる施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は調査項目を害虫の生息状況に、調査回数は2回に絞った。また、害虫侵入への対策として、作品等の搬入口シャッター計5箇所にはシャッターブラシを設置した。これは主に病院や食品工場等に使用されているもので、シャッター下部や壁体とシャッターとの隙間を埋める、毛足の長いブラシ状のものである。これにより、特に歩行性の害虫が侵入するのを防ぐことが期待される。

環境改善

一昨年度からの課題として、

①当館収蔵庫内空気環境のPh改善

②ロダン館の体感的な空気環境改善

両者について、昨年度に引き続き改善を試みた。

①について、昨年度調査結果により、空気環境にPh調整にとって問題となる物質の存在する可能性は判明した。だがそれらの物質が、どの程度の濃度で存在することで作品に対して問題となるのか、その基準が明確ではない。また、問題となる物質が特定出来た場合にも、それをどのように除去していくのか、方法を考えねばならない。今年度はこれら基準や方法についての調査を、通年行なった。

②について、東京文化財研究所の犬塚将英氏に引き続きご協力いただくと共に、清水建設のご協力をいただき、ロダン館の温熱環境がどのように状態にあるのか、シミュレーションモデルを構築していただいた。客観的な温湿度分布の検討と共に、作品監視に当たっているミューズ・スタッフからの意見聴取により、体感的な温湿度環境の把握も試みた。

普及活動

大規模燻蒸によらない保存環境保全のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。当館ボランティアや、展示室で監視業務に就くミューズスタッフへの研修は昨年度に引き続き実施されている。また博物館実習の中に「作品の保全について／IPMの試み」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部に理解を求める試みも行なわれている。

作品保全環境外部評価

当館の作品保全環境を美術館外部の有識者に評価していただき、環境保全の改善を目指す試みが行なわれ

た。本年度は東京文化財研究所保存科学部長石崎武志氏に依頼し、平常時の環境保全対策の状況、災害時の環境保全対策の状況について、評価をお願いした。

主な保存活動の経過

6月14日(木) ロダン館温熱環境調査

(東京文化財研究所、北九州市立大学、清水建設と共同)

6月16日(土)、17日(日)

文化財保存修復学会第29回大会、静岡にて開催(静岡市民文化会館)

6月21日(木)

アメニティメーターによる調査(東京文化財研究所と共同)

7月10日(火)～12日(日)

本館展示室、本館及びロダン館荷解室、県民ギャラリー殺虫処理

8月14日(火)

アメニティメーターによる調査(東京文化財研究所と共同)

11月26日(月)～12月7日(金)

外部業者環境調査第1回目

11月29日(木)

アメニティメーターによる調査(東京文化財研究所と共同)

12月7日(金)

シャッターブラシ設置

3月6日(木) 静岡県博物館協会災害対策講習会「文化財への応急処置」

3月7日(金)～3月17日(月)

外部業者環境調査第2回目

美術館ボランティア・地域サポーター

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に350人で活動を開始した。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。

■ボランティア改革

数年来取り組んできたボランティア改革も今期でひとつの節目を迎え、年度当初には登録年限（2年、再登録可）を設定した上での一斉再登録が行われた。前年度末の総会を経て正式に発足した「運営会」も活動を始め、各活動の調整を行うほか、自主的なボランティア組織としての活動指針となる規約を制定し、ボランティア全体の提案・投票により組織名称を定めるなど、自らの手で組織運営をしていくための基盤固めに力を注いだ。また、美術館の各部門のスタッフが集まり、来館者サービス等事業の改善について検討する「サービス改善委員会」に、運営会会長が出席するようになり、美術館を支えるスタッフとしてのボランティアの位置づけがより明確になりつつあるといえる。

20年来、大きな組織変えもなく継続してきた県立美術館ボランティアであるが、時代の変化、社会の変化とともに、新しいあるべき姿を模索する時期を迎えている。そのためには、ボランティアと美術館とが互いに存在意義や役割を再確認し、目的を共有しながら日常の諸活動にあたることが不可欠である。円滑なコミュニケーション、情報共有、意思疎通といった点で課題は非常に多いが、来館者サービスや地域連携などの分野において、運営会を核としながらさらにボランティアの活発な活動が展開されるよう、改革を継続していきたい。

■活動人数の推移（年度当初）

昭和61年度－	350名
昭和62年度－	307名
昭和63年度－	260名
平成元年度－	317名（新規参加者90名）
平成2年度－	263名
平成3年度－	240名
平成4年度－	223名
平成5年度－	347名（新規参加者140名）
平成6年度－	331名
平成7年度－	299名
平成8年度－	282名
平成9年度－	273名

平成10年度－	354名（新規参加者94名）
平成11年度－	316名
平成12年度－	297名
平成13年度－	265名
平成14年度－	331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度－	328名
平成16年度－	303名
平成17年度－	285名
平成18年度－	278名
平成19年度－	241名

■活動内容と役割

日常活動とグループ活動の2種があり、そのいずれかまたは両方に登録して活動する。

各々の詳細は下に記すが、このほか鑑賞研修も重要な活動と位置づけ、収蔵品展は随時、企画展は各展数回の鑑賞研修の機会を設けている。また、企画展開幕時には「ボランティアプレビュー」を実施し、いち早く展覧会内容の把握に努め、対外的な広報活動に役立っている。

【日常活動班】

火曜班から日曜班までの6班編成により、月2回または1回、既定の活動日に来館して下記の活動を行った。また、班相互の連絡調整のために「班長会」を開催し、今後の日常活動のあり方や自主運営について討議した。

- ・インフォメーションカウンターでの案内
- ・図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- ・来館者アンケート調査
- ・障害のある方への補助
- ・団体観覧者に対する資料配布
- ・他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- ・新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- ・その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

【グループ活動】

下記10グループが活動を行った。各グループの連絡調整の場として「グループ代表者会」を随時開催し、ボランティア改革についての意見交換等を行った。

- (1) アートセンターA
閲覧室改善と運営
- (2) アートセンターB
新聞資料・はがき整理

(3) ギャラリートーク

収蔵品展および企画展の来館者への作品解説

(4) 草薙ツアー

草薙ツアーの計画・実施、彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施

(5) 講演会運営

講演会事業の広報、運営補助、企画への参画

(6) 広報支援

美術館の広報活動支援

(7) 実技室

実技室における各種イベントの運営補助

(8) タッチ・ツアー・ガイド

タッチツアープログラムの案内係

(9) パソコン隊

パソコン入力による美術館のデータ整備支援

(10) 旅行研修

自主的な研修旅行の企画、実施

■年間活動記録抄

4月6日 「ボックスアート」展内覧会

4月23日 運営会（第1回）

5月7日 班長会（第1回）

5月9日 運営会（第2回）

5月28日 「ヴェネツィア絵画のきらめき」展内覧会

6月9日 グループ代表者会（第1回）

6月18日 班長会（第2回）

6月25日 運営会（第3回）

7月23日 「日曜美術館展」内覧会

8月6日 運営会（第4回）

8月27日 班長会（第3回）

9月7日 「大正シック展」内覧会

9月8日 グループ代表者会（第2回）

9月18日 運営会（第5回）

10月1日 運営会（第6回）、班長会（第4回）

10月10日 運営会（第7回）

10月24日～28日 組織規約(案)に関する意見交換会

11月5日 運営会（第8回）

11月8日 「名所絵の世界」展内覧会

11月19日 運営会（第9回）

12月8日 グループ代表者会（第3回）

12月28日 運営会（第10回）、班長会（第5回）

臨時総会＜組織規約承認、「静岡県立美術館ボランティアの会」発足＞

「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」内覧会

1月15日 運営会（第11回）、班長会（第6回）

2月4日 運営会（第12回）、班長会（7回）

2月12日 班長会（第8回）

2月13日 運営会（第13回）

2月25日 運営会（第14回）

3月8日 グループ代表者会（第4回）

3月15日 運営会（第15回）

3月23日 運営会（第16回）

3月26日 運営会（第17回）

3月29日 総会

■地域サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度より「地域サポーター」と改称した。「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成19年度当初、登録人数は98名。

地域サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

地域サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」を義務付けている。

1) 「地域サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる地域サポーター証の発行を受ける

2) 「地域サポーター」の義務

- ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

平成19年度 友の会活動

1 諸会議

(1) 理事会

平成19年6月2日(土) 静岡県立美術館 会議室
 ・平成18年度事業報告、決算報告
 ・平成19年度事業計画、予算案

(2) 代議員会

平成19年6月2日(土) 静岡県立図書館 会議室
 (小集会室)
 ・平成18年度事業報告、決算報告
 ・平成19年度事業計画、予算案

(3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 11回開催

(4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 23回開催

(5) 臨時理事・代議委員会

平成20年2月27日 静岡県立美術館 講座室
 シニア入館料改定に伴う規約改正について他

2 実技講座

(1) 立体絵画「もうひとつのボックスアート」

平成19年6月9日(土)、10日(日)
 静岡県立美術館 実技室
 ・講師 大津裕子氏
 ・受講者 12名(会員2名・非会員10名)

(2) 版画「ポストカードに木版画」

平成19年12月1日(土)、8日(土)、9日(日)
 静岡県立美術館 実技室
 ・講師 福元清志氏
 ・受講者 12名(会員8名・非会員4名)

3 講演会等の開催

(1) 館長講演

『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡』について
 平成20年2月19日(火) 静岡県立美術館 講堂
 講師 宮治昭氏(県立美術館館長)
 参加者 会員91名 他会員同伴者

(2) 特別講座「日本画をじかに見る」

平成20年3月20日(木) 静岡県立美術館 講座室
 講師 飯田 真主任学芸員、森 充代学芸員、
 福士雄也学芸員
 参加者 27名(会員のみ)

4 親睦旅行

(1) 若冲を訪ねて・京都の旅

平成19年5月23日(水)～24日(木) 1泊2日
 同行 福士雄也学芸員
 参加者 22名

(2) サントリー美術館と東京ミッド・タウン自由散策

平成19年9月29日(土)
 参加者 30名(会員27名・非会員3名)

(3) スケッチ旅行(田貫湖周辺)

平成19年10月6日(土)
 講師 坂田和之氏
 参加者 23名(会員14名・非会員9名)

5 美術館主催の講座等の後援

(1) 美術館学校連携普及委託事業

・粘土ワークショップのコーディネーター1名・助手2名の雇用と給与支払事務等
 ・平成19年4月～12月 77回開催

6 情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」発行(各1,000部)

第63号(7月15日発行)
 アトリエ訪問 日本画家・前原満夫
 第64号(12月15日発行)

アトリエ訪問 造形作家・金沢健一
 第65号(3月15日発行)

アトリエ訪問 日本画家・竹内雅明

(2) パソコン購入

印刷所への原稿提出をデーター化

(3) 情報の提供

・美術館ニュース「アマリリス」郵送(年4回)
 ・各種催事の情報提供(随時)
 ・館内掲示板に「友の会からのお知らせ」を掲示(随時)

7 その他の事業

・会員証の発行
 ・招待券の配布
 ・静岡県定年退職職員勧誘キャンペーン
 8月・9月 延べ8日 773件

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日

改正 平成13年6月16日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、美術を愛好する人たちの集まりであり、静岡県立美術館の活動を後援することにより、本県の芸術文化の普及及び振興を図るとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 講演会・講座・コンサート・映画会等の開催及び後援
- (2) 会報の発行
- (3) 鑑賞会及び研修旅行の開催
- (4) 出版事業
- (5) 静岡県立美術館が行う事業への協力・後援
- (6) その他必要な事業

(会員の種類及び特典)

第5条 本会の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員のいずれかを選択する。
- (2) 会員資格の有効期限中における会員の種類の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第6条 会員とは本会の主旨に賛同し、所定の入会申込みの手続きを行い、会費を納めた者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年とする。ただし、会員から退会の申し出がない限り、さらに1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第7条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は理由の如何を問わず、返還しない。

2 見学、実習などの参加者は、別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第8条 会員は、住所、氏名、電話番号、口座番号等の届出事項に変更があった場合は、直ちに本会に報告し、変更手続きを行う。

2 前項の報告がないために生じた会員の不利益又は損害については、本会は一切の責任を負わない。

(会員証)

第9条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員証には、クレジット機能はない。

3 会員証を譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第10条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、直ちに本会に届け出る。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第11条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項により退会する場合は、会員有効期限の2か月前までに、本会に申し出を行う。

(組織)

第12条 本会に代議員会と理事会を置く。

(役員)

第13条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 若干名
- (3) 代議員 30名以内
- (4) 理事 15名以内
- (5) 監事 2名

2 代議員及び理事は、会員の中から代議員会において選任する。

3 監事は、代議員会で選任する。

4 会長は、代議員の互選とし、副会長及び事務局長は代議員の同意を得て、会長が任命する。

(役員の職務)

第14条 役員の職務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ指定した副会長が、その職務を代理する。
- (3) 代議員は、付議された事項の審議、決定を行う。
- (4) 理事は、会の運営を行う。

- (5) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
- (顧問)
- 第15条 本会に顧問を置く。
- 2 顧問は、静岡県立美術館長をもって充てる。
- (役員任期)
- 第16条 役員の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
- (会議)
- 第17条 本会の会議は、代議員会と理事会とし、会長、副会長及び理事並びに代議員の出席により開催する。ただし、特別の事情がある場合には、代理者が出席することができる。
- 2 代議員会は、すべての役員で構成され、毎年1回会長が召集し、次の事項を審議、決定する。
- (1) 予算及び決算
- (2) 事業計画及び事業報告
- (3) 役員の選出
- (4) 会則の改正
- 3 理事会は、会長、副会長及び理事で構成され、次の事項を審議する。
- (1) 代議員会に付議する事項
- (2) その他会長が必要と認める事項
- (議決)
- 第18条 代議員会の議事は、出席した役員(代理者も含む)の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。

- (専決処分)
- 第19条 会長は、会議を召集することが困難と認めるときは、第17条第2項及び第3項に掲げる事項について、これを専決処分することができる。
- 2 前項の規定により専決処分したときは、会長はこれを次の会議において報告しなければならない。
- (専門委員会)
- 第20条 本会に事業計画の策定や具体的な企画等の検討を目的とした事業委員会と会報委員会を置く。
- (事務局)
- 第21条 本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 会長は、代議員の同意を得て、事務局長を理事とすることができる。
- 4 事務局に事務職員を置く。
- (財務)
- 第22条 本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。
- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。
- (補則)
- 第23条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関し必要な事項は、会長が定める。
- 附 則
- この会則は、平成14年4月1日から施行する。

別表1 (第5条第2項関係) 会員の特典

特 典 の 種 類	会 員 の 種 類		
	一般会員	シニア会員	特別会員
①県立美術館主催の企画展招待券5枚	○		○
②会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
③会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
④友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○
⑤研修旅行(美術館めぐり)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)
⑥会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○
⑦会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
⑧県立美術館主催の企画展オープニングセレモニー御招待			○ (同伴1名まで)

(注)○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第7条関係) 年会費

会 員 区 分	年 会 費	備 考
一 般 会 員	(1名) 5,000円	
シニア会員	(1名) 2,000円	70歳以上で、選択した人
特 別 会 員	(1口) 10,000円	
賛 助 会 員	申し出のあった額	

平成19年度 美術館の評価活動

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学文学部助教授：当時）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改訂作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取り組みを行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」と題する最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成19年度の活動

平成19年度には、平成18年度に第三者評価委員会から指摘があった「評価指標の整理」に取り組んだ。これは、評価指標の数字を揃え自己評価報告書を取りまとめることが自己目的化してしまわないよう、現状に鑑みて統廃合可能な評価指標を整理し、必要なものは新たに作り出す作業となる。なお、こういった作業のかたわらで、引き続き外部の声を取り入れる活動は行われている。ひとつは来館者の反応を調査するアンケートで、もうひとつは専門家によるレビューである。以下、これらについて略述する。

（1）ミュージアム・ナビによる自己点検・評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し、自己点検を行うことで、業務の改善に取り組む。それによって、Plan（計画）、Do（実行）、Check（監視）、Action（改善）のサイクルを確立する。

自己点検のよりどころとなるのは来館者に対するアンケート調査である。ボランティアの協力を得て、統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を重ねつつ、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。また、時にグループインタビュー形式の意見聴取を行うなどの方法も試行し、さらに洗練された仕組みの構築を目指している。

（2）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会および学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼するのがこの委員会である。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

坂本 満 【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学客員教授・（前）うらわ美術館館長
 潮江 宏三 【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学学長
 山梨絵美子 【日本洋画】／東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブズ研究室長
 榊原 悟 【日本画】／群馬県立女子大学教授
 金原 宏行 【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授、豊橋市美術博物館館長

■開催記録

平成19年度 研究活動評価委員会

○第1回委員会

平成19年5月19日
 ・「ボックスアート」展視察

○第2回委員会

平成19年6月11日
 ・平成18年度研究活動についての評価及び提言
 ・平成19年度研究活動評価スケジュールの確認
 ・「ヴェネツィア絵画のきらめき」展視察

○第3回委員会

平成19年11月17日
 ・「名所絵の世界」展視察

○第4回委員会

平成20年3月12日
 ・「ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展」視察

○静岡県立美術館紀要23号（平成20年3月31日刊行） についての評価

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要項

（設置）

第1条

静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条

委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

(組織)

第3条

委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条

委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

第5条

委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条

この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、多様な資料(写真や二次資料等)の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究(記録・整理を含む)等。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出

来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。

4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

N H K 日曜美術館の30年展 名品と映像でたどる、とっておきの美術案内

図録 No.	作品名	作家名	年代	員数	所蔵先	展示替	展示期間
1	女	荻原守衛	1910年	一点	東京藝術大学大学美術館		
2	子供	関根正二	1919年	一面	石橋財団ブリヂストン美術館		
7	曲亭馬琴	鐔木清方	1907年	一面	鎌倉市鐔木清方記念美術館		
8	深沙大王	鐔木清方	1904年	一幅	鎌倉市鐔木清方記念美術館		
9	嫁ぐ人	鐔木清方	1907年	一幅	鎌倉市鐔木清方記念美術館		
14	目を閉じて	オディロン・ルドン	1890年	一枚	岐阜県美術館		
16	『夢のなかで』Ⅵ 「地の精」	オディロン・ルドン	1879年	一枚	岐阜県美術館		
17	『夢のなかで』Ⅷ 「幻視」	オディロン・ルドン	1879年	一枚	岐阜県美術館		
22	夕風	小川芋銭	1924年	一幅	五島美術館	△	7月24日(火)～8月3日(金)
27	緑雨	小川芋銭	1936年	一幅	茨城県近代美術館	△	8月4日(日)～8月31日(木)
33	岩になった河童	小川芋銭	1937年	一幅	茨城県近代美術館		
35	白頭	前田青邨	1961年	一面	東京藝術大学大学美術館		
39	ザムザ氏の散歩	八木一夫	1954年	一点			
40	碑、妃	八木一夫	1962年	一点	京都国立近代美術館		
42	ブルーブック	八木一夫	1972年	一点	広島県立美術館		
43	藤山氏像	安井曾太郎	1948年	一面	東京国立近代美術館		
46	御殿場の小道	黒田清輝	制作年不詳	一面		△	8月14日(火)～8月31日(木)
47	◎舞妓	黒田清輝	1893年	一面	東京国立博物館	△	7月24日(火)～8月12日(日)
51	休息	ピエール・オーギュスト・ルノワール	1916-17年	一面	ポーラ美術館		
52	鳥獣戯画 (模本)	新井勝利(模本制作)	1938年	一卷	東京藝術大学大学美術館		
53	たそがれ あるいはイル・ド・フランス	ジョルジュ・ルオー	1937年	一面	出光美術館		
55	◎花魁	高橋由一	1872年	一面	東京藝術大学大学美術館		
57	◎悲母観音 下図	狩野芳崖	1883年	一幅	東京藝術大学大学美術館		
60	心遊仙境図	富岡鉄斎	1922年	一幅	清荒神清澄寺鉄斎美術館	△	7月24日(火)～8月12日(日)
61	鉄橋近く	松本竣介	1944年	一面	岩手県立美術館		
62	塔のある風景	松本竣介	1947年	一面	岩手県立美術館		
64	肘をつく女	パブロ・ピカソ	1902年	一面	アサヒビール株式会社		
66	『戦争の惨禍』	フランシスコ・デ・ゴヤ	1810-20年頃(1863年刊)	五点(全八十点のうち)	長崎県美術館		
＜第Ⅱ章 作家が作家を語る＞							
67	厳栖十八羅漢図基図	富岡鉄斎	1924年	一幅	清荒神清澄寺鉄斎美術館	△	8月14日(火)～8月31日(木)
70	詩経天保九如章略図	富岡鉄斎	1921年	一幅	出光美術館		

図録 No.	作品名	作家名	年代	員数	所蔵先	展示替 展示期間
73	水鏡	菱田春草	1897年	一幅	東京藝術大学 大学美術館	
78	鶴筆試作（岡倉天心像）	平櫛田中	1942年	一点	東京藝術大学 大学美術館	
80	モランの寺	佐伯祐三	1928年	一面	東京国立近代美 術館	
83	十和田裸婦像小型試作	高村光太郎	1952年	一点		
84	◎黒扇	藤島武二	1908-09年	一面	石橋財団プリヂ ストン美術館	
88	淡路島遠望	藤島武二	1929年	一面	石橋財団プリヂ ストン美術館	
92	糸つむぎの形（原型）	ヘンリー・ムーア	1968-69年	一点	彫刻の森美術館	
93	睡蓮	クロード・モネ	1914-17年	一面	アサヒビール株 式会社	
95	考える人	オーギュスト・ロダン	1880年	一点	静岡県立美術館	
102	夕暮	上村松園	1941年	一面	京都府立鴨沂高 等学校	
106	縁側	熊谷守一	1949年	一面		
107	日輪	熊谷守一	1973年	一面		
108	朝のはじまり	熊谷守一	1969年	一面		
110	二菩薩釈迦十大弟子	棟方志功	1939/48年	六曲一双	棟方志功記念館	
112	雪富士	横山操	1971年	一面	フジヤマミュー ジウム	
<第Ⅲ章 アトリエ訪問>						
116	駒ヶ岳	中川一政	1980年	一面	真鶴町立中川一 政美術館	
121	顔・顔・顔	岡本太郎	1980年	一面	川崎市岡本太郎 美術館	
122	山之邊	山口華楊	1982年	一面		
123	芭蕉布地型絵染布地文部屋着	芹沢銈介	1959年	一枚	東京国立近代美 術館	
128	木綿地型絵染文字文のれん 天	芹沢銈介	1965年	一枚	東京国立近代美 術館	
129	身延山久遠寺大本堂外陣天井画 下図	加山又造	1983-84年	一面	東京藝術大学 大学美術館	
131	飾篭「天寿」	藤田喬平	1984年	一合	東京国立近代美 術館	
132	飾篭「紅白梅」	藤田喬平	1995年	一合	東京藝術大学 大学美術館	
135	色絵金銀彩羊歯文飾箱	富本憲吉	1960年	一合	東京国立近代美 術館	
136	色絵金銀彩四弁花文飾壺	富本憲吉	1960年	一合	東京国立近代美 術館	
138	染付金彩「大和河急雨」皿	富本憲吉	1958-59年	一枚	東京藝術大学 大学美術館	
141	少年群像	秋野不矩	1950年	三曲一隻	浜松市秋野不矩 美術館	
143	雍	杉山寧	1991年	一面	東京美術倶楽部	
144	作品Ⅰ	三岸節子	1992年	一面	一宮市三岸節子 記念美術館	
145	作品Ⅱ	三岸節子	1992年	一面	一宮市三岸節子 記念美術館	
146	作品Ⅲ	三岸節子	1992年	一面	一宮市三岸節子 記念美術館	

図録 No.	作品名	作家名	年代	員数	所蔵先	展示替 展示期間
150	柿釉丸紋大平鉢	濱田庄司	1959年	一枚	東京国立近代美術館	
151	白釉紋打鉄絵角皿	濱田庄司	昭和時代	一枚	東京藝術大学大学美術館	
153	赤漆彫花文箱	黒田辰秋	1935年	一合	東京国立近代美術館	
155	白檀塗四稜茶器	黒田辰秋	1975年	一合	東京国立近代美術館	
<第Ⅳ章 知られざる作家へのまなざし>						
156	小鳥の滝	丸木スマ	1954年	一幅	広島県立美術館	
159	巢	丸木スマ	1953年	一幅	広島県立美術館	
162	奄美の杜③ ～ビロウとハマユウ～	田中一村	昭和40年代	一面	田中一村記念美術館	
164	奄美の杜⑦～ビロウ樹～	田中一村	昭和40年代	一面	田中一村記念美術館	
167	隅田川兩岸画卷（隅田川絵巻） 3巻	藤牧義夫	1934年	一巻	東京都現代美術館	
168	人物（女）	小泉清	1946年	一面		
169	不動明王	小泉清	1959年	一面		
170	これは富士の雪がとけて三島に 来る	小泉清	1951-53年	一面		
171	絡子をかけたる自画像	高島野十郎	1920年	一面	福岡県立美術館	
174	月	高島野十郎	制作年不詳	一面		
176	雨 法隆寺	高島野十郎	1965年頃	一面		

懐かしい、新しい 大正シック展 あるアメリカ人女性が愛したコレクションの里帰りー

第1室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
和田 菁華 T 夫人	二曲一隻 絹本着色	154.0×171.2	1932
中村 大三郎 婦女	二曲一隻 絹本着色	150.0×202.0	1930
中村 大三郎 『婦女』の下絵	二曲一隻 紙本淡彩	153.0×201.7	1930
『婦女』の博多人形	博多人形	縦9.0×横21.0×高さ15.5	1930年代初頭
仁丹の宣伝用うちわ (入江たか子と濱口富士子の写真入り)	団扇	38.0×21.3	1930年代初頭頃
武藤 嘉門 日光	二曲一隻 絹本着色	181.4×175.0	1926～40年頃
蠟燭立て	真鍮	各直径25.0×高さ78.0	1920年頃
婦人用クラッチバッグ	絹	13.0×21.0	1912～40年頃
東京 帝国ホテルのタイル	テラコッタ	15.0×31.0×25.0	1922年頃

作品名	寸法 (cm、丈×桁)	展示期間
女性用着物 袷、矢羽根文様	145.2×62.3	前期
女性用着物 単衣、波文様	141.0×61.5	前期
女性用着物 単衣、井桁文様	142.0×62.8	前期
女性用着物 袷、熨斗文様	142.5×61.0	後期
女性用着物 単衣、象形文様	148.0×61.8	後期
女性用着物 袷、流水文様	140.6×62.6	後期

第2室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
ピエロの顔付き蓋物	もの入れ	直径9.0×高さ6.0	1930年頃
作者不詳 ピエロと猫	二曲一隻 絹本着色	164.0×170.3	1930年代初頭
華風 海辺の二少女	額 絹本着色	87.7×113.6	1920年代中頃
堀井 香坡 釣りをする子供たち	二曲一隻 絹本着色	157.7×132.0	1920～30年頃

第3室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
辰之 コリー	二曲一隻 絹本着色	156.8×165.0	1930年代
榎本 千花俊 銀座の柳	掛幅 絹本着色	115.7×36.5	1930年代初頭
不二木 阿古 海水浴の図	掛幅 絹本着色	22.7×25.7	1930年頃
榎本 千花俊 銀嶺	掛幅 絹本着色	48.3×67.5	1939年頃
小早川 清 近代時世粧の内ー ほろ酔ひ	紙、木版、色摺	51.3×30.5	1930
山村 耕花 踊り 上海のニューカールトン所見	紙、木版、色摺	42.0×28.5	1924

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
調味料入れセット	アルミニウム	盆：直径15.0×1.5、ソース入：大(直) 5.0×7.2 小(直) 4.0×6.5、楊枝入：(直) 4.0×6.5、調味料入：大(直) 3.5×6.5 小(直) 3.0×5.3	1930～60年頃
九谷焼の皿	磁器	各直径18.0×高さ2.0	1912～40年頃
鉢	ガラス	各直径12.0×高さ7.2	1912～26年

第4室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
別役 月乃 七夕	額 絹本着色	183.0×84.7	1920年頃
益田 玉城 笠森おせん図	掛幅 絹本着色	147.6×56.9	1925～35年頃
伊藤 小坡 元禄美人	掛幅 絹本着色	116.0×33.0	1920年頃
谷口 香喬 白鷺の精	紙、木版、色摺	42.8×27.4	1918
山川 秀峰 鷺娘	掛幅 絹本着色	116.0×33.0	1925年頃
北野 恒富 冥途の飛脚 梅川	紙、木版、色摺	45.5×29.7	1923
中島 菜刀 (紫翠) きのこ狩り	二曲一双 絹本着色	各172.3×183.5	1919～23年頃
案本 一洋 橋を渡る女	二曲一双 絹本着色	各156.2×179.3	1915～20年頃
輝水 能舞いと蛭狩り	二曲一双 絹本着色	右151.2×151.2 左151.4×151.8	1920年代
水野 年方 三十六佳撰 茸狩り (正徳頃婦人)	紙、木版、色摺	23.5×36.0	1891
池田 輝方 江戸の錦 貝を集める女	紙、木版、色摺	24.3×35.5	1905～10年頃
寺崎 広業 水着姿の美女	紙、木版、色摺	34.4×22.4	1915年頃
角形火鉢	櫨材、漆、銀	21.0×21.0×29.0	1912～40年頃
三日月形花籠	竹、漆	28.0×43.0×40.0	1928年頃
重箱	漆	30.0×54.0×26.0	1925～60年頃
火鉢	漆、銀メッキ	直径27.3×高さ24.0	1930年頃
火鉢	曲げ木、漆	各直径28.2×高さ27.8	1912～40年頃

第5室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
柴田 翠坡 琵琶の演奏会	二曲一隻 絹本着色	168.0×186.0	1930年代
鐺木 清方 花びらが舞う中の婦人	団扇	39.5×26.2	1960年代
寺島 紫明 長い髪の婦人	団扇	39.5×26.0	1960年代
柿内 青葉 夏の夕べ	二曲一隻 絹本着色	166.4×166.3	1930年代初頭
柿内 青葉 美人	掛幅 絹本着色	133.2×100.5	1925
伊東 深水 対鏡	紙、木版、色摺	43.7×29.0	1916
橋口 五葉 化粧の女	紙、木版、色摺	55.5×39.1	1918

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
橋口 五葉 夏衣の女	紙、木版、色摺	45.4×29.3	1920
橋口 五葉 髪梳ける女	紙、木版、色摺	44.5×34.7	1920
鳥居 言人 髪梳き	紙、木版、色摺	47.0×30.2	1929
蛤形の盆	漆、蒔絵	各24.8×34.0	1930～40年頃
アール・デコ様式の皿	漆	各14.5×14.5×3.5	1930～40年頃
杯洗	木、漆、銀	各直径13.8×高さ9.0	1913年
季節感のある装飾付き食卓	漆、真珠貝	90.4×91.5×30.7	1912～40年頃
舟形の団扇立て	木製、漆	9.5×33.2×11.0	1920～60年頃
譜面台	木、絹紐	29.7×52.4×27.8	1926～40年
手箱火鉢	桐材、漆、銅、銀	39.0×23.0×31.0	1912～40年頃
花籠	竹	直径27.0×高さ25.5	1912～40年頃

作品名	寸法 (cm、丈×桁)	展示期間
女性用着物 単衣、蜻蛉文様	147.5×62.5	前期
女性用着物 単衣、渦巻き文様	145.0×62.8	後期

第6室

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
渡辺 幾春 昭和美女姿競 梅見月早春	紙、木版、色摺	39.7×27.0	1930
山川 秀峰 婦女四題 秋	紙、木版、色摺	38.7×25.8	1927
山川 秀峰 三人の姉妹	四曲一隻 絹本着色	163.0×332.8	1936
カップと受け皿	ガラス、ステンレス	カップ: 各直径9.5×5.8 cm 受け皿: 各直径13.2×2.2	1912～26年

作品名	寸法 (cm、丈×桁)	展示期間
女性用着物 羽織、ハート文様	100.0×63.3	前期
女性用着物 袷、水玉に幾何学文様	149.2×61.8	前期
女性用着物 単衣、幾何学文様	151.5×63.3	前期
女性用着物 単衣、金魚文様	111.8×50.7	前期
女性用着物 単衣、白地花文様	139.5×60.4	前期
女性用着物 単衣、流水竹蜻蛉文様	137.5×62.3	前期
女性用着物 単衣、蜻蛉に流水文様	142.5×64.0	前期
女性用着物 単衣、網代に流水文様	149.0×63.9	前期
女性用着物 羽織、幾何学文様	92.5×64.3	後期

作者名／作品名	形状 材質	寸法 (cm)	制作年
女性用着物 裕、亀甲文様		151.3×63.0	後期
女性用着物 裕、菊文様		145.5×62.3	後期
女性用着物 単衣、蜻蛉文様		140.0×59.5	後期
女性用着物 単衣、矢絰文様		147.3×61.8	後期
女性用着物 単衣、矢絰文様		140.5×62.0	後期
女性用着物 裕、折鶴文様		141.5×62.2	後期

作品名	寸法 (cm)	制作年
大正期歌本 10冊	14.0×8.5～17.5×9.3	1918～1924年
大震災の歌		1924年1月
震災哀話		1924年1月
復興小唄		1924年1月
哀詩尼港の大惨劇		1920年7月
デモクラシーの歌		1919年6月
松の声		1918年7月
松井須磨子の歌		1919年2月
新やなぎ節		1919年3月
ジョンベラの屍		1919年6月
夢の世界		1919年6月

心の風景 名所絵の世界

NO.	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵	展示
Ⅰ 描き継がれた日本の名所						
1	<国宝>天橋立図 雪舟筆	室町時代(16世紀)	紙本墨画淡彩、掛幅装	90.2×169.5	京都国立博物館	◆
2	天橋立・富士三保松原図屏風	室町時代(16世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各151.1×356.6		
3	厳島・天橋立図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各154.8×358.0		
4	塩竈・松島図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本着色、六曲一双屏風	各148.2×356.4		
5	松島図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、六曲一隻屏風	95.3×264.0		
6	和歌浦・厳島図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各153.8×360.8	奈良県立美術館	
7	厳島・三保松原図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各92.9×264.6	静岡県立美術館	
8	天橋立・住吉社図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、八曲一双屏風	各53.9×301.1		
9	松島・天橋立図屏風 狩野永岳筆	江戸時代(19世紀)	紙本着色、六曲一双屏風	各153.0×355.2		■
10	天橋立・富士三保松原図屏風 横山華山筆	文政5年(1822)	紙本墨画淡彩、六曲一双屏風	各154.2×351.4	千葉市美術館	□
11	名所図屏風 狩野兵部筆	江戸時代(17世紀)	紙本着色、六曲一隻押絵貼屏風	各図128.5×52.6他		
12	大和名所図画帖 狩野荣信・狩野養信筆	江戸時代(19世紀)	絹本着色、画帖	各30.5×41.0	京都国立博物館	
Ⅱ 京名所・近江名所						
13	洛外名所図屏風 狩野山雪筆	江戸時代(17世紀)	紙本金地墨画淡彩、六曲一双屏風	各154.3×349.8	京都国立博物館	
14	近江八景図屏風 久隅守景筆	江戸時代(17世紀)	紙本墨画淡彩、六曲一隻屏風	153.1×348.0	滋賀県立近代美術館	
15	洛外名所図屏風	江戸時代(18世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各62.2×176.0		
16	京名所図屏風 円山応挙筆	寛政元年(1789)	紙本着色、六曲一双屏風	各155.4×336.0	MIHO MUSEUM	
17	桃山春景・嵐山秋景図 円山応挙筆	江戸時代(18世紀)	絹本着色、双幅	各103.0×42.0		
18	嵐山春景・平等院雪景図屏風 塩川文麟筆	文久3年(1863)	紙本淡彩、六曲一双屏風	各154.0×334.4	京都国立博物館	
19	琵琶湖八景図 塩川文麟筆	嘉永6年(1853)	絹本墨画淡彩、掛幅装	52.3×85.0	静岡県立美術館	
20	井手玉川・佐野渡図屏風 狩野探信守政筆	江戸時代(17世紀末－18世紀初)	紙本着色、六曲一双屏風	各152.7×359.4	静岡県立美術館	□
21	井手玉川・大堰川図屏風 狩野探信守道筆	江戸時代(19世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各166.0×358.8		■
22	近江八景之内 歌川広重画	天保5年(1834)頃	紙、木版、色摺	大判錦絵		
-1	「唐崎夜雨」					■
-2	「三井晚鐘」					□
23	京都名所之内 歌川広重画	天保5年(1834)頃	紙、木版、色摺	大判錦絵		
-1	「淀川」					■
-2	「清水」					□
-3	「四条河原夕涼」					■
-4	「八瀬之里」					□

NO.	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵	展示
Ⅱ 富士・三保松原・鳶の細道～静岡と名所						
24	富士三保松原図屏風	室町時代(16世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各137.5×329.4		
25	富士三保清見寺図 伝雪舟筆	室町時代	紙本墨画、掛幅装	43.2×102.0	永青文庫	■
26	富士三保松原図屏風 狩野山雪筆	江戸時代(17世紀)	紙本墨画金泥引、六曲一双屏風	各153.5×360.0	静岡県立美術館	
27	富士山図 狩野探幽筆	寛文7年(1667)	紙本墨画淡彩、掛幅装	56.6×118.4	静岡県立美術館	
28	富嶽三保松原図 狩野常信筆	宝永元-6年(1704-09)	絹本墨画淡彩、掛幅装	53.5×115.0		
29	富士三保清見寺図(雪舟画模本) 狩野栄信筆	江戸時代(19世紀)	絹本墨画、掛幅装	46.6×84.2		
30	富士三保松原図屏風 円山応挙筆	安永8年(1779)	紙本墨画淡彩、六曲一双屏風	各153.8×357.6	千葉市美術館	
31	富嶽図 松村景文筆	江戸時代(19世紀)	紙本墨画、掛幅装	61.7×133.2		
32	富士三保松原図 原在中筆	文政5年(1822)	絹本着色、掛幅装	40.9×100.8	静岡県立美術館	■
33	駿河湾富士遠望図 司馬江漢筆	寛政11年(1799)	絹本油彩、額装	36.2×100.9	静岡県立美術館	□
34	富士八景図 式部輝忠筆	享禄3年(1530)	紙本墨画、八幅対	各97.5×32.8	静岡県立美術館	
35	武蔵野図屏風	江戸時代(17世紀)	紙本金地着色、六曲一双屏風	各153.6×353.0		
36	富嶽十二ヶ月図巻 狩野惟信筆	天明元-寛政6年(1781-94)	紙本着色、卷子装	27.4×1083.3	静岡県立美術館	
37	清見湯富士図 横山華山筆	文政2年(1819)	絹本墨画、掛幅装	42.3×79.5	静岡県立美術館	
38	富嶽図 山口素絢筆	寛政末頃(18世紀末)	絹本着色、掛幅装	41.0×75.6	静岡県立美術館	
39	富士山図屏風 谷文晁筆	天保6年(1835)	紙本墨画群青引、六曲一隻屏風	163.1×363.2	静岡県立美術館	
40	宇津の山図 山本探川筆	宝暦5-明和6年(1755-69)	紙本着色、二曲一隻屏風	163.5×175.0	静岡県立美術館	
41	宇津の山路 今村紫紅筆	明治45年(1912)	絹本着色、掛幅装	126.5×50.4	静岡県立美術館	
Ⅱ 江戸から東京へ～浮世絵にみる名所絵						
42	名所江戸百景 歌川広重画	安政3-5年(1856-58)	紙、木版、色摺	大判錦絵		
-1	「日本橋雪晴」					■
-2	「永代橋佃しま」					□
-3	「する賀てふ」					■
-4	「川口のわたし善光寺」					□
-5	「蒲田の梅園」					■
-6	「品川御殿やま」					□
-7	「亀戸梅屋敷」					■
-8	「墨田河橋場の渡かわら竈」					□
-9	「玉川堤の花」					■
-10	「八ツ見のはし」					□
-11	「大はしあたけの夕立」					■

NO.	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵	展示
-12	「鴻の臺とね川風景」					□
-13	「両国花火」					■
-14	「深川木場」					□
-15	「深川洲崎十万坪」					■
-16	「王子装束ゑの木大晦日の狐火」					□
43	墨田川春景図 歌川広重筆	江戸時代(19世紀)	絹本着色、掛幅装	17.4×30.0	静岡県立美術館	
44	東京名所図 小林清親画	明治9-14年(1876-1881)	紙、木版、色摺	大判錦絵	静岡県立美術館	
-1	「東京新大橋雨中図」	明治9年(1876)				■
-2	「海運橋(第一銀行雪中)」	明治9年(1876)				□
-3	「東京両国百本杭眺之図」	明治12年(1879)				■
-4	「虎乃門夕景」	明治13年(1880)				□
-5	「五本松雨月」	明治13年(1880)				■
-6	「橋場の夕暮」	明治13年(1880)				□
-7	「大川端石原橋」	明治13年(1880)				■
-8	「本所御蔵橋」	明治14年(1881)				□
-9	「神田川夕景」	明治14年(1881)				■
-10	「柳原夜雨」	明治14年(1881)				□
-11	「日本橋夜」	明治14年(1881)				■
-12	「浅草田甫太郎稲荷」	明治14年(1881)				□

*会期中、一部展示替をおこなった。
 展示期間／◆=11月9日～25日 ■=11月9日～12月2日 □=12月4日～19日

ボックスアート ～プラモデルパッケージと戦後の日本文化

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
第1部（50～60年代）								
1	ヴァンガード (ソリッドモデル)	作者不明	1950	水彩／紙	30.5×64.7	30.5×64.7	p26	(株)ハセガワ
2	1/35戦車シリーズ (シングル) ドイツ パンサータンク	小松崎 茂	1961	鉛筆、水彩／紙	35.3×35.4	35.3×35.4	p27	(株)タミヤ
3	1/450アメリカ戦艦 ミズーリ	六車 弘	1961	水彩／紙	67×97	73×103.4	p40	(株)ハセガワ
4	ワールドタンクシリーズ アメリカ陸軍対空戦車 M42 ハンター	小松崎 茂	1962	鉛筆、水彩／紙	20.1×31.5	20.1×31.5	p28	(株)タミヤ
5	日本戦艦 大和	上田 毅八郎	1962	水彩／ボード	41.5×72.2	41.5×72.2	p40	(株)ハセガワ
6	日本戦艦 武蔵	上田 毅八郎	1962	水彩／ボード	41.5×72.2	41.5×72.2	p41	(株)ハセガワ
7	フォードGT	梶田 達二	1962	水彩／紙	39×24.5	39×24.5	p44	(株)アオシマ文化教材社
8	1/50日本傑作機シリーズ (旧パッケージ) 日本海軍零式艦上戦闘機52型	小松崎 茂	1963	鉛筆、水彩／紙	21×34.5	24.5×48.7	p35	(株)タミヤ
9	ワールドタンクシリーズ アメリカ175mm自走砲 ロング トム	小松崎 茂	1963	水彩／紙	21.4×44.5	32.3×51.1	p28	(株)タミヤ
10	1/35戦車シリーズ (シングル) スイス陸軍装甲車 スコーピ オン	小松崎 茂	1963	鉛筆、水彩／紙	21.4×42.1	21.4×42.1	p29	(株)タミヤ
11	1/450日本航空母艦 信濃	上田 毅八郎	1963	水彩／ボード	28.5×84	28.5×84	p41	(株)ハセガワ
12	ベビーリモコンシリーズ ハンター	平野 光一	1963	鉛筆、水彩／紙	22×46	25.6×55	p30	(株)タミヤ
13	リンカーンコンチネンタル	梶田 達二	1964	水彩／紙	69×39	69×39	p43	(株)アオシマ文化教材社
14	1/50日本傑作機シリーズ (旧パッケージ) 日本陸軍一式戦闘機三型甲 隼	小松崎 茂	1964	鉛筆、水彩／紙	21×42.5	26.8×50.8	p34	(株)タミヤ
15	ジェットアロー	上田 毅八郎	1964	水彩／ボード	31×56	31×56	p39	(株)ハセガワ
16	フェラーリ250GTO	梶田 達二	1964	水彩／紙	38×24	38×24	p44	(株)アオシマ文化教材社
17	1/21～1/25デラックス戦車シ リーズ (シングル) ドイツⅢ号戦車	高荷 義之	1965	鉛筆、水彩／紙	38.3×57.5	42×63.6	p31	(株)タミヤ
18	1/50日本傑作機シリーズ (新パッケージ) 日本海軍試作局地戦闘機J7W1 震電	小松崎 茂	1965	鉛筆、水彩／紙	19×43	23×46	p34	(株)タミヤ
19	ボリスパトロール	上田 毅八郎	1965	水彩／ボード	35×66.5	35×66.5	p39	(株)アオシマ文化教材社
20	1/24 1/25 1/32 スロット レーサー ロータス30	川上 恭弘	1965	水彩／紙	22×53.1	22×53.1	p45	(株)タミヤ
21	1/24 1/25 1/32 スロット レーサー フェラーリ330P2	川上 恭弘	1966	水彩／紙	23.8×59.8	23.8×59.8	p45	(株)タミヤ
22	1/72 二式大艇	六車 弘	1966	水彩／紙	29×54.5	52×73	p37	(株)ハセガワ
23	1/35戦車シリーズ (シングル) ソビエト襲撃砲戦車ジューコ フ	小松崎 茂	1966	鉛筆、水彩／紙	31×44	36.1×47.3	p29	(株)タミヤ
24	1/35戦車シリーズ (リモコン) ソビエト襲撃砲戦車ジューコ フ	高荷 義之	1967	水彩／紙	23.6×42.5	34.1×51.3	p31	(株)タミヤ
25	1/12ビッグスケール Honda F-1	川上 恭弘	1967	水彩／ボード	54.4×38	71.2×50.2	p47	(株)タミヤ

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
26	1/35戦車シリーズ（シングル） ドイツ重戦車 キングタイガー	大西 将美	1967	水彩／紙	50.3×77.3	50.3×77.3	p33	(株)タミヤ
27	1/35戦車シリーズ（リモコン） フランスA.M.X.30ナポレオン	大西 将美	1967	水彩／紙	26×43.6	32.5×50.7	p32	(株)タミヤ
28	フェラーリ250ルマン	六車 弘	1967	水彩／紙	47×68	52×73	p46	(株)ハセガワ
29	1/100ミニジェット機シリーズ フィアットG.91	大西 将美	1968	水彩／ボード	31×54.5	31×54.5	p38	(株)タミヤ
30	HASEGAWA MUSEUM SERIES 1940年型フォードクーペ	六車 弘	1968	水彩／紙	36×61	52×73	p42	(株)ハセガワ
31	HASEGAWA MUSEUM SERIES 1929年型ロードスター	六車 弘	1968	水彩／紙	44×67	52×73	p43	(株)ハセガワ
32	HASEGAWA MUSEUM SERIES 1940年型フォードセダン	六車 弘	1968	水彩／紙	48.5×68	52×73	p42	(株)ハセガワ
33	モホークB（旧）	六車 弘	1968	水彩／紙	46×68	52×78	p36	(株)ハセガワ
34	1/72 連山	六車 弘	1968	水彩／紙	35.5×57.5	52×78	p36	(株)ハセガワ
35	1/72 一式陸攻	六車 弘	1969	水彩／紙	67×98	73×103.4	p37	(株)ハセガワ
36	1/48ミニタンクシリーズ スウェーデン“S”バルカン 新鋭戦車	高荷 義之	1969	鉛筆、水彩／紙	54.6×71.2	54.6×76.4	p32	(株)タミヤ
37	1/72フライトシリーズ（新パッケージ） 日本海軍局地戦闘機 JACK雷電	小松崎 茂	1969	鉛筆、水彩／紙	28.5×48	34×54	p35	(株)タミヤ
第2部（70～80年代）								
38	アポロ11号 月着陸船	梶田 達二	1970	水彩／紙	36.2×51.5	36.2×51.5	p76	(株)アオシマ文化教材社
39	1/6オートバイシリーズ Honda ドリームCB750	川上 恭弘	1970	水彩／ボード	71.3×99.8	71.3×99.8	p68	(株)タミヤ
40	1/48ミニタンクシリーズ アメリカ M60A1E1ビクター	中西 立太	1970	鉛筆、水彩／ボード	36.3×67.8	36.3×67.8	p52	(株)タミヤ
41	フォッケウルフFW190	六車 弘	1970	水彩／紙	33×56.5	52×78	p59	(株)ハセガワ
42	1/35戦車シリーズ（リモコン） アメリカ M60A1シャイアン 戦車	高荷 義之	1970	水彩／ボード	39.6×72.4	39.6×72.4	p50	(株)タミヤ
43	1/72魚雷艇シリーズ イギリス高速魚雷艇ボスパー	高荷 義之	1971	鉛筆、水彩／ボード	37.8×72.8	37.8×72.8	p62	(株)タミヤ
44	‘Bianchi’ U.S.A	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	37.5×46.3	37.5×46.3		(株)アオシマ文化教材社
45	1/700ウォーターラインシリーズ 戦艦 山城	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	26×80	26×80	p63	(株)アオシマ文化教材社
46	1/700ウォーターラインシリーズ 航空母艦 飛龍	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	26×80	26×80	p64	(株)アオシマ文化教材社
47	1/700ウォーターラインシリーズ 戦艦 陸奥	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	24×77.7	24×77.7	p63	(株)アオシマ文化教材社
48	1/72 フジT-1A	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	36.2×51.5	36.2×51.5	p60	(株)ハセガワ
49	1/700 ウォーターラインシリーズ 日本航空母艦 信濃（しなの）	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	26.4×80.2	26.4×80.2	p65	(株)タミヤ
50	1/100ミニジェット機シリーズ F-86Fセイバー&ミグ-15	上田 信	1971	水彩／ボード	33×51	38×51	p60	(株)タミヤ
51	1/35戦車シリーズ（リモコン） アメリカ対空自走砲 M42ダスター	平野 光一	1971	水彩、ポスターカラー ／ボード	65.0× 101.7	76.2× 101.7	p53	(株)タミヤ

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
52	1/48傑作機シリーズ 日本陸軍四式戦闘機キ-84 I 型 甲 疾風	大西 将美	1971	水彩／ボード	39×67.2	39×67.2	p59	(株)タミヤ
53	1/48リモコンミニタンクシリーズ ドイツ駆逐戦車 カノン	高荷 義之	1971	水彩／ボード	27×51.5	27×51.5	p50	(株)タミヤ
54	日本航空母艦 赤城	上田 毅八郎	1972	水彩／ボード	41.5×72.5	41.5×72.5	p65	(株)ハセガワ
55	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ ドイツ88mm砲Flak36/37	大西 将美	1972	水彩／ボード	51×76.3	51×76.3	p55	(株)タミヤ
56	1/48傑作機シリーズ 日本海軍二式水上戦闘機 (A6 M2-N)	高荷 義之	1973	鉛筆、水彩／ボード	43.2×72.6	43.2×72.6	p58	(株)タミヤ
57	1/700ウォーターラインシリーズ 潜水艦 伊-400	上田 毅八郎	1973	水彩／ボード	20×52.5	20×52.5	p66	(株)アオシマ文化教材社
58	1/700 ウォーターラインシリーズ 日本潜水艦 伊-16・伊-58	上田 毅八郎	1973	鉛筆、水彩／ボード	22.9×53.2	22.9×53.2	p67	(株)タミヤ
59	1/6オートバイシリーズ ハーレー・ダビッドソンFLH1 200	川上 恭弘	1974	水彩／ボード	84×59.3	84×59.3	p68	(株)タミヤ
60	1/700ウォーターラインシリーズ アメリカ海軍航空母艦エンタープライズ	上田 毅八郎	1974	水彩／ボード	25.6×72.5	25.6×72.5	p64	(株)タミヤ
61	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ ドイツ歩兵突撃セット	上田 信	1974	水彩／ボード	51.4×35.2	51.4×35.2	p54	(株)タミヤ
62	1/72 ドイツ列車砲K5 (E) レオポルト	小池 繁夫	1975	水彩／紙	34.5×55.5	34.5×55.5	p57	(株)ハセガワ
63	1/35戦車シリーズ (リモコン) イギリス戦車 チーフテンMk.5	高荷 義之	1976	水彩／ボード	51.5×72.6	51.5×72.6	p51	(株)タミヤ
64	1/72Great040 60cm モゼルカール	小池 繁夫	1976	水彩／紙	25×44	29×47.5	p58	(株)ハセガワ
65	1/700ドイツ潜水艦Uボート7C /9C	上田 毅八郎	1976	鉛筆、水彩／紙	23×49.5	23×49.5	p66	(株)ハセガワ
66	1/20グランプリコレクション マクラーレンM23	川上 恭弘	1977	水彩／ボード	48.4×72.8	48.4×72.8	p72	(株)タミヤ
67	1/24スポーツカーシリーズ ランボルギーニ・カウンタックLP500S	島村 英二	1978	水彩／ボード	51.5×72.9	51.5×72.9	p71	(株)タミヤ
68	1/700日本郵船氷川丸	上田 毅八郎	1979	水彩／紙	24×61	24×61	p67	(株)ハセガワ
69	1/6オートバイシリーズ HondaモンキーZ50J- I	川上 恭弘	1980	水彩／ボード	72.8×51.4	72.8×51.4	p69	(株)タミヤ
70	1/200日本航空ボーイング747 ジャンボ	小池 繁夫	1980	水彩／紙	26×50.5	33×53.5	p75	(株)ハセガワ
71	1/12ビッグスケール フェラーリ312T4	青島 敏行	1980	水彩／ボード	51.5×73	51.5×73	p72	(株)タミヤ
72	1/12オートバイシリーズ スズキGSX1100Sカタナ	佐藤 元信	1982	水彩／ボード	72.7×51.4	72.7×51.4	p69	(株)タミヤ
73	1/12オートバイシリーズ ケニー・ロバーツ・ヤマハYZ R500	島村 英二	1983	水彩／ボード	57.4×51.4	57.4×51.4	p70	(株)タミヤ
74	1/200スペースシャトル オービターW／ブースター	小池 繁夫	1985	水彩／紙	38.5×25	46×33	p77	(株)ハセガワ
75	ひばり	上田 毅八郎	1985	水彩／紙	18.8×41.5	18.8×41.5	p74	(株)アオシマ文化教材社
76	いしかり	上田 毅八郎	1985	水彩／紙	18.8×41.5	18.8×41.5	p74	(株)アオシマ文化教材社
77	1/12オートバイシリーズ HondaNS500とスターティング ライダー	大西 将美	1985	水彩／ボード	67.7×48.4	67.7×48.4	p70	(株)タミヤ

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
78	1/20グランプリコレクション ロータス・Honda99T	川上 恭弘	1987	水彩／ボード	51.5×72.8	51.5×72.8	p73	(株)タミヤ
79	1/48川西 局地戦闘機 紫電改	小池 繁夫	1988	水彩／紙	25×40	31.5×47	p61	(株)ハセガワ
80	1/20グランプリコレクション マクラーレンHonda MP4/4	川上 恭弘	1988	水彩／ボード	51.5×72.8	51.5×72.8	p73	(株)タミヤ
81	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ ドイツタイガーⅠ重戦車（後期生産型）	江間 浩司	1989	水彩／ボード	51.4×72.8	51.4×72.8	p55	(株)タミヤ
第3部（90～現在）								
82	1/24チャージマツダ767B	吉田 勇治	1990	水彩／ボード	36.4×51.5	36.4×51.5	p94	(株)ハセガワ
83	九〇式艦上戦闘機2型 （ファインモールド）	佐竹 政夫	1990	水彩／紙	38×62	38×62	p86	(株)ハセガワ
84	1/24ランチャデルタHF インテグラール16V	吉田 勇治	1991	水彩／ボード	31.5×45.9	36.5×51.5	p100	(株)ハセガワ
85	1/12ビッグスケール マクラーレンMP4/6 Honda	溝川 秀男	1991	水彩／ボード	54×76.3	54×76.3	p96	(株)タミヤ
86	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ アメリカ海軍PBR31Mk.Ⅱ ビバー	高荷 義之	1991	アクリル／ボード	44.3×72.5	44.3×72.5	p92	(株)タミヤ
87	1/24スポーツカーシリーズ マツダ787B（1991年ル・マン24時間レース優勝車）	溝川 秀男	1992	水彩／ボード	45.6×64.8	45.6×64.8	p94	(株)タミヤ
88	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ アメリカ強襲水陸両用兵車AA VP7A1 アップガンシードラゴン	高荷 義之	1992	アクリル／ボード	51.4×72.6	51.4×72.6	p80	(株)タミヤ
89	1/24ジョーダンヤマハ192	和田 隆良	1992	水彩／紙	30×45.2	32×48	p98	(株)ハセガワ
90	1/24ウィリアムズルノーFW 14B 1992年型	和田 隆良	1992	水彩／紙	32×48.5	33×50	p97	(株)ハセガワ
91	1/32エアクラフトシリーズ クダネル・ダグラスF-15ストライクイーグル	N.GALLOWAY	1993	水彩、鉛筆、コンテ／ボード	44.3×84.3	48.2×87.8	p88	(株)タミヤ
92	CF-18ホーネット カナディアンエアフォース	佐竹 政夫	1993	水彩／紙	39×58.6	48×63	p87	(株)ハセガワ
93	1/24Honda F1 RA272E 1965アメリカGP	和田 隆良	1996	水彩／紙	32.6×48.2	35×51	p99	(株)ハセガワ
94	1/48傑作機シリーズ ブリストル・ボーファイター Mk.VI	G.OLIVEREAU	1997	水彩／ボード	44.3×30.1	45.1×31	p89	(株)タミヤ
95	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ アメリカ40トン戦車運搬車ドラゴンワゴン	江間 浩司	1998	アクリル／ボード	51.5×73.2	51.5×73.2	p82	(株)タミヤ
96	1/700ウォーターラインシリーズ 日本海軍戦艦 大和（やまと）	上田 毅八郎	1998	ガッシュ、鉛筆／ボード	46×72.7	46×72.7	p92	(株)タミヤ
97	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ ドイツ18トン重ハーフトラック・FAMO	江間 浩司	1999	アクリル／ボード	51.5×72.8	51.5×72.8	p83	(株)タミヤ
98	1/16ワールドフィギアシリーズ ドイツ アフリカ軍団ロンメル元帥	大西 将美	1999	水彩／ボード	60.8×41.5	60.8×41.5	p81	(株)タミヤ
99	1/48 F-104J スターファイター 航空自衛隊	小池 繁夫	2000	水彩／紙	19×36.5	53×36	p90	(株)ハセガワ
100	1/24スポーツカーシリーズ トヨタGT-one TS020	福村 一章	2000	水彩／ボード	51.5×72.8	51.5×72.8	p95	(株)タミヤ
101	アンフィニRX-7	平根 隆広	2000	水彩／紙	36.1×51.5	36.1×51.5	p100	(株)アオシマ文化教材社

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
102	1/48 AH-64Dアパッチロングボウ	小池 繁夫	2001	水彩／紙	27×42.5	37×53	p90	(株)ハセガワ
103	1/32スケール スピットファイアMk.I	天神 英貴	2001	CG (コンピューター・ グラフィックス)			p91	(株)ハセガワ
104	1/24スポーツカーシリーズ エンツォ・フェラーリ	よしだ のぶ ひこ	2002	水彩／ボード	44.3×68.6	51.5×72.7	p101	(株)タミヤ
105	1/48ミリタリーミニチュアシリーズ Pkw.K1キューベルワーゲン82型	大西 将美	2003	水彩／ボード	66×40	66×40	p84	(株)タミヤ
106	1/35ミリタリーミニチュアシリーズ 陸上自衛隊軽装甲機動車イラク派遣仕様	江間 浩司	2004	アクリル／ボード	51.5×72.8	51.5×72.8	p83	(株)タミヤ
107	1/12オートバイシリーズ レプソルHonda RC211V'03バレンシア	福村 一章	2004	水彩／ボード	72.7×51.4	72.7×51.4	p101	(株)タミヤ
108	1/32 疾風	小池 繁夫	2004	水彩／紙	30.7×40	37.3×52.5	p91	(株)ハセガワ
109	1/48ミリタリーミニチュアシリーズ アメリカM4シャーマン戦車(初期型)	大西 将美	2004	水彩／ボード	67.1×38.1	67.1×38.1	p84	(株)タミヤ
110	1/350戦艦三笠 日本海海戦	小池 繁夫	2004	水彩／紙	30.5×48.3	30.5×48.3	p93	(株)ハセガワ
111	1/48ミリタリーミニチュアシリーズ ドイツ駆逐戦車ヘッツァー中期生産型	寺田 敬	2005	CG (コンピューター・ グラフィックス)			p85	(株)タミヤ
112	1/350三笠 黄淮海戦	小池 繁夫	2005	水彩／紙	24.3×36.2	38×53.2	p93	(株)ハセガワ
113	1/48ミリタリーミニチュアシリーズ ソビエト自走砲SU-122	寺田 敬	2006	CG (コンピューター・ グラフィックス)			p85	(株)タミヤ
第4部 (キャラクターモデル)								
114	スーパーカー	小松崎 茂	1962	水彩／紙	37.5×42	37.5×42	p104	(株)タミヤ
115	ボートシリーズ 双胴ボートカタマラン デラックス	小松崎 茂	1963	鉛筆、水彩／紙	26.3×41	31.8×49	p104	(株)タミヤ
116	アメリカミサイル潜水艦(旧パッケージ) 自動浮潜式ミサイル潜水艦グレイバック	小松崎 茂	1966	鉛筆、水彩／紙	15×45.5	22.5×54.5	p105	(株)タミヤ
117	アメリカミサイル潜水艦(旧パッケージ) 自動浮潜式ミサイル潜水艦ハリバット	小松崎 茂	1966	鉛筆、水彩／紙	15.3×45	31.9×54.4	p105	(株)タミヤ
118	SFシリーズ ファイターナイン	小松崎 茂	1967	水彩／紙	24×37.5	29.6×48.4	p104	(株)タミヤ
119	ジョー90シリーズ ジョー90マックスカー	小松崎 茂	1969	水彩／紙	46.5×65	51.3×68.3	p106	(株)タミヤ
120	SF装甲車シリーズ 強力6輪装甲車U87ストロングアー	小松崎 茂	1969	水彩／紙	22×40	32.7×46.9	p106	(株)タミヤ
121	バージル人形付 サンダーバードTB2号	小松崎 茂	1971	水彩／紙	19×33	19×33	p107	(株)東北新社
122	アタック7 アタック7シリーズ スカーレット	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	36×57.9	36×57.9	p108	(株)アオシマ文化教材社
123	宇宙科学特別隊 サンダーセブン	上田 毅八郎	1971	水彩／ボード	32×51.6	32×51.6	p108	(株)アオシマ文化教材社
124	ダイヤモンド・アイシリーズ No2 光の戦士 ダイヤモンド・アイ サンダー号	根本アートセンター	1973	水彩／紙	38×28	44×33.8	p109	根本圭助
125	流れ星	梶田 達二	1976	水彩／紙	54.2×69.5	54.2×69.5	p110	(株)アオシマ文化教材社

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
126	アトランジャー 合体マシン8号 ターゲットキャ リア	根本アートセ ンター	1977	水彩／紙	36×47.3	36×47.3	p111	(株)アオシマ文化教材社
127	アトランジャー 合体マシン7号 レッドクリッ パー	根本アートセ ンター	1977	水彩／紙	36×47.3	36×47.3	p111	(株)アオシマ文化教材社
128	伝説巨神イデオン 合体巨神 イデオン	根本アートセ ンター	1980	水彩／紙	32.5×47.5	32.5×47.5	p112	根本圭助
129	伝説巨神イデオン ジョング	作家不明	1980	水彩／紙	26×43	26×43	p112	(株)アオシマ文化教材社
130	合体ロボットシリーズ 合体戦士アクロバンチ	根本アートセ ンター	1982	水彩／紙	50.5×36	50.5×36	p113	根本圭助
131	戦闘メカ・ザブングル 1/144 ウォーカーマシン ザブング ルタイプ	石橋 謙一	1982	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p114	(株)トイズワークス
132	戦闘メカ・ザブングル 1/144 ウォーカーマシン ダッガー タイプ	石橋 謙一	1982	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p114	(株)トイズワークス
133	戦闘メカ・ザブングル 1/144 ウォーカーマシン カブリコ タイプ	石橋 謙一	1982	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p115	(株)トイズワークス
134	機動戦士ガンダム 1/1200 ガウ攻撃空母	石橋 謙一	1982	ガッシュ／紙	25.7×36.4	25.7×36.4	p116	(株)トイズワークス
135	機動戦士ガンダム 1/144 コアブースター	石橋 謙一	1982	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p116	(株)トイズワークス
136	ザ特撮コレクション1 バルタン星人	開田 裕治	1983	水彩／紙	50.5×35.5	50.5×35.5	p118	開田裕治
137	ザ特撮コレクション2 ゴモラ	開田 裕治	1983	水彩／紙	50.5×35.5	50.5×35.5	p118	開田裕治
138	ザ特撮コレクション3 ゴジラ	開田 裕治	1983	水彩／紙	50.5×35.5	50.5×35.5	p119	開田裕治
139	聖戦士ダンバイン 1/72 ダンバイン	開田 裕治	1983	水彩／紙	28.2×40	28.2×40	p120	開田裕治
140	聖戦士ダンバイン 1/72 バスター	開田 裕治	1983	水彩／紙	43×31.5	43×31.5	p121	開田裕治
141	機動戦士ガンダムMSV 1/144 水中型ザク	石橋 謙一	1983	ガッシュ／紙	37.5×25.7	37.5×25.7	p117	(株)トイズワークス
142	聖戦士ダンバイン 1/72 レブラカーン	開田 裕治	1984	水彩／紙	48.7×35	48.7×35	p121	開田裕治
143	銀河マシンシリーズ 銀河マシン6号	作家不明	1984	水彩／紙	38×64	38×64	p113	(株)アオシマ文化教材社
144	オペレーションオメガ	小池 繁夫	1984	水彩／紙	31×46.3	31×46.3	p128	(株)ハセガワ
145	重戦機エルガイム 1/144 ヘビーメタル バルブド	石橋 謙一	1984	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p122	(株)トイズワークス
146	重戦機エルガイム 1/144 ヘビーメタル グルーン	石橋 謙一	1984	ガッシュ／紙	36.4×25.7	36.4×25.7	p122	(株)トイズワークス
147	機動戦士Zガンダム 1/60 ゼータガンダム	石橋 謙一	1985	ガッシュ／紙	51.5×36.4	51.5×36.4	p117	(株)トイズワークス
148	ANIMATION SCALE MODEL KIT METAL ARMOR DRAGONAR SERIES メタル アーマー ドラグナー D-1	石橋 謙一	1987	ガッシュ／紙	51.5×36.4	51.5×36.4	p123	(株)トイズワークス
149	ANIMATION SCALE MODEL KIT METAL ARMOR DRAGONAR SERIES メタル アーマー XD-03 「ドラグナー3型」	石橋 謙一	1987	ガッシュ／紙	51.5×36.4	51.5×36.4	p123	(株)トイズワークス
150	機動戦士ガンダム0080 1/144 リックドムⅡ	開田 裕治	1989	水彩／紙	50.2×35.2	50.2×35.2	p124	開田裕治
151	機動戦士ガンダム0080 1/144 ハイゴッグ	開田 裕治	1989	水彩／ボード	35.5×50.2	35.5×50.2	p124	開田裕治

No.	作品	作家	制作年	材質、技法	イメージサイズ	シートサイズ	図録	所蔵
152	勇者王ガオガイガー スターガオガイガー/ガトリン グドドライバー	作家不明	1999	水彩／紙	42×59	42×59	p125	(株)アオシマ文化教材社
153	ウルトラマン 1/72 ジェットビートル	小池 繁夫	2003	水彩／紙	23.5×35.6	36.6×53.1	p126	(株)ハセガワ
154	ウルトラセブン 1/144 ウルトラホーク1号	小池 繁夫	2003	水彩／紙	25.8×37.4	37.8×52.7	p127	(株)ハセガワ
155	1/100 MZV-747-J テムジン 747J	・キャラクター デザイン：カ トキハジメ ・オリジナル 3Dモデリン グ：森 康浩 ・フィニッシュ ワーク：有井 伸孝	2004	CG (コンピューター・ グラフィックス)			p129	(株)ハセガワ
156	1/100 MZV-36T-H アフアームド・ザ・ハッター	・キャラクター デザイン：カ トキハジメ ・オリジナル 3Dモデリン グ：森 康浩 ・フィニッシュ ワーク：有井 伸孝	2005	CG (コンピューター・ グラフィックス)			p129	(株)ハセガワ

ヴェネツィア絵画のきらめき ー栄光のルネサンスから華麗なる18世紀へー

カタログ 番号	作者名	作品名	制作年	技法	寸法 (縦×横cm)	所蔵先
1	ジョヴァンニ・ベッ リーニと工房 (ニコ ロ・ロンディネッリ?)	聖母子と洗礼者聖ヨハネ	1500年頃	油彩、板	75.5×60.6	ドーリア・パンフィーリ美 術館、ローマ
2	チーマ・ダ・コネリ アーノ	風景の中の聖母子	1505-07 年 頃	油彩、板	28.7×21.5	個人蔵
3	ヴィンツェンツォ・ カテーナ	書斎の聖ヒエロニムス	1515-20年頃	油彩、キャンヴァス	73×101	個人蔵
4	ティツィアーノ・ヴェ チェリオ	洗礼者聖ヨハネの首をもつ サロメ	1515年頃	油彩、キャンヴァス	89.5×73	ドーリア・パンフィーリ美 術館、ローマ
5	ジョヴァンニ・ダ・ アーゾラ	最後の晩餐	1525年頃	油彩、キャンヴァス	150×279	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
6	バルマ・イル・ヴェッ キオ	未完の風景の中のウェヌス	1528年	油彩、キャンヴァス	112×165	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
7	ドメニコ・カンパニョー ラ	トビアスと天使	1530年頃	油彩、板	99.5×50.5	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
8	アンドレア・スキア ヴォーネ	ディアナとアクタイオン	1556-58年	油彩、キャンヴァス	92×97.3	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
10	ランベルト・スト リス	洗礼者聖ヨハネの説教	1554年	テンペラ、羊皮紙	38×60	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
11	ヤコボ・パッサーノ	マギの礼拝	1562-64年	油彩、キャンヴァス	74.5×102	個人蔵
13	ヤコボ・ティントレッ ト	奏楽天使	1584年	油彩、キャンヴァス	143×108	個人蔵
14	パオロ・ヴェロネー ゼ	キリストと刑吏たち (エッ ケ・ホモ)	1586-88年	油彩、キャンヴァス	72.5×85	個人蔵
15	バルマ・イル・ジョー ヴァネ	聖母被昇天	1582年	油彩、キャンヴァス	141×105	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
16	バドヴァニーノ	キリストの神殿奉獻		油彩、キャンヴァス	125×210	個人蔵、ミラノ
17	ドメニコ・フェッティ	無原罪の御宿り	1612-13年	油彩、板	44×25.3	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
19	ルカ・ジョルダノ	ギリシアの哲学者	1650年頃	油彩、キャンヴァス	106×89	個人蔵
20	ヨーゼフ・ハインツ	アイソンを若返らせるメディ ア	1650-60年頃	油彩、キャンヴァス	50×89	個人蔵
21	フランチェスコ・マッ フェイ	クロトンのミロン	1657年頃	油彩、キャンヴァス	131×173	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
22	ピエトロ・リーベリ	悪徳に打ち負かされる男	1650年頃	油彩、キャンヴァス	111×140	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
23	アントニオ・ザンキ	善きサマリア人	1670年頃	油彩、キャンヴァス	139×189	個人蔵
24	セバスティアーノ・ リッチ	曙	1696-1703年	油彩、キャンヴァス	225×94	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
25	セバスティアーノ・ リッチ	宵	1696-1704年	油彩、キャンヴァス	224×95	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
26	フランチェスコ・モ ンティ	寓意のモニュメント (ウィ リアム・クーパーに捧げる)	1725年	油彩、キャンヴァス	82×53	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
27	ジャンバッティスタ・ ピットーニ	寓意のモニュメント (アイ ザック・ニュートンに捧げ る)	1725年	油彩、キャンヴァス	82×53	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
28	ジョヴァンニ・アン トニオ・ペッレグリー ニ	中風病みを治すキリスト	1730年	油彩、キャンヴァス	91×54.5	個人蔵
29	ジャンバッティスタ・ ピットーニ	聖母子と聖ヨセフを礼拝す る聖女テレサと聖ペテロ、 聖女ウルスラ、司教		油彩、キャンヴァス	153×83	個人蔵、ブレーシャ
30	ジャンバッティスタ・ ティエポロ	幼子キリストと聖ヨセフ	1714年頃	油彩、キャンヴァス	53×45	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
31	ジャンバッティスタ・ ティエポロ	ゴリアテの首をもつダヴィ デ	1720年頃	油彩、キャンヴァス	91.5×71	個人蔵、ブレーシャ
32	ジャンバッティスタ・ ティエポロ	聖母子と聖フィリッポ・ネー リ	1728年	油彩、銅板	25.5×20	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
33	ジャンバッティスタ・ ティエポロ	カプチン修道会士の死	1755-57年	油彩、キャンヴァス	56×42	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ

カタログ 番号	作者名	作品名	制作年	技法	寸法 (縦×横cm)	所蔵先
34	ジャンバッティスタ・ ティエポロとアント ニオ・ベルッチ	ダヴィデの歌	1709-51年	油彩、キャンヴァス	128×94	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
36	ロザルバ・カッリエー ラ	弦楽器をもつ少年	1740年頃	パステル、紙	45×36	個人蔵、ミラノ
37	ロザルバ・カッリエー ラ	タンバリンをもつ少女	1740年頃	パステル、紙	45×36	個人蔵、ミラノ
38	フランチェスコ・ズッ カレッチ	アルカディア風景	1760年頃	油彩、キャンヴァス	70×104	個人蔵
39	フランチェスコ・グ アルディ	パリスの審判	1760年	油彩、キャンヴァス	41×55	個人蔵
40	パリス・ボルドーネ	パイロの肖像	1550年頃	油彩、キャンヴァス	69.5×46	個人蔵
43	ピエトロ・リーベリ	統領フランチェスコ・コル ナーロの肖像	1656年	油彩、キャンヴァス	271×182	個人蔵
44	セバスティアーノ・ リッチ	統領ジョヴァンニ・コルナー ロ1世の肖像	1715年	油彩、キャンヴァス	271×182	個人蔵
45	ジャンバッティスタ・ ティエポロ	統領マルコ・コルナーロの 肖像	1715年	油彩、キャンヴァス	271×181	個人蔵
46	グレゴリオ・ラッザ リーニ	功績の寓意	1694年	油彩、キャンヴァス	137.5× 119.5	個人蔵
47	アントニオ・ストー ム	ブチントーロの出航	1729年以降?	油彩、キャンヴァス	132×265	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
48	フランチェスコ・グ アルディ	ブチントーロの出航、リド のサン・ニコロ聖堂	1750年頃	油彩、キャンヴァス	23×36	個人蔵
50	ヴィットーレ・カル パッチョ	ベレーをかぶった少年の肖 像	1495-1510 頃	油彩、板	22×21	個人蔵
51	マルコ・バザイーティ	男の肖像	1515-20年	油彩、キャンヴァス	55.5×45	個人蔵
52	ティツィアーノ・ヴェ チェリオ?	イポリット・リミナルディ の肖像	1528年	油彩、キャンヴァス	114×92.5	国立アカデミア・ディ・サ ン・ルカ、ローマ
54	ティツィアーノ・ヴェ チェリオ	ジャンバッティスタ・ラムー ジオの肖像	1540年	油彩、板	25×22	個人蔵
55	ティツィアーノ・ヴェ チェリオ (帰属)	混血の少年の肖像	1560-70年頃	油彩、キャンヴァス	51.5×41	個人蔵
57	ヤコポ・ティントレッ ト	若い男の肖像	1553-60年頃	油彩、キャンヴァス	105×92	ドーリア・パンフィーリ美 術館、ローマ
58	ヤコポ・ティントレッ ト	元老院議員の肖像	1572年頃	油彩、キャンヴァス	115×98	個人蔵
59	ジョヴァンニ・アン トニオ・ファゾーロ	若い貴婦人の肖像	1570年頃	油彩、板	20×16.2	個人蔵
60	パルマ・イル・ジョー ヴァネ	自画像	1606-08年頃	油彩、キャンヴァス	60×47	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
61	ピエトロ・ヴェツキ ア	争い	1650年頃	油彩、キャンヴァス	58×75	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
62	ジローラモ・フォラ ボスコ	真珠の首飾りをつけた若い 女性の肖像、赤い髪飾りを つけた若い女性の肖像	1650年頃	油彩、銅板	各17.2× 13.4	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
63	ジローラモ・フォラ ボスコ	コルティジャーナ	1650年頃	油彩、銅板	30.5×24	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
64	ロザルバ・カッリエー ラ	ジャンバッティスタ・ティ エポロの肖像	1726年頃	油彩、キャンヴァス	76×62.5	アンティキタ・ピエトロ・ スカルパ
66	カナレット	サン・ジョルジョ・マッジョー レ島と税関	1728年頃	油彩、キャンヴァス	61×97	個人蔵、ニューヨーク
67	ベルナルド・ベロッ ト	サン・マルコ広場	1747年以前	油彩、キャンヴァス	69×115	個人蔵、ミラノ
68	ベルナルド・ベロッ ト	サン・マルコ広場とブチン トーロ	1747年頃	油彩、キャンヴァス	74×114	個人蔵、ニューヨーク
69	フランチェスコ・グ アルディ	嵐の海	1765-70年頃	油彩、キャンヴァス	52×85	個人蔵
71	ピエトロ・ロンギ	糸巻きをする女たち	1760年頃	油彩、キャンヴァス	60×50	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
72	ピエトロ・ロンギ	眠る農婦	1760年頃	油彩、キャンヴァス	61×50.5	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア

カタログ 番号	作者名	作品名	制作年	技法	寸法 (縦×横cm)	所蔵先
74	ピエトロ・ロンギ	リドット (賭博場)	1757-60年頃	油彩、キャンヴァス	60×48	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
76	ピエトロ・ロンギ	のぞきからくり	1756年頃	油彩、キャンヴァス	62×50.5	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
78	ガブリエル・ベッラ	北の公爵のための晩餐、サ ン・ベネデット劇場	1782?-92年 以前	油彩、キャンヴァス	95×145.5	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
79	ガブリエル・ベッラ	統領の謝意、大評議会の間	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	94.5×146.5	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
80	ガブリエル・ベッラ	枝の主日のミサ	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	97×124	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
81	ガブリエル・ベッラ	サン・ロッコ聖堂を訪れる 統領	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	92.5×145.5	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
84	ガブリエル・ベッラ	サン・マルコ聖堂に向かう プロクラトーレ (財務官)	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	95.5×123	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
85	ガブリエル・ベッラ	ガレー船の競売、ピアッツエツ タ	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	96×146	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
92	ガブリエル・ベッラ	ムラーノのカナルでの水上 パレード	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	94×147	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
94	ガブリエル・ベッラ	サンタ・フォスカ橋の棒戦	1779?以降- 92年以前	油彩、キャンヴァス	95×147	クエリーニ・スタンパリア 美術館、ヴェネツィア
96	ジュゼッペ・ベルナ ルディーノ・ビゾン	パラッツォ・ドゥカーレに 入るフランス大使ジェルジ 伯、1726年11月4日	1800年頃	油彩、キャンヴァス	181×258	個人蔵

※当館での出品作品のみを記した。

本展は当館のほか、豊田市美術館、大分市
美術館、Bunkamura ザ・ミュージアム及び
鳥取県立博物館を巡回した。

ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展 ―日本国内のガンダーラ至宝を初めて集大成し、バーミヤン遺跡の謎に迫る。―

通番	作品名	出土地(制作者)	材質	年代	寸法	所蔵先	備考／展示期間
第1章 仏陀像							
1	仏立像	ガンダーラ	片岩	2世紀	h.175cm×w.58cm× d.27cm	阿含宗	
2	仏立像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.94cm×w.40cm× d.21.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館	
3	仏立像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.119cm×w.48cm× d.23cm	個人蔵	
4	仏立像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.95cm×w.32.5cm× d.20cm	東京個人蔵	
5	仏立像（上半身）	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.48cm×w.23.5cm× d.12.5cm	東京国立博物館	
6	仏立像	スワート	片岩	3世紀頃	h.124cm×w.36cm× d.14cm	阿含宗	
7	仏頭	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.35cm×w.23cm× d.23cm	東京国立博物館	
8	仏頭	ガンダーラ	片岩	3世紀	h.26cm×w.21cm× d.17cm	真如苑	
9	仏頭	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.37cm×w.23cm× d.24.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館	
10	三坐仏	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.29cm×w.36.5cm× d.7cm	真如苑	
11	禪定印仏坐像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.65cm×w.40.5cm× d.15.5cm	阿含宗	
12	説法印仏倚像	ガンダーラ	片岩	4-5世紀	h.44cm ×w.20cm× d.12cm	個人蔵	
13	禪定印仏坐像	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.53.5cm×w.31cm× d.12cm	個人蔵	
第2章 菩薩像							
14	菩薩立像（ターバン型）	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.157cm×w.48cm× d.29cm	阿含宗	
15	菩薩立像（束髪型）	ガンダーラ	片岩	2世紀	h.73cm×w.21cm× d.14cm	個人蔵	
16	菩薩像（上半身）	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.92cm×w.66cm× d.28cm	阿含宗	
17	釈迦菩薩立像と神々	スワート	緑色片岩	1-2世紀	h.85cm×w.45cm× d.8cm	阿含宗	
18	弥勒菩薩と礼拝者	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.42cm×w.69cm× d.8.5cm	阿含宗	
19	兜率天上の弥勒菩薩	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.22cm×w.49.5cm× d.8.5cm	東京国立博物館	
20	交脚菩薩像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.62cm×w.36.5cm× d.14cm	平山郁夫シルク ロード美術館	
21	交脚菩薩像	ガンダーラ	片岩	2世紀	h.65cm×w.31cm× d.17cm	MOA美術館	
22	半跏思惟菩薩像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.78.5cm×w.36cm× d.33.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館	
23	持蓮華菩薩坐像	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.36cm ×w.23cm× d.7cm	個人蔵	
24	仏・菩薩二面像	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.39cm×w.25cm× d.16cm	阿含宗	
第3章 仏説法図							
25	梵天勧請	スワート	緑色片岩	1世紀	h.48cm×w.41cm× d.6.5cm	個人蔵	
26	仏三尊像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.62cm×w.58cm× d.10cm	阿含宗	
27	仏三尊像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.75cm×w.50cm× d.10cm	阿含宗	
28	仏三尊像	ガンダーラ(サー リ・パロール)	片岩	3-4世紀	h.62cm×w.50cm× d.9cm	阿含宗	
29	仏三尊像	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.62cm×w.64cm× d.10cm	東京個人蔵	

30	説法印仏坐像	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.41cm×w.26.5cm× d.6.5cm	真如苑
31	仏説法図	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.64.5cm×w.65cm× d.11.5cm	個人蔵
32	蓮華と化仏	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.20cm×w.40cm× d.9.5cm	個人蔵
第4章 仏伝図						
33	燃灯仏授記	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.15.5cm×w.26cm× d.6cm	個人蔵
34	托胎霊夢と占夢	スワート	片岩	2-3世紀	h.16cm×w.54cm× d.5.5cm	伯林寺
35	誕生	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.22cm×w.49.5cm× d.7.5cm	東京国立博物館
36	占相	ガンダーラ	片岩	2世紀	h.41cm×w.39cm× d.6.5cm	真如苑
37	競試武芸	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.11.4cm×w.28.2cm× d.4cm	平山郁夫シルク ロード美術館
38	樹下思惟	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.13.5cm ×w.45cm× d.4cm	個人蔵
39	通学勉学	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.30cm×w.47cm× d.5cm	伯林寺
40	婚約と梵天勧請	スワート	片岩	2-3世紀	h.54.5cm×w.38cm× d.5.5cm	伯林寺
41	結婚	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.23.5cm×w.39cm× d.6.5cm	伯林寺
42	四門出遊と出家決意	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.28cm×w.77cm× d.10cm	阿含宗
43	出家決意と出城	ガンダーラ	片岩	3世紀頃	h.49cm ×w.41cm× d.7.5cm	個人蔵
44	出城	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.15.5cm×w.57.5cm× d.9.5cm	伯林寺
45	マーラの誘惑	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.51cm×w.69.5cm× d.11cm	東京個人蔵
46	降魔成道	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.25.4cm×w.29cm× d.7cm	MOA美術館
47	マーラの誘惑と降魔成 道・初説法	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.36cm ×w.28cm× d.8cm	個人蔵
48	四天王奉鉢	スワート（ニモグ ラーム）	片岩	3-4世紀	h.45cm×w.59cm× d.10.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
49	梵天勧請	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.20.5cm×w.37cm× d.5.5cm	真如苑
50	初転法輪	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.34.5cm×w.49cm× d.7cm	平山郁夫シルク ロード美術館
51	初転法輪	ガンダーラ	片岩	2世紀	h.26.5cm×w.49cm× d.7.5cm	真如苑
52	毒龍の提示と双神変	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.15.5cm×w.28cm× d.5cm	伯林寺
53	帝釈窟説法と仏陀への 帰依	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.25cm×w.57.5cm× d.6cm	伯林寺
54	醉象調伏など3場面	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.60.8cm×w.29.5cm× d.7cm	平山郁夫シルク ロード美術館
55	三道宝階降下	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.36cm ×w.34cm× d.6cm	個人蔵
56	三道宝階降下	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.34cm×w.26cm× d.6.5cm	MOA美術館
57	ジョーティシュカ物語	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.38cm×w.30cm× d.17cm	龍谷大学
58	王の帰仏と涅槃	ガンダーラ（伝マ ルダン近郊）	片岩	2-3世紀	h.69cm×w.62cm× d.11cm	東京個人蔵
59	涅槃	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.30.5cm×w.41.5cm	MOA美術館
60	纏布	スワート	緑色片岩	1-2世紀	h.26cm×w.28.5cm× d.6cm	個人蔵
61	納棺	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.48cm×w.50.6cm× d.8cm	平山郁夫シルク ロード美術館

62	舍利の争奪戦と分舍利	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.25.8cm×w.45.4cm× d.6.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
63	仏塔礼拝	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.24cm×w.28cm× d.6cm	東京個人蔵
第5章 守護神・装飾						
64	花綱を担ぐ童子	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.15.4cm×w.45.4cm× d.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
65	蓮華唐草文	スワート	緑色片岩	1-2世紀	h.16.5cm×w.46cm× d.4cm	阿含宗
66	植物文	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.20cm×w.44cm× d.14.5cm	阿含宗
67	葡萄唐草文	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.70cm×w.23.5cm× d.8cm	個人蔵（古代オ リエント博物館 寄託）
68	饗宴図	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.29.2cm×w.33.5cm× d.6cm	東京国立博物館
69	饗宴図	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.20cm×w.31.5cm× d.5.5cm	古代オリエント 博物館
70	レスリング	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.27cm×w.41cm× d.8cm	阿含宗
71	ミトゥナ（男女）像	スワート	片岩	2-3世紀	h.24.5cm×21.5cm× d.8cm	伯林寺
72	ヤクシー像	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.35cm×w.24.5cm× d.6.5cm	東京国立博物館
73	アトラス	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.35.2cm×30.4cm× d.10cm	平山郁夫シルク ロード美術館
74	アトラス	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.17.5cm×w.15.5cm× d.6.5cm	伯林寺
75	龍女をさらうガルダ	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.60cm×w.37cm× d.12.5cm	東京国立博物館
76	象	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.25cm×w.25cm× d.9cm	平山郁夫シルク ロード美術館
77	海獣との戦い	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.17cm×w.54cm	東京個人蔵
78	狩猟図	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.18cm×w.75cm× d.6.5cm	阿含宗
79	裸形外道	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.30.5cm×w.14cm× d.8.5cm	真如苑
80	バラモン行者たち	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.53cm×w.45.5cm× d.11.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
81	讃嘆する神々	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.38cm×w.22.5cm× d.11cm	阿含宗
82	執金剛神	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.58.5cm×w.24cm× d.11cm	平山郁夫シルク ロード美術館
83	女性像を表した柱頭装飾	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.22.5cm×w.56cm× d.18cm	阿含宗
84	供養者頭部	スワート	片岩	2-3世紀	h.26cm	東京個人蔵
85	柱頭装飾（太陽神）	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.11cm×w.49.2cm× d.20.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
86	鬼子母神（ハーリティー）	ガンダーラ	片岩	3-4世紀	h.123cm×w.38cm× d.21cm	阿含宗
87	クシャーণ族の王侯供養者（頭部欠）	ガンダーラ	片岩	2-3世紀	h.175cm×w.60cm× d.29cm	阿含宗
第6章 パキスタン・アフガニスタンのストゥッコ						
88	仏頭	ガンダーラ（伝タルベラ近郊）	ストゥッコ	4-5世紀	h.54cm	東京個人蔵
89	仏頭	ガンダーラ	ストゥッコ	4-5世紀	h.40cm×w.20cm× d.30cm	個人蔵
90	仏頭	ガンダーラもしくはハッダ	ストゥッコ	4-5世紀	h.27cm×w.17cm× d.18.5cm	真如苑
91	仏頭	ハッダ	ストゥッコ	4-5世紀	h.18cm×w.11cm× d.10.5cm	伯林寺

92	仏立像	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.75cm ×w.32cm× d.14cm	個人蔵
93	禪定印仏坐像	ガンダーラ	ストウッコ	2-4世紀	h.44cm×w.29.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
94	説法図仏坐像	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.31.5cm ×w.17cm× d.11cm	個人蔵
95	菩薩頭部	ガンダーラ	粘土	2-3世紀	h.31cm×w.19.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
96	菩薩頭部	ガンダーラ	ストウッコ	3-4世紀	h.25cm	平山郁夫シルク ロード美術館
97	菩薩頭部	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.16cm×w.11cm× d.12cm	伯林寺
98	人物頭部	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.11cm×w.7.5cm× d.8.5cm	伯林寺
99	髭面の人物頭部	ガンダーラ	粘土	2-3世紀	h.31.8cm×17.5cm	平山郁夫シルク ロード美術館
100	菩薩頭部	スワート北方（伝 マッタ）	テラコッタ	5-6世紀	h.21cm×w.14cm× d.11cm	個人蔵
101	帝釈天頭部	スワート北方（伝 マッタ）	テラコッタ	5-6世紀	h.16cm×w.10cm× d.8cm	個人蔵
102	比丘像（上半身）	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.13cm×w.11cm× d.5.5cm	個人蔵
103	人物頭部	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.11cm×w.11cm× d.11cm	個人蔵
104	菩薩頭部	ガンダーラ（伝タ ルベラ近郊）	ストウッコ	4-5世紀	h.14cm×w.11cm× d.11cm	伯林寺
105	人物頭部	ガンダーラ（伝タ ルベラ近郊）	ストウッコ	4-5世紀	h.9cm×w.7.5cm× d.8.5cm	伯林寺
106	人物頭部	ガンダーラ（伝タ ルベラ近郊）	ストウッコ	4-5世紀	h.15cm×w.9cm× d.9cm	慈光寺
107	供養者立像	ガンダーラ	ストウッコ	3-4世紀	h.32.8cm×17.6cm	平山郁夫シルク ロード美術館
108	菩薩像（頭部欠）	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.25.5cm ×w.12cm× d.9.5cm	個人蔵
109	人物像	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.23.5cm ×w.11cm× d.5.5cm	個人蔵

第7章 アフガニスタンの流出文化財

110	ゼウス神像の左足	アイ・ハヌム	大理石	前3世紀	h.28.5cm×w.21cm	流出文化財保護 日本委員会
111	カーシャバ兄弟の婦仏	カービシー（シュ トラク）	片岩	3世紀頃	h.59cm×w.88cm× d.16cm	カーブル国立博 物館（流出文化 財保護日本委員 会保管）
112	弥勒菩薩と遊牧民供養 者	カービシー（パイ ターヴァ）	片岩	3-4世紀	h.25cm×w.47cm	カーブル国立博 物館（流出文化 財保護日本委員 会保管）
113	誕生	カービシー	片岩	3-4世紀	h.21.5cm×w.33.5cm	流出文化財保護 日本委員会
114	焰肩仏坐像	カービシー	片岩	3-4世紀	h.41cm×w.39cm× d.12cm	流出文化財保護 日本委員会
115	降魔成道図	カービシー	片岩	3-4世紀	h.54cm×w.50.5cm× d.12.5cm	流出文化財保護 日本委員会
116	仏弟子像頭部	ジェララバード近 郊	粘土	4-5世紀	h.21.5cm	流出文化財保護 日本委員会
117	ヴァジュラバーニ （執金剛神）	ハッダ	ストウッコ	4-5世紀	h.26cm	流出文化財保護 日本委員会
118	仏坐像	バーミヤンK3窟	壁画	8世紀	h.27cm×w.25.5cm	流出文化財保護 日本委員会
119	仏坐像	バーミヤンEe窟	壁画	8世紀	h.26cm×w.25.5cm	流出文化財保護 日本委員会
120	仏坐像	バーミヤン、フォ ラディ第4窟	壁画	8世紀	h.20cm×w.16cm	流出文化財保護 日本委員会

121	「バーミヤン石窟五十三メートルの大石仏の頭部の上から石窟とコヒババ山脈を遠望 アフガニスタン」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1997年	h.61cm×w.45.8cm	平山郁夫シルクロード美術館	12/28 - 2/11
122	「砂漠の湖 ハンディアミール湖 アフガニスタン」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1997年	h.45.8cm×w.61cm	平山郁夫シルクロード美術館	2/13 - 3/30
123	「ヒンドウクシュ山脈谷間の村 アフガニスタン」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1997年	h.45.8cm×w.61cm	平山郁夫シルクロード美術館	12/28 - 2/11
124	「アフガニスタン 泥の家と山」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1984年	h.34.5cm×w.47.5cm	平山郁夫シルクロード美術館	2/13 - 3/30
125	「破壊された建物 カブール市内 アフガニスタン」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	2002年	h.45.8cm×w.61cm	平山郁夫シルクロード美術館	12/28 - 2/11
126	「破壊された家と屋台 カブール市内 アフガニスタン」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	2002年	h.45.8cm×w.61cm	平山郁夫シルクロード美術館	2/13 - 3/30
127	「木陰で憩うアフガニスタンの老人」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1997年	h.61cm×w.45.8cm	平山郁夫シルクロード美術館	2/13 - 3/30
128	「アフガニスタンの少女」	平山郁夫 画	紙本着色 (水彩画)	1997年	h.61cm×w.45.8cm	平山郁夫シルクロード美術館	12/28 - 2/11

第8章 バーミヤン遺跡

158	西大仏の仏龕天井壁画模写「菩薩と天人たち」	松村公太 模写	土壁著色、天然顔料、膠、礬水		h.179.5cm×w.183.5cm×d.9.0cm	中部大学	原品：バーミヤン西大仏仏龕天井壁画
	West Giant Buddha; rope (A07,08,09) 3点	バーミヤン西大仏仏龕	縄			名古屋大学 年代測定総合研究センター	
	West Giant Buddha; wooden peg (A10) 1点	バーミヤン西大仏仏龕	杭			名古屋大学 年代測定総合研究センター	
	「バーミヤン遺跡全景」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		120×250cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン東大仏」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		119×84.2cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		119×84.2cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		84.2×119cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏仏龕天井部」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		84.2×119cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏仏龕天井部壁画」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		42×53cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏仏龕天井部壁画」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		42×53cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏足下」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		84.2×119cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン西大仏頭上からバーミヤン渓谷を望む」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		119×84.2cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン E窟 (223窟) 外観」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		84.2×119cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン C窟 (164窟) 内観」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		42×53cm	菅沼隆二	
	「バーミヤン D1窟 (168窟) 内観」	菅沼隆二 撮影	写真パネル		42×53cm	菅沼隆二	
	宮治昭手帳、スケッチ		冊子		8冊	宮治昭	
	壁画の描き起し図面		紙		7枚	宮治昭	
	石窟建築図面		紙		2枚	宮治昭	

第9章 西域の仏教美術							
129	舍利容器	中国新疆、クチャ、木、布貼り、6-7世紀 スパシ出土	彩色		h.32.5cm×w.38.3cm	東京国立博物館	12/28 - 1/14
130	ドローナ像	中国新疆、キジル大224窟	壁画	5-6世紀	h.40.5cm×w.28cm	東京国立博物館	1/29 - 2/11
131	分舍利図（模本）	阿部務 模写	紙本着色		h.148.4cm×w.40.2cm、 h.148.4cm×w.77.1cm、 h.148.4cm×w.76.1cm	東京国立博物館	原品：中国新疆、 キジル第24窟 5-6 世紀 ベルリン民 族学博物館旧蔵 1/29 - 2/11
132	大迦葉半身像（模本）	森田龜太郎 模写	紙本着色		h.54cm×w.72.7cm	東京国立博物館	原品：中国新疆、 キジル第60窟 5-6 世紀 ベルリン、 インド美術館蔵 2/26 - 3/30
133	仏伝白描（模本） 阿闍世王沐浴図部分	鷹巣熊太 模写	紙本着色		h.69cm×w.55.4cm	東京国立博物館	原品：中国新疆、 キジル第205窟 5- 6世紀 ベルリン 民族学博物館旧蔵 2/13 - 2/24
134	日天図（模本）	阿部務 模写	紙本着色		h.50cm×w.41.5cm	東京国立博物館	原品：中国新疆、 クムトラ第23窟 6- 7世紀 ベルリン、 インド美術館蔵 12/28 - 1/27
135	クチャ供養者図（模本）	日下喜一郎 模写	紙本着色		h.94.5cm×w.68cm	東京国立博物館	原品：中国新疆、 キジル第205窟 5- 6世紀 ベルリン 民族学博物館旧蔵 12/28 - 1/27
136	燃灯仏授記（復元図）	龍谷大学古典籍デ ジタルアーカイブ 研究センター	デジタル画 像		h.283cm×w.317.4cm	龍谷大学	原品：中国新疆、 トゥルフアン、ベ ゼクリク石窟 11 世紀
137	船上の仏と隊商主 （復元図）	龍谷大学古典籍デ ジタルアーカイブ 研究センター	デジタル画 像		h.289.2cm×w.261.5cm	龍谷大学	原品：中国新疆、 トゥルフアン、ベ ゼクリク石窟 11 世紀
138	誓願図部分（ベゼクリ ク石窟採取）	中国新疆、トゥル ファン、ベゼクリ ク石窟第33窟	壁画		h.116.1cm×w.74cm	東京国立博物館	2/13 - 2/24
139	樹下人物図（模本）		紙本着色		h.140cm×w.56cm	MOA美術館	[原本]：中国新疆、 トゥルフアン、ア スターナ 8世紀
140	樹下人物図（模本）		紙本着色		h.140cm×w.56cm	MOA美術館	[原本]：中国新疆、 トゥルフアン、ア スターナ 8世紀
141	伏羲女媧図	中国新疆、トゥル ファン、アスター ナ	紙本着色 （軸装）	7-8世紀	h.73.5cm×w.107.5cm	龍谷大学	
142	印沙佛	中国新疆、トゥル ファン	紙本捺印		h.27.6cm×w.24.8cm	龍谷大学	
143	釈迦降誕図・七宝 （模本）	日下喜一郎 模写	紙本着色		h.66.7cm×w.19.5cm	東京国立博物館	原品：中国、敦煌 莫窟第17窟発見 唐時代、9世紀 大英博物館蔵 2/26 - 3/30
144	蓮華上菩薩図（模本）	阿部務 模写	絹本着色		h.64.0cm×w.17.4cm	東京国立博物館	原品：中国、敦煌 莫窟第17窟発見 唐時代、9世紀 ギメ国立東洋博物 館蔵 1/29 - 2/11
145	引路菩薩像（模本）	長谷川路可 模写	絹本着色		h.85.5cm×w.54.5cm	東京国立博物館	原品：中国、敦煌 莫窟第17窟発見 五代時代、10世紀 大英博物館蔵 2/26 - 3/30

146	観音菩薩坐像（模本）	長谷川路可 模写	絹本着色		h.84.8cm×w.61.2cm	東京国立博物館	原品：中国、敦煌莫窟第17窟発見 五代～北宋時代、10世紀 大英博物館蔵 12/28 - 1/27
147	釈迦説法図（模本）	長谷川路可 模写	絹本着色		h.139.4cm×w.102.4cm	東京国立博物館	原品：中国、敦煌莫窟第17窟発見 唐時代、8世紀 大英博物館蔵 2/13 - 2/24
148	カローシュティー木簡	中国新疆	木製ペン書き	3-5世紀	h.4.1cm×w.15cm	龍谷大学	
149	ホータン文『ザンバスタの書』	ホータン、中国新疆	紙本ペン書き	8-9世紀	h.11.9cm×w.28.5cm	龍谷大学	
150	トカラ文寺院出納文書	中国新疆、クチャ	紙本ペン書き	6-8世紀	h.40.2cm×w.28.8cm	龍谷大学	
151	サンスクリット『白傘蓋陀羅尼經』	中国新疆、トウルファン	紙本印刷	13-14世紀	h.19.2cm×w.22cm	龍谷大学	
152	ウイグル文『文殊師利成就法』	中国新疆、トウルファン	紙本墨書	13-14世紀	h.9.6cm×w.22cm	龍谷大学	
153	マニ經パルティア語の宇宙生成論	中国新疆、トウルファン	紙本ペン書き	9-10世紀	h.8cm×w.8.5cm	龍谷大学	
154	ソグド文『法王經』	中国新疆、トウルファン	紙本ペン書き	8-10世紀	h.14cm×w.11.5cm	龍谷大学	
155	漢文『妙法蓮華經』	敦煌	紙本墨書	5世紀	h.24.9cm×w.42.9cm	龍谷大学	
156	チベット字サンスクリット法身偈	中国新疆、トウルファン	紙本捺印	12-14世紀	h.9cm×w.7cm	龍谷大学	

石田徹也—悲しみのキャンパス

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)	所蔵	備考	画集 p.
1	弱い者いじめはやめよう	1984	水彩、紙		静岡地方方法務局	人権マンガ最優秀賞	
2		学生時代？	油彩、カンバス	318×410			
3		学生時代？	油彩、カンバス	318×410			
4	ビアガーデン発	1995	アクリル、紙	510×785		毎日広告デザイン賞優秀賞	
5	居酒屋発	1995	アクリル、紙	510×785		毎日広告デザイン賞優秀賞	
6	飛べなくなった人	1996	アクリル、板	1030×1456		大槻ケンジ「暴いておやりよドルバッキー！」表紙絵	5
7	飛べなくなった人	1996	アクリル、板	1030×1456			6
8	ケイタイデンワロボとノート型パソコン少年	1996	アクリル、板	1030×1456		ダ・ヴィンチ他挿絵	74
9	社長の傘の下	1996	アクリル、板	1030×1456			7
10		1995	アクリル、板	880×625			
11	大車輪	1995	アクリル、板	1030×728			
12		1995	アクリル、紙	728×515			
13		1995	アクリル、紙	880×625			
14	SLになった人	1995	アクリル、紙	858×607			22
15		1995	アクリル、板	1030×728			
16		1995	アクリル、板	728×1030			
17		1995	アクリル、板	1030×728			44
18		1995	アクリル、板	728×1030			45
19		1995	アクリル、板	728×1030			
20	みのむしの睡眠	1995	アクリル、紙	728×1030			9
21	だんご虫の睡眠	1995	アクリル、紙	728×1030			65
22	異動の夢	1996	アクリル、板	1030×1456			30
23	鯉の夢	1996	アクリル、板	1030×1456			8
24	トイレへ逃げ込む人	1996	アクリル、板	1030×1456			29
25	トイレへ逃げ込む人	1996	アクリル、板	1030×1456			31
26	兵士	1996	アクリル、板	1456×1030			20
27	屋上へ逃げる人	1996	アクリル、板	1456×1030			39
28	燃料補給のような食事	1996	アクリル、板	1456×2060			12
29	使われなくなったビルの社員のイス	1996	アクリル、板	1456×1030			62
30	使われなくなったビルの部長のイス	1996	アクリル、板	1456×1030			62
31	ベルトコンベア上の人	1996	アクリル、板	1456×1030			39

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)	所蔵	備考	画集 p.
32	速度信仰	1996	アクリル、板	1456×1030			20
33	不安な夢	1996	アクリル、板	1030×1456			64
34	不安な夢	1996	アクリル、板	1456×1030			64
35	コンビニエンスストアの母子像	1996	アクリル、板	1456×1030			38
36	おやじ	1996頃	アクリル、カンバス	455×530			71
37	トヨタ自動車イプサム	1996	アクリル、紙	594×841		毎日広告デザイン 賞奨励賞	
38	引き出し	1996	アクリル、カンバス	594×420			
39		1997?	アクリル、カンバス	594×420			
40	冬のセンブウキ	1996	アクリル、カンバス	594×420			63
41	ぐち	1997	アクリル、カンバス	420×594		ビジュアルアート コンペティション 審査員賞	14
42	ぐち	1996	アクリル、カンバス	594×420			63
43	スーパーマーケット	1997	アクリル、板	1030×1456			27
44		1997頃	アクリル、板	1030×1456			32
45		1997頃	アクリル、板	1030×1456			33
46	健康器具	1997	アクリル、板	1030×1456		JACA日本ビジュ アルアート展グラ ンプリ	26
47		1997頃	アクリル、板	1030×1456			87
48	クラゲの夢	1997	アクリル、板	1030×1456			
49		1998	アクリル、板	1820×910		「ひとつぼ展」10 周年記念展	75
50	接触	1998頃	アクリル、板	910×1167			15
51	物色	1998頃	アクリル、板	910×1167			68
52	回収	1998	アクリル、板	1456×2060	プライベートコ レクション	キリンコンテンポ ラリーアワード奨 励賞	56
53	面接	1998頃	アクリル、板	1030×1456			11
54		1998頃	アクリル、板	1030×1456			35
55	めばえ	1998頃	アクリル、板	1456×2060			10
56	距離	1999	アクリル、板	2060×1456			75
57	市場	1999	アクリル、板	2060×1456			
58	観測	1999頃	アクリル、板	2060×1456			73
59	公共物	1999	アクリル、カンバス	455×530			21
60	分解	1999	アクリル、カンバス	518×730			49
61	起床	1999	アクリル、カンバス	518×730			38

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)	所蔵	備考	画集 p.
62	囚人	1999頃	アクリル、板	1030×1456			37
63	子孫	1999頃	アクリル、板	2060×2912			55
64		不詳	アクリル、カンバス	322×485		Number挿絵	
65		不詳	アクリル、カンバス	333×490		Number挿絵	
66		1999	アクリル、板	364×515		Number挿絵	
67		1999	アクリル、カンバス	364×515		Number挿絵	
68		1999	アクリル、カンバス	364×515		Number挿絵	
69		1999	アクリル、板	364×515		Number挿絵	
70		2000	アクリル、カンバス	455×530 ?		Number挿絵	
71		1998 ?	アクリル、板	515×364		大槻ケンジ「のほほん人間革命」表紙絵	
72		2001頃	アクリル、紙	530×455		大槻ケンジ「猫を背負って町を出ろ！」表紙絵	
73		1999	アクリル、板	515×364		Number挿絵	
74		1999	アクリル、板	515×364		Number挿絵	
75		不詳	アクリル、カンバス	216×165		Number挿絵	
76		不詳	アクリル、カンバス	216×165		Number挿絵	
77		不詳	アクリル、カンバス	216×165		Number挿絵	
78		2000 ?	アクリル、カンバス	216×165		Number挿絵	
79		不詳	アクリル、カンバス	216×165			
80		不詳	アクリル、カンバス	216×165		Number挿絵	
81	救出	2003	アクリル、カンバス	455×455			
82		2000頃	アクリル、カンバス	1940×1620			18
83		2000頃	アクリル、カンバス	1940×1620			19
84	待機	1999	アクリル、カンバス	455×530			23
85	説教	1999	アクリル、板	518×730			28
86	待機	1999	アクリル、板	1456×2060			24
87	彼方	1999	アクリル、板	2060×1456			25
88	しじま	2001	アクリル、カンバス	727×910			83
89		2001	アクリル、カンバス	455×530			40
90		2001頃	アクリル、カンバス	1120×1620			61
91		2001	アクリル、カンバス	1303×1940	プライベートコレクション		48
92	搜索	2001	アクリル、カンバス	1121×1621	第一生命ギャラリー	VOCA2001展奨励賞	52

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)	所蔵	備考	画集 p.
93	前線	2001	アクリル、カンバス	1121×1621	第一生命ギャラリー	VOCA2001展奨励賞	80
94		2001?	アクリル、カンバス	1303×1620			
95		2001	アクリル、カンバス	1120×1620			60
96		2001頃	アクリル、カンバス	1030×1456			13
97		2002頃	アクリル、カンバス	594×420			77
98		2002頃	アクリル、カンバス	455×530			76
99		2002頃	アクリル、カンバス	380×455			82
100	温室	2003	アクリル、油彩、カンバス	910×727			54
101		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	910×1167			59
102	迷子	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			
103		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			86
104		2003	アクリル、油彩、カンバス	727×606			85
105		2003	アクリル、油彩、カンバス	727×910			70
106		2003	アクリル、油彩、カンバス	910×727			
107	裏庭	2003	アクリル、油彩、カンバス	275×275			
108		2003?	アクリル、油彩、カンバス	273×273			
109		2003	アクリル、油彩、カンバス	273×273			79
110		2003	アクリル、油彩、カンバス	273×273			
111	帰路	2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455×380			84
112	リハビリ	2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455×380			
113	リハビリ	2003	アクリル、油彩、カンバス	910×728			81
114	僻地	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			91
115		2003?	アクリル、油彩、カンバス	455×530			
116		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	380×455			92
117		2003?	アクリル、油彩、カンバス	910×1170			
118		2003	アクリル、油彩、カンバス	606×910			
119	触手	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			43
120	訪問者	不明	アクリル、油彩、カンバス	455×530			
121		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			42
122	満潮	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			41
123	体液	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			66
124		2002?	アクリル、紙	500×440		嵐・チャリティー企画展	

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)	所蔵	備考	画集 p.
125		2000	アクリル、カンバス	180×180		腕時計原画・チャリティー企画展	
126		1996	アクリル、インク、紙、セル			絵皿原画・チャリティー企画展	
127		不詳	アクリル、紙	170×150			
128		不詳	インク、紙	216×165			
129	ジーンズ	2005頃	プリント、布			チャリティー企画展	
130		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	1455×1940			46
131		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	1455×1940			58
132	裏庭	不詳	アクリル、油彩、カンバス	275×220			
133	転移	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	910×910			
134	墮胎	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			47
135		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	910×1167			53
136	春	2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			
137		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			94
138		2004 ?	アクリル、油彩、カンバス	530×652			
139	放牧	不詳	アクリル、油彩、カンバス	530×455			
140	背景	2002	アクリル、油彩、カンバス	530×455			
141		不詳	アクリル、油彩、カンバス	273×220			
142		不詳	アクリル、油彩、カンバス	273×273			
143		2003頃	アクリル、油彩、カンバス	455×530			93
144		不詳	アクリル、油彩、カンバス	273×220			
145	文字	不詳	アクリル、油彩、カンバス	910×740			
146	草食竜	不詳	アクリル、油彩、カンバス	725×605			
147	再生	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			89
148	制圧	2004	アクリル、油彩、カンバス	530×455			88
149	漸毛	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			69
150	残骸	2004	アクリル、油彩、カンバス	455×530			17
151		2004 ?	鉛筆、紙	625×895			
152		2004頃	アクリル、油彩、カンバス	910×1167			95
153	アイデア帖 14冊						

収蔵品展

新収蔵品展

2007年3月30日(金)～5月20日(日)

新収蔵品

No.	作者名	作品名
1	福王寺法林	ヒマラヤの月
2	高山辰雄	水の頃
3	堂本元次	瀉江
4	堂本元次	春 あさぼらけ
5	堂本元次	秋 照り映える
6	下保昭	湖山暁雲
7	福井爽人	水を運ぶ
8	竹内浩一	塵
9	竹内浩一	洲
10	武内鶴之助	英国風景
11	武内鶴之助	紀州瀕峡
12	ビエール＝オーギュスト・ルノワール	オーギュスト・ロダンの肖像
13	福岡道雄	湯原湖で(2)
14	金沢健一	音のかげら 1

西洋の風景画・日本画の名品

No.	作者名	作品名
15	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	メリ街道、ラ・フェルテ＝ヌ・ジュアル付近
16	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
17	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
18	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモーの古城
19	木村武山	羽衣(3/30～4/26のみ展示)
20	松岡映丘	今昔ものがたり伊勢図(3/30～4/26のみ展示)
21	伊藤若冲	樹花鳥獣図屏風(4/27～5/6のみ展示)
22	呉春	柳陰婦漁図屏風(4/27～5/20のみ展示)
23	雲谷等顔	春夏山水図屏風〔重要文化財〕(5/7に右左隻展示替) ◇

◇：当館寄託品

「虹の美術館」の軌跡

2007年5月23日(水)～7月8日(日)

No.	作者名	作品名
霰嘔とその時代		
1	霰嘔	レインボー北斎 ☆◇
2	霰嘔	虹の橋 ☆◇
3	霰嘔	Rainbow Landscape・Mt.Fuji ☆◇
4	霰嘔	Rainbow Landscape・Rainbow Volcano ☆◇
5	霰嘔	アダムとイブ ☆
6	瑛九	樹 ☆△
7	池田満寿夫	私の詩人 私の猫 ☆△
8	池田満寿夫	ウォークから来た女 ☆△
9	磯辺行久	WORK62-64
10	磯辺行久	パラシュート・キャノピー ☆◇
11	アンディ・ウォーホル	マリリン・モンロー ☆△
12	アンディ・ウォーホル	ドル記号 ◇
13	ヨーゼフ・ボイス	7000本の櫨の木 ☆△
環境芸術の模索		
14	川俣正	袋井駅前プロジェクト1988
15	川俣正	Site Plan 23 ☆△
16	クリスト&ジャン・クロード	1980～83囲まれた島々(フロリダ州マイアミビスケー湾) ☆△
17	小林健二	土星ラジオステーション ☆△
18	岩崎永人	Torso-05 ☆△
19	太田三郎	シードプロジェクト(三保) ☆△
20	太田三郎	シードプロジェクト(日本平) ☆△
グループ幻触ともの派		
21	飯田昭二	Half and Half
22	小池一誠	No.1 石
23	鈴木慶則	非在のタブロー 梱包されたオダリスク
24	鈴木慶則	〈内乱のきざし〉の相貌をおびた非在のタブロー △
25	丹羽勝次	箱シリーズ '68
26	丹羽勝次	箱シリーズ' 68 (NO HOOKS) △
27	前田守一	遠近のものさし(折り尺)
28	前田守一	遠近のものさし

No.	作者名	作品名	
29	関根伸夫	1968位相―大地	☆
30	李禹煥	線より	◇
31	李禹煥	線より	
32	李禹煥	点より	◇
33	李禹煥	点より	◇
34	高松次郎	布の弛み	
35	高松次郎	These Three Words	

☆：旧虹の美術館関係者所蔵作品
◇：当館寄託品
△：個人蔵

日本画の名品―夏をたのしむ―

2007年7月24日(火)～9月2日(日)

No.	作者名	作品名	
1	横山大観	群青富士	
2	川合玉堂	田植図	
3	小野竹喬	はつ夏	
4	鐙木清方	朝顔日記	
5	山本琴谷	無逸図	
6	浦上春琴	競秀争流図	
7	長谷川玉峰	四条夕涼図	
8	鈴木其一	干瓢干し図	
9	橋本関雪	摘瓜図	
10	中村岳陵	婉膩水韻	
11	長沢蘆雪	滝図	◇
12	森一鳳	氷室の節供図	
13	狩野周信	蓮池鷺図	
14	狩野芳崖	寿老人図	
15	藤原家隆	藤原家隆百首和歌	
16	狩野探信守道	夏秋花鳥図屏風	
17	野島青菰	晩夏	

◇：当館寄託品

「戦前」の日本美術 ―ぼんやりとした不安―

9月5日(水)～10月14日(日)

No.	作者名	作品名	
1	中村大三郎	浄謚	◇
2	竹内栖鳳	揚州城外	
3	近藤浩一路	東山栗田口	
4	入江波光	草園の朝	
5	村上華岳	春峰晴煙図	
6	中川一政	風景（池袋の麦畑）	
7	野口謙蔵	虹の風景	
8	平塚運一	伊豆梅林	
9	長谷川潔	南仏風景	
10	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	
11	原勝郎	バガテル公園、パリ	
12	清水登之	セーヌ河畔	
13	岡田岡因もしくはオカイン	小児	
14	川口軌外	白い花	
15	児島虎次郎	酒津の庭(水蓮)	
16	北川民次	タスコの祭	

◇：当館寄託品

草間彌生の世界

10月17日(水)～11月18日(日)

No.	作者名	作品名	
1	草間彌生	無題	
2	草間彌生	最後の晩餐	
3	草間彌生	人間の住家 (B)	◎
4	草間彌生	人間の住家 (D)	◎
5	草間彌生	INFINITY DOTS [IRT]	◎
6	草間彌生	愛はとこしえ [TAOW]	◎
7	草間彌生	WOMEN [TTWOP]	◎
8	草間彌生	早春の芽生え [T.A.A.Z]	◎
9	草間彌生	生老病死 [QXPAT]	◎
10	草間彌生	朝のめざめ [TQSTW]	◎
11	草間彌生	水玉強迫 2007	◎

No.	作者名	作品名	
12	草間彌生	水上の蜚	◎

◎：作家蔵

西洋絵画コレクションより一空のうた、風のささやき—
11月20日(火)～12月24日(月)

No.	作者名	作品名
1	ジャック・カロ	大狩猟
2	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
3	クロード・ロラン	嵐
4	クロード・ロラン	川岸の踊り
5	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
6	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
7	アドリアーン・ファン・オスターデ	釣り人たち
8	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
9	サルヴァートル・ローザ	川のある山岳風景
10	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景
11	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
12	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノーデンを望む
13	トマス・ゲインズバラ	水を飲む馬のいる森の風景
14	ジャン＝ジョゼフ＝グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景
15	アレクサンドル＝イアサン・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め
16	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼
17	ウージェーヌ・イザベイ	『《古きフランスのビトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュⅠ、Ⅱ』 グラ通り、クレルモン
18	ウージェーヌ・イザベイ	『《古きフランスのビトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュⅠ、Ⅱ』クレルモン＝ロヤ街道の十字架
19	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パッランツァ、マッジョーレ湖
20	サミュエル・パーマー	疲れた農夫
21	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロ	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近
22	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
23	ヨーハン＝バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
24	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
25	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
26	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモーの古城

No.	作者名	作品名
27	シャルル＝フランソワ・ドービニー	『40のガラス版画』より 橋
28	シャルル＝フランソワ・ドービニー	『40のガラス版画』より 牧場のロバ

インド・中国へのまなざし
2008年1月2日(水)～2月17日(日)

No.	作者名	作品名
1	尾竹竹坡	乳供養 ◇
2	秋野不矩	ガンガー（ガンジス河）
3	秋野不矩	廻廊
4	秋野不矩	たむろするクーリー
5	秋野不矩	ブラーミンの家
6	秋野不矩	ウダヤギリⅡ
7	福井爽人	水を運ぶ
8	富岡鉄斎	蜀國棧道図
9	寺崎広業	山水図 ◇
10	竹内栖鳳	揚州城外
11	橋本明治	露仏（大同二十窟）
12	須田剋太	大同仏頭
13	平山郁夫	楼蘭遺跡全景※個人蔵、参考出品

◇：当館寄託品

静岡ゆかりの画家たち

2月19日(火)～3月30(日)

No.	作者名	作品名
1	伊藤勉黄	上海の裏町
2	伊藤勉黄	新開地の女
3	石川欽一郎	台湾風景農村
4	石川欽一郎	台湾風景農村
5	栗原忠二	セントポール
6	栗原忠二	ロンドン郊外
7	曾宮一念	スペインの野
8	曾宮一念	毛無連峯
9	赤城泰舒	雲（折原）
10	和田英作	富士
11	小栗哲郎	裏のみかん山

No.	作者名	作品名
12	茨木猪之吉	初夏の常念岳
13	徳川慶喜	風景
14	柏木俊一	道
15	島戸繁	びわ湖の舟
16	柏木俊一	海と畑と森
17	高島達四郎	伊豆下田港
18	石川欽一郎	駿河湾
19	石川欽一郎	海辺（早川海岸）
20	川村清雄	巨岩海浜図
21	川村清雄	波

名品コーナー

▲：富士山の絵画 ◇：当館寄託品

No.	作者名	作品名
3月30日(金)～5月6日(日)		
左	横山大観	春園の月 ◇
中央	アシル＝エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの
右	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦） ▲
5月8日(火)～6月3日(日)		
左	速水御舟	芍薬図 ◇
中央	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
右	平木政次	富士 ▲
6月5日(火)～7月8日(日)		
左	李禹煥	照応 ◇
中央	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
右	和田英作	日本平富士望嶺台 ▲
7月24日(火)～9月2日(日)		
左	難波田龍起	ミクロの世界
中央	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモーの古城
右	平木政次	富士 ▲
9月5日(水)～10月14日(日)		
左	前田守一	遠近のものさし ◇
中央	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流

No.	作者名	作品名
右	ジョルジュ・ビゴー	富士（沼津江浦） ▲
10月17日(水)～11月18日(日)		
左	高山辰夫	水の頃
中央	ファン・グリス	果物皿と新聞
右	鬚嘔	Rainbow Landscape ・ Rainbow Volcano Rainbow Landscape ・ Mt. Fuji ▲
11月20日(火)～12月24日(月)		
左	不詳	富士曼荼羅図 ▲
中央	ジョアン・ミロ	シウラナの教会
右	須田国太郎	筆石村
12月28日(金)～2月17日(日)		
左	岸駒	芙蓉峰図 ▲
中央	福田平八郎	雪庭
右	ハイム・スーチン	カーニユ風景
2月19日(火)～3月30日(日)		
左	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図 ▲
中央	奥村土牛	八瀬の牛 ◇
右	パウル・クレー	ホールC、エントランスR2

ロダン館第2展示室

ロダンの友人たち、同時代人たち

No.	作者名	作品名
1	シャルル・メリヨン	ボン・ト・シャンジュ(両替橋)
2	ロドルフ・プレスダン	エジプト逃避途上の休息
3	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
4	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘
5	カミーユ・ピサロ	クリスマスの農家（オスニ）
6	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーフアンの大樹
7	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女

挿絵画家ロダン

9月5日(水)～10月14日(日)

No.	作者名	作品名
1	オーギュスト・ロダン	ミルボー作『拷問の庭』より

ロダンの愛したイタリアー西洋の版画よりー

10月17日(水)～11月18日(日)

No.	作者名	作品名
1	ヤン・ポト	ボンテ・モッレ[『ローマ周辺の眺め』(全6点)のひとつ]
2	ジョヴァンニ・フランチェスコ・グリマルディ	煉瓦工場のある風景
3	ステーファノ・デッラ・ベッラ	《プラトリーノの眺め》より アペニン山脈
4	ステーファノ・デッラ・ベッラ	《プラトリーノの眺め》より オークの老木
5	ステーファノ・デッラ・ベッラ	《プラトリーノの眺め》より 噴水のある小道
6	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会のある廃墟の眺め
7	アントニオ・カナル(通称 カナレット)	ドーロ風景
8	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	納骨堂
9	ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	小さなヴェネツィア

異国に魅せられてー日本人洋画家によるフランス風景ー

11月20日(火)～12月24日(月)

No.	作者名	作品名
1	高島達四郎	エトルタ
2	長谷川潔	南仏風景
3	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
4	原勝郎	バガテル公園、パリ
5	長谷川潔	南仏古村 (ムーアン・サルトゥー)
6	長谷川潔	風景 ※1
7	石川欽一郎	ムードン風景 ※2

※1は11/20～12/19、※2は12/11～12/24に展示。

移動美術館

	作者	作品名	制作年	材質	寸法(cm)
1	曾宮一念	工部大学	1911（明治44）	キャンヴァス、油彩	34.0×45.7
2	曾宮一念	芝浦埋立地	1913（大正2）	キャンヴァス、油彩	53.0×72.0
3	曾宮一念	風景	1920頃（大正中期）	キャンヴァス、油彩	33.4×45.5
4	曾宮一念	梨畑道	1924（大正13）	キャンヴァス、油彩	59.0×71.5
5	曾宮一念	種子静物	1934（昭和9）	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
6	曾宮一念	八つ残雪	1940（昭和15）	キャンヴァス、油彩	22.5×45.0
7	曾宮一念	麦秋	1941（昭和16）	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0
8	曾宮一念	スペインの野	1968（昭和43）	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
9	鶴田吾郎	余の見たる曾宮君	1922（大正11）	キャンヴァス、油彩	114.5×91.0
10	山口源	能役者	1958（昭和33）	紙、木版	86.5×47.0
11	山口源	同棲	1962（昭和37）	紙、多色木版	84.2×45.6[92.6×52.0]
12	井上恒也	花にハト	昭和40年代	紙本着色（一部金箔）	71.7×52.7
13	井上恒也	パパイヤ	昭和40年代	紙本着色金泥	90.0×60.0
14	茨木猪之吉	初夏の常念岳	1935（昭和10）	キャンヴァス、油彩	45.7×53.0
15	栗原忠二	セントポール	1916頃（大正5頃）	キャンヴァス、油彩	80.0×100.0
16	栗原忠二	ロンドン郊外		キャンヴァス、油彩	50.0×60.7
17	赤城泰舒	ギターを弾く少年	1928（昭和3）	紙、テンペラ	64.7×49.5
18	赤城泰舒	雲（折原）	1945頃（昭和20頃）	紙、水彩	38.2×56.7
19	柏木俊一	道	大正時代	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
20	柏木俊一	海と畑と森	1934（昭和9年）	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
21	平木政次	富士	1897（明治30）	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
22	石川欽一郎	駿河湾	1939頃（昭和14頃）	絹、水彩	53.0×64.5
23	梅原龍三郎	暁天（富士山・大仁）		紙本着色	46.3×33.0
24	川村清雄	風景	1920年代（大正末から昭和初）頃	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3
25	近藤浩一路	富士山	1940-50（大正末から昭和初）	紙本墨画	65.1×72.2
26	オーギュスト・ロダン	《ラ・フランス》習作	1904	ブロンズ	50×43×31
27	淀井敏夫	波・群	1959（昭和34）	ブロンズ	66×94×41
28	柳原義達	道標・鳩	1973-79（昭和48-54）	ブロンズ	43×52×28
29	金沢健一	音のかけら 2	1987（昭和62）	鉄、ゴム	h3.2×150.0×150.0

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号

平成3年3月19日条例第2号

平成4年3月25日条例第14号

平成8年3月28日条例第11号

平成11年3月19日条例第16号

平成13年7月24日条例第45号

平成15年3月12日条例第2号

平成17年7月15日条例第49号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例
(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(平3条例2・一部改正)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(平3条例2・一部改正)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認をうけなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(平3条例2・一部改正)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。

(2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。

(3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(平3条例2・一部改正)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

(1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。

(2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。

(平3条例2・一部改正)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(平17条例49・一部改正)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月29日条例第43号)

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成3年3月19日条例第2号)

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則 (平成4年3月25日条例第14号)

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成8年3月28日条例第11号)

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成11年3月19日条例第16号)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成13年7月24日条例第45号)

- 1 この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則 (平成15年3月12日条例第2号)

- 1 この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年7月15日条例第49号)

- 1 この条例は、平成17年7月15日から施行する。

別表第1 (第3条関係)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校及び高等学校の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利 用 区 分	特 別 観 覧 料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3 (第9条関係)

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分		使 用 料 10時から17時30分まで
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号
平成6年3月10日規則第5号
平成9年3月28日規則第51号
平成12年3月31日規則第17号
平成13年7月24日規則第59号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日。）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 年齢70歳以上の者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 教育課程に基づく教育活動として常設展示を観覧する児童又は生徒を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(5) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第3号までに規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号〕
(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

- (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。
- 2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日より施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

- この規則は、平成12年4月1日より施行する。
 - この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。
 - この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。
- 附 則（平成13年7月24日規則第59号）
- この規則は、平成13年10月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）
特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名				点数	
特別観覧 の 目 的							
区 分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用		
日 時	年 年	月 月	日 日	時 時	から から	時まで 時まで	
内 訳	模 写	点 日		円		合 計	
	模 造	点 日		円			
	撮 影	点 日		円			
	熟 覧	点 日		円			
	原板使用	点 日		円			
備 考							

様式第2号（第5条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）
県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊦]

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演会の名称					
展覧会、講演等の内容					
使 用 区 分	県民ギャラリー（A・B）講堂				
使 用 期 間	年	月	日（ ）	時	分から
	年	月	日（ ）	時	分まで
					日間
入場料等の徴収の有無	有・無		円		
主 催 者 名					
連絡責任者及び電話					
後 援 者 名					

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）
（用紙 日本工業規格A4縦型）
観覧料等減免申請書

年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊦]

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日時	年 月 日（ ）時 分から 年 月 日（ ）時 分まで		
観覧人員			人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員			人
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等			円
減免申請額			円

様式第4号（第11条関係）
（用紙日本工業規格A4縦型）
特別観覧料
使用料 還付申請書

年 月 日
静岡県立美術館長 様
住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕
氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊦]

次のとおり特別観覧料の使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別の理由があると認めるとき。」

は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は、次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別の理由があるものと認めるとき。	館長が別に定める額

附 則
この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）
第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）
第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）
第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）
第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申し込みとする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4 月	前年10月 1 日～10月15日	前年 9 月 1 日～ 9 月15日
5 月	前年11月 1 日～11月15日	前年10月 1 日～10月15日
6 月	前年12月 1 日～12月15日	前年11月 1 日～11月15日
7 月	1 月 1 日～ 1 月15日	前年12月 1 日～12月15日
8 月	2 月 1 日～ 2 月15日	1 月 1 日～ 1 月15日
9 月	3 月 1 日～ 3 月15日	2 月 1 日～ 2 月15日
10月	4 月 1 日～ 4 月15日	3 月 1 日～ 3 月15日
11月	5 月 1 日～ 5 月15日	4 月 1 日～ 4 月15日
12月	6 月 1 日～ 6 月15日	5 月 1 日～ 5 月15日
1 月	7 月 1 日～ 7 月15日	6 月 1 日～ 6 月15日
2 月	8 月 1 日～ 8 月15日	7 月 1 日～ 7 月15日
3 月	9 月 1 日～ 9 月15日	8 月 1 日～ 8 月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に、会長及び副会長を置く。

4 会長には生活・文化部長、副会長には文化振興総室長をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門評価員を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告

するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は平成10年4月1日から施行する。

附 則

この改正は平成11年4月1日から施行する。

附 則

この改正は平成12年4月1日から施行する。

附 則

この改正は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正は平成14年4月1日から施行する。

別表

生活・文化部長 文化振興総室長 生活文化管理室長 文化政策室長 美術館副館長

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

(1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。

(2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

(1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。

(2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。

(3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1)職員の人事及び服務に関すること
- (2)職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3)監査に関すること
- (4)文書の収受発送に関すること
- (5)公印の管守及び機密に関すること
- (6)予算・決算その他会計事務に関すること
- (7)美術品及び物品の購入に関すること
- (8)財産及び物品の管理に関すること
- (9)美術館協議会に関すること
- (10)他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1)美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2)展覧会の企画及び開催に関すること
- (3)美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4)美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5)美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6)美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7)前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人		1人	2人	4人

■美術館協議会

堀 則 雄	静岡市立長田南小学校長
山下 峰 雄	静岡県立磐田南高等学校長
江 崎 善三郎	静岡県文化協会長
鎌 田 まり子	NPO静岡県青年団連絡協議会長
長野 蝶 子	静岡県地域女性団体連絡協議会副会長
松 井 純	静岡新聞社・静岡放送社長
高 木 敦 子	(有)アムズ環境デザイン研究所代表取締役
岡 野 晃 子	(財)ベルナル・ビュフェ美術館副館長
立 田 洋 司	静岡県立大学大学院教授
岡 本 一 八	(株)丸八真綿取締役
田 嶋 清 子	(株)レ・サンク代表取締役
北 條 博 厚	県立美術館友の会会長
島 津 敏 雄	NHK静岡放送局長
田 村 孝 子	グランシップ館長

■専門委員

木 村 重 圭	甲南女子大学教授
坂 本 満	お茶ノ水女子大学名誉教授 金沢美術工芸大学客員教授
潮 江 宏 三	京都市立芸術大学学長
建 畠 哲	国立国際美術館長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所企画情報部 文化財アーカイブス研究室長
河 野 元 昭	秋田県立近代美術館長

■資料評価委員

稲 津 成 孝	静岡県県民部長
丸 山 康 至	静岡県県民部部長代理
大 滝 修	静岡県県民部文化学術局長
宇佐美 稔	静岡県文化政策室長
鈴木 充 代	静岡県立美術館副館長

■職員

館 長	宮 治 昭
副 館 長	鈴木 充 代
学 芸 部 長	小 針 由紀隆
総 務 課 長	小 林 久美子
総 務 係 長	近 藤 久仁彦
主 任	新 井 達 也
副 主 任	篠 原 昭 一
主 事	中 嶋 浩 美
管 理 係 長	櫻 井 雅 之
主 任	楯 本 壽 徳
副 主 任	村 松 齊
学 芸 課 長	飯 田 真
主任学芸員	南 美 幸
主任学芸員	堀 切 正 人
主 任	岡 崎 隆 司
主 任	福 元 清 志
学 芸 員	新 田 建 史
学 芸 員	川 谷 承 子
学 芸 員	村 上 敬
学 芸 員	泰 井 良 (財)地域創造へ派遣)
学 芸 員	森 充 代
学 芸 員	福 士 雄 也

■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員

白 木 悦 子
増 田 洋 子
中 村 有 希

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	28,220
共催展収入	35,355
県民ギャラリー等使用料	5,605
財産売払・貸付・運用収入	2,256
助成金等	6,400
その他	2,452
計	80,288

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	151,749
管理費	321,920
運営費	(67,461)
施設管理費	(254,459)
事業費	120,764
企画展事業費	(87,512)
常設展事業費	(11,013)
資料・普及事業費	(22,239)
館蔵品取得費	29,896
施設整備費	14,963
基金積立	5,796
計	645,088

建築・設備概要

■建築概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
所 在 地	静岡市谷田53番2号	同 左
敷 地	県文化センター内（約120,000㎡）	同 左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕 上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット 長尺塩化ビニールシート貼 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込P C板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺 トップライト（アルミ、複層ガラス） 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工 期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
電 気 設 備	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 変圧器 1 φ 300 KVA、3 φ 400KVAモールド型 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力300KVA 3 φ 3 W6,600V 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱 電 設 備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料（ビデオ）、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤（自火報、防排煙）、防犯非常錠制御盤、防災アンプ（180W）、ITV監視装置、地図式表示板	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 1 φ 280KVA、3 φ 350KVA 最大電力800KW 発 電 設 備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力200KVA 3 φ 3 W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱 電 設 備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同 左
空気調和設備	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（150USRT・40USRT）、温水焚吸収冷温水機（30USRT）、空気熱源回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機（150USRT）、プレート式熱交換器（396,300Kcal/h） 蓄 熱 槽 冷温水槽 550㎡・55㎡、ソーラー用 20㎡ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱 源 機 器 直焚吸収冷温水発生機（80USRT）2基、蒸気ボイラー（250kg/h）2基、空冷チラーユニット（4.39USRT）プレート式熱交換器（86,000Kcal/h） 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 1㎡ 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換器（3台）

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
衛 生 設 備	排 煙 機 ロビー系統他 3 系統 3 台	排 煙 機 メイン展示室他 2 系統 4 台
	給 水 設 備 受水槽30m ³ (二槽式)、高架水槽12m ³ (二槽式)	給 水 設 備 空調用自動給水装置受水槽 5 m ³
	排 水 設 備 公共下水道に放流	排 水 設 備 公共下水道に放流
	消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	消 火 設 備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身 障 者 用 油圧式11人乗750kg	身 障 者 用 油圧式23人乗1,500kg
	荷 物 用 油圧式3,000kg	

■建設工事費

本 館	ロ ダ ン 館
建 築 3,802,838 千円	建 築 3,415,995 千円
外 構 397,162	周 辺 環 境 整 備 268,509
プ ロ ム ナ ー ド 173,300	
合 計 4,373,300	合 計 3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室 (114m²)

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週 3 ～ 4 日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室 (約20席)

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2 台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

ビデオコーナー (15席)

2 階に設けられており、開催している展覧会への導入部としての役割をビデオに行わせるというものである。企画展については展覧会ごとにビデオを作成し放映している。また会場構成が常設展を主体とする場合には、当館製作の郷土作家シリーズ (秋野不矩・北川民次・澤田政廣・芹沢銈介・曾宮一念・中村岳陵) や購入した美術シリーズの放映も行いたいと考えている。なお、ビデオの操作は一階にある学芸員室で行い、現在は自動でくり返し放映をしている。

レストラン (80席 198m²)

レストラン「エスタ」E S T A は、日本平ホテル直営のレストランで、ダッチコーヒー用のジャンボサイホンが設置してある。営業時間は10:00～18:00 (金、土、日は20:00まで)。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、1 階のエントランスホール内にある。静岡市内の書店 3 社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室 (7 室 1,777m²)

展示室は 2 階にあり、連続した 7 つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー (2 室 490m²)

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では、展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は、担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（12.5㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週土、日曜、祝日

10時30分～16時30分まで

2時間を限度

授乳室 開館日全て

10時～17時30分まで

（夜間開館日は20時まで）

■ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20mの天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアは、あらゆる角度から彫刻の鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1（98㎡）、展示室2（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの一側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の鋳造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（CD-ROM）検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

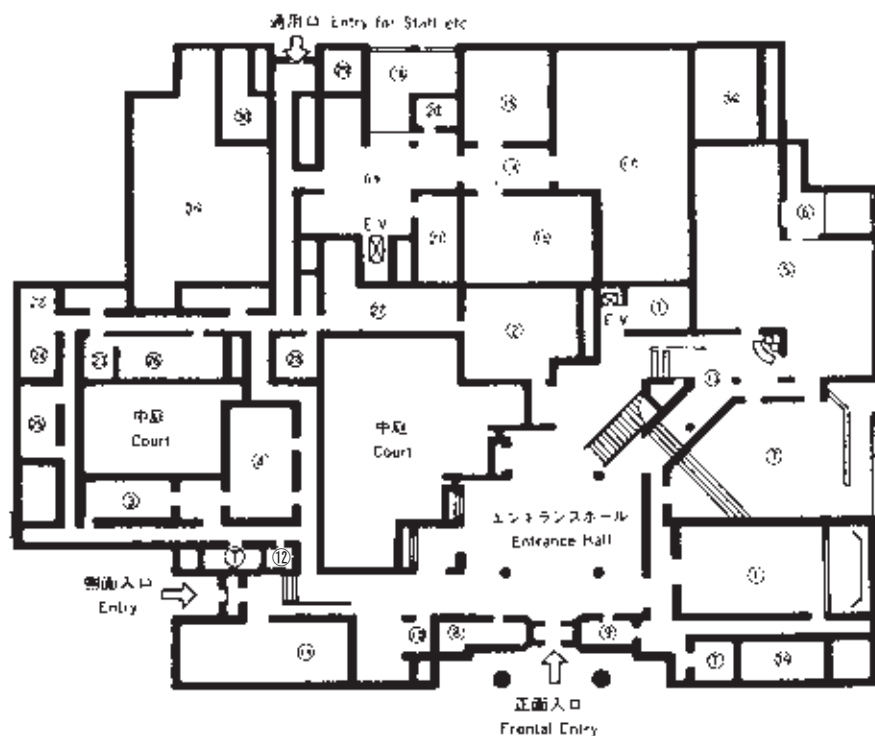
ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

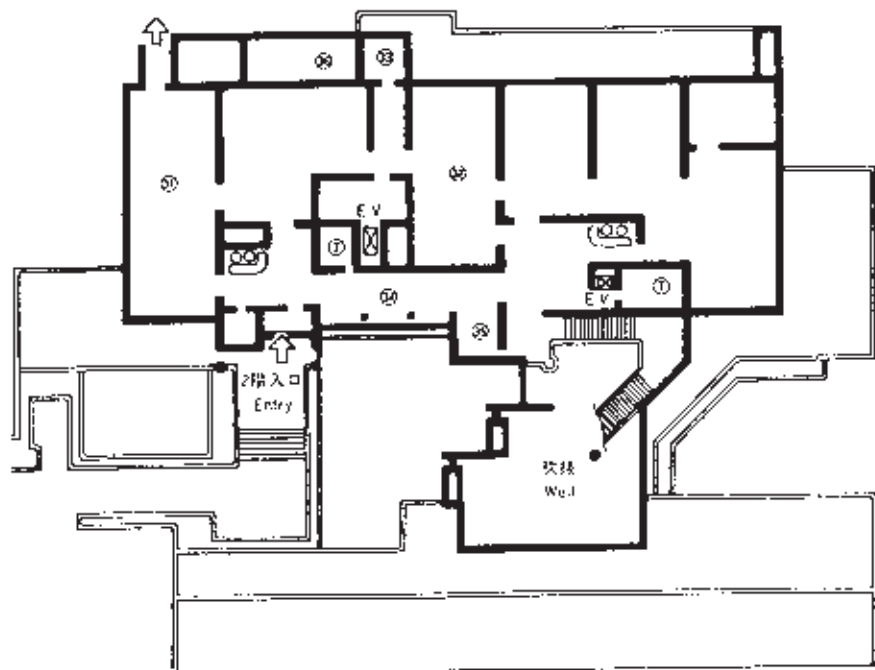
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ ミュージアムショップ Museum Shop

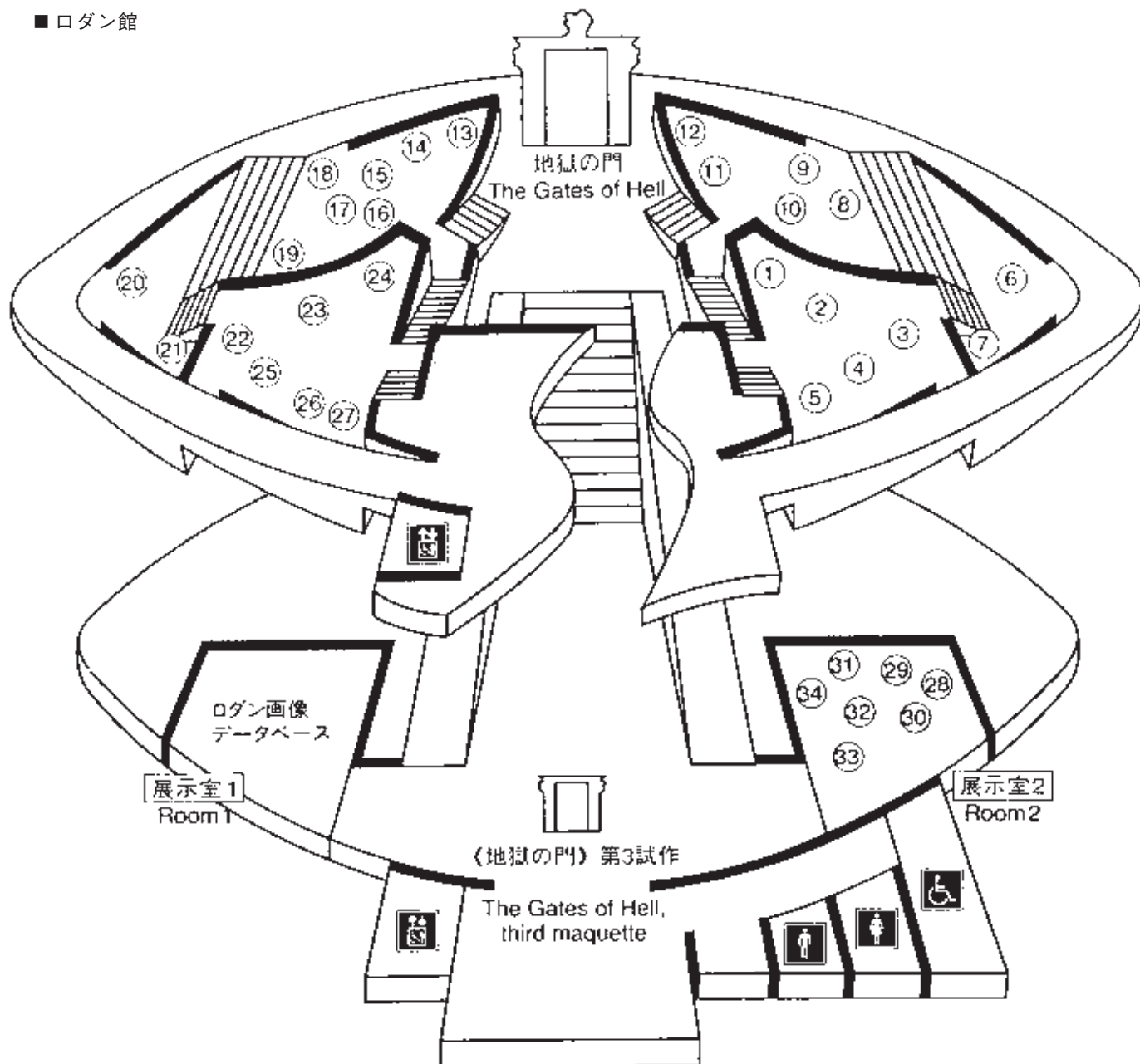
⑪ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫1 Storage(1)
- ⑯ 収蔵庫2 Storage(2)
- ⑰ 収蔵庫3 Storage(3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ロビー Lobby
- ㉟ ビデオコーナー Video Corner
- ㊱ 機械室 Machinery Room
- ㊲ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊳ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

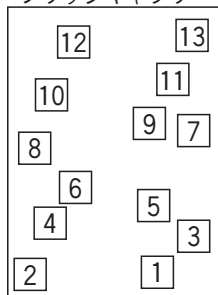
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 《カレーの市民》ビエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン＝ビエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン＝ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレーの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室2

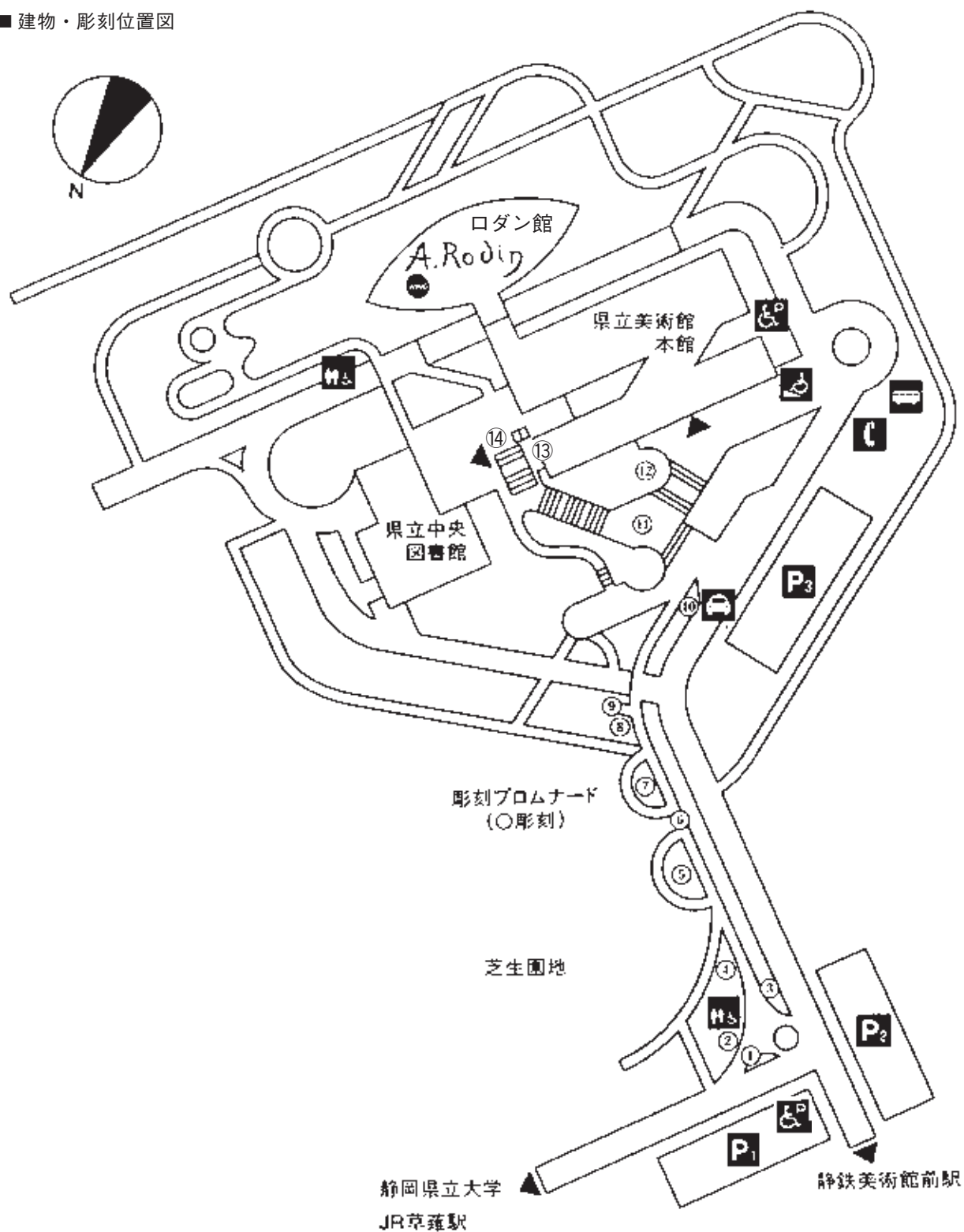
- ㉘ カルポー, J.B./ナポリの漁師の少年

- ㉙ カリエ＝ベルーズ, A.E./
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A./バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B./悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J./乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E./蛇使い
- ㉞ バリー, A.L./ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーガン, P./オヴィリ
- ② パルラッハ, E./読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H./横たわる人体
- ④ レームブルック, W./女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A./横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A./《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C./ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J./母と子
- ⑨ ロッソ, M./病める男
- ⑩ ブールデル, E.A./アポロンの首
- ⑪ ブールデル, E.A./ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A./《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C./波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークⅡ》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V－相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線－菱形Ⅱ》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

- 開館時間
午前10時～午後5時30分
（入館は午後5時まで）

[夜間開館]
NHK日曜美術館30年展開催期間中の毎週土曜日、午後8時まで開館（入館は午後7時30分まで）
- 休館日
毎週月曜日（但し、祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館）／年末・年始／その他展示替等のための休館日
- 収蔵品展覧料
観覧料／一般300円（団体200円）
／小・中・高生は無料

■企画展観覧料 *収蔵品展も合わせてご覧いただけます。

展覧会名	一般・大学	小・中・高生
ボックスアート	900円 <700円>	400円 <300円>
ヴェネツィア絵画のきらめき	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>
NHK日曜美術館30年展	1,100円 <900円>	500円 <400円>
大正シック展	900円 <700円>	400円 <300円>
名所絵の世界	800円 <600円>	400円 <300円>
ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展	1,200円 <1,000円>	600円 <500円>

*くゝ内は団体（20名以上）及び前売料金
（ ）内は団体（20名以上）料金
*70歳以上の方、または身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

施設使用料

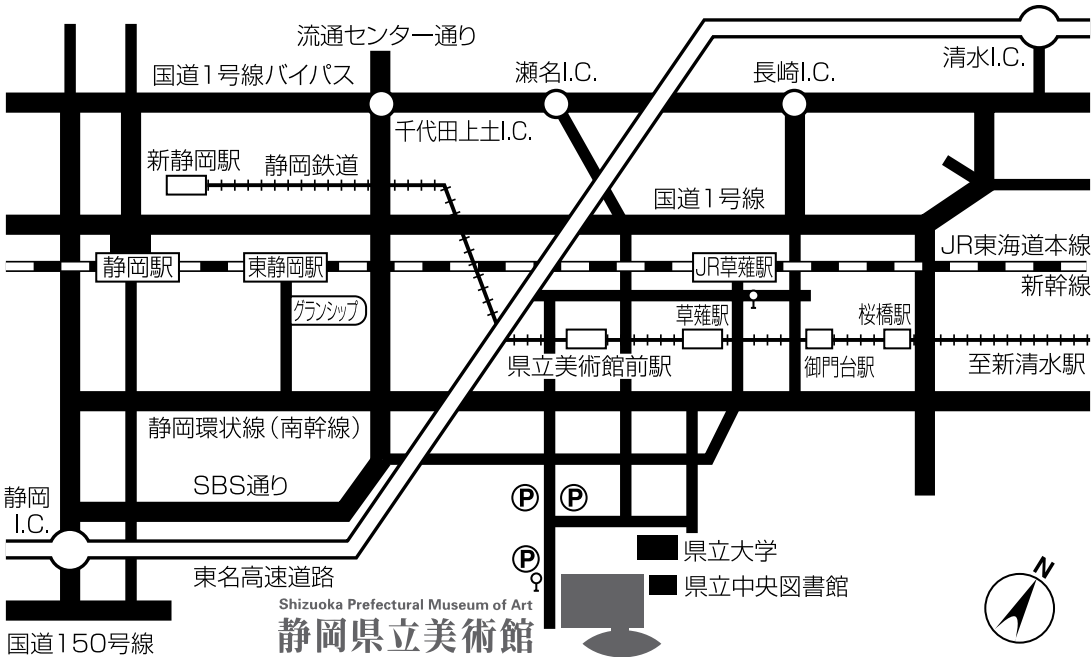
(1) 県民ギャラリー

利用区分		使用料 10時～17時30分
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午 前	午 後	全 日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内
JR「草薙駅」からバス「県立美術館ゆき」で約6分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分
JR「静岡駅」南口からタクシー約15分
美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
電話番号 総務課（TEL） 054-263-5755
〃 （FAX） 054-263-5767
学芸課（TEL） 054-263-5857
〃 （FAX） 054-263-5742
美術館友の会事務局 054-264-0897
ミュージアムショップ 054-264-8926
レストラン「エスタ」 054-262-4226





平成19年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263) 5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210



Annual Report of
Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2007

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co.,Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2008